

国際理解 第4号

1986



ヨハンシュトラウスの記念像

岡山県国際理解教育研究会

号 4 第 園 野 祭 隊 鞆

0891



昭和55年10月15日発行

会 発 育 婦 鞆 野 祭 隊 園 景 山 岡

岡山市立高松中学校

会長 西 崎 正 明

「国際理解」第4号の発刊となりました。本誌の内容は、海外日本人学校、補習授業校に勤務された方々の目から見たそれぞれの勤務国の一端です。

海外生活3年の経験を持たれた先生方の貴重な体験を生かそうと結成されたのが「帰国教師の会」現在の「岡山県国際理解教育研究会」で、6年前の昭和56年（1981年）です。その2年後、記録に残るものとして、本誌「国際理解」が発刊されるようになったと聞いています。

本年度、私は、会の結成、本誌の発刊と実績を残された三宅前会長から会長を引継ぎました。

私の海外経験は、昭和53年（1978年）にヨーロッパ6ヶ国の1ヶ月視察旅行と、昭和56年（1981年）から3年間のカルカタ（インド）日本人学校のものです。

ヨーロッパでは、「自主性」という

言葉を考えさせられました。日本の頭で考える自主性と、ヨーロッパ人達の長い歴史の中で培われた身についた自主性の違いです。

カルカタでは旅行でなく生活をしました。日本で知っていた知識と、生活をして得た知識の差に驚きました。そして帰国後もう一度関係の本などを読んで、その知識の深さを感じました。

昨今「国際性」「国際理解」等という言葉は日常用語となった感があります。その意味するものは何でしょうか。知識（文化）理解でしょうか、人間の持つ感性陶冶でしょうか、あるいはそのような事を考えることが間違いでしょうか、よくわかりません。

多数の日本人が世界各地に出かけ活躍をしています。こんなところにも日本人が、日本語がとびっくりすることがありました。子供達も親につれられて、世界各地で経験を積んでいます。一方外国の人達も多数日本で生活をし、



岡山県における在外日本人学校教員 派遣制度のスタートをふりかえって

岡山県立岡山養護学校

本会顧問 藤井 昭平

昭和46年日本が高度経済成長を続けている頃海外で活躍している日本人の子女を教育している日本人学校へ教員を派遣してくれるようにと国の方から要請がありました。

当時私は教育庁学事課でこの問題の担当を仰せつかり、さっそく既に教員を派遣しているいくつかの県に紹介してその実情調査を行い国の指導を受けながら準備を進めました。

当時の在外日本人学校の総数は30数校で派遣教員数も350名前後だったと思います。(昭和61年度：学校数…81校・教員数…1014人)

岡山県でも1年について2名ずつの派遣ということで実施計画を立てました。派遣教員の身分については現所属の学校の教員の身分のままで研修出張の形とすることとしましたが、いちばん困ったのは、財政担当の方から「海外の日本人学校の子どもの教育のために働く先生の給与をなぜ岡山県が負担しなければならないのか。」という意見が出てなかなかこの派遣制度に同意がいただけなかったことです。私たちは「海

外の日本人学校で貴重な研究や体験を積んだ先生方がやがて帰国して岡山県の教育界で国際性豊かな感覚をもって教育をしてもらうことになるので、これは岡山県の教育の充実発展に大いに役立つことだ。どうか長い目で見てほしい。」と言ってねばり強く説得しやっとな了解をとりつけました。

このようにして、昭和47年度、岡山県からの第1回派遣者として、西ドイツへ三宅正勝先生、ベルギーへ南井滋野先生を送りました。その後も毎年度2名ずつの派遣が続きましたが、昭和53年度から派遣教員の給与が全額国庫負担ということになり、派遣人数を大幅にふやすことができるようになりました。

やがて3年間の勤務を終えて次々に帰国された先生方が県下各地で海外の教育事情について講演をされたり、体験記を出版されたり活発な活動をされるようになりました。とりわけ、新しく派遣される先生方へのアドバイスという点では親身で適切な指導者となっただけではありませんでした。

私達の身近かにも見受けられるようになり
ました。

いろいろな機会に世界を垣間見ること
ができます。できるだけ機会をとら
えて世界を自分の目で肌でたしかめ、

見聞を広めることが必要なでしょう。

そして、本誌のように、目で見えたも
の、身体で感じたものの貴重な体験を
記録に残し多くの人達に紹介をしてゆ
きたいものです。

も く じ

| | | |
|-------------------------|------------|----|
| ごあいさつ | 西崎正明 | |
| 派遣制度のスタート | 藤井昭平 | |
| 海外日本人学校派遣者名簿(帰国者) | | 1 |
| 現派遣者名簿 | | 2 |
| 役員一覧 | | 3 |
| 【正会員】 | | |
| 修学旅行 | 熊代剛士 | 4 |
| 初めての海外生活から学んだこと | 乗峯憲悟 | 6 |
| テグリスとユ-フラテスの狭にて | 市原誠二 | 11 |
| ベレ-ンの思い出 | 莉田治 | 13 |
| アルジェリア社会の基本的特徴 | 垣見憲治 | 16 |
| アルジェリアの伝統工芸～見てある記やっである記 | 垣見益子 | 23 |
| 中華民国滞在3年間を終えて | 浅尾豊 | 43 |
| 「国際理解」をめざす「台湾郷土史クラブ」の活動 | 岡本利和 | 60 |
| 子供のための「ライン河物語」 | 三宅正勝 | 66 |
| ガーニ-ドライブ | 安部町江 | 79 |
| リスト博物館 | 三宅詠子 | 85 |
| マカオ巡回指導 | 村瀬俊一 | 87 |
| 「閑話帳」日本人学校 | 井関繁孝 | 90 |

この状況を見ていて私は個人としてだけでなく、帰国された先生方が一つの組織を持って活動してくだされば効果もいっそう大きいのではなからうかと考えて、第1回の三宅先生等をお願いし、そのお骨折りでこの研究会が誕生したわけです。

会員の数も50名を越え、また、県下の学校、教育行政機関等で活躍しておられる様子を見聞きするにつけ、当初財政担当の方に説明したことがりっぱに現実となったと嬉しく心強く思っている次第です。会員の先生方の今後一層の活躍を期待してやみません。

【現地だより・帰国子女・その他】

| | | |
|---------------------|------|-----|
| ロンドンより | 難波朱美 | 91 |
| 国際交流の場としてのシドニー日本人学校 | 赤木寛 | 92 |
| 「台湾に来て」 | 西岡忠 | 94 |
| 「ドイツの小学校にて」 | 田中絃子 | 96 |
| 岡山県帰国子女の会「桃太郎」 | 大谷裕子 | 98 |
| 海外帰国教師と国際理解教育 | 三宅正勝 | 100 |
| 海外日本人学校：派遣教員の心得 | 沼本泰知 | 101 |
| 国際フィルム鑑賞会御案内 | | 105 |
| 気苦労しました：国際フィルム鑑賞会 | 黒田忠男 | 106 |

【アンケート】

| | | |
|-------------------|--|-----|
| アンケート「国際理解教育とは何か」 | | 109 |
| 岡山県国際理解教育研究会々則 | | 112 |
| 第10回海外派遣教師の集い（総会） | | 113 |
| はじめのいっぽ（山陽新聞より） | | 114 |
| 総会風景 | | 117 |

岡山県海外日本人学校派遣者名簿【帰国者】(昭和61年4月1日)

| No. | 年度派遣先 | 派遣時名 | 派遣期間 | 氏名 | 現勤務先 | ▽TEL 現住所 |
|-----|----------------------|------|----------------|-------|----------|--|
| 1 | 47 デュッセルドルフ | 教諭 | 47.4.1~50.3.31 | 三宅正勝 | 岡山・岡北中 | ▽700 0862-773-6898 岡山市高屋116-9 |
| 2 | 47 56 リマ マドリッド | 教諭 | 47.4.1~50.3.31 | 南井滋野 | 倉敷・茶屋町小 | ▽708 0863-21-2183 玉野市宇野 8-34-11 |
| 3 | 48 バリ | 教諭 | 48.4.1~51.3.31 | 田村芳倫 | 津山・広野小 | ▽708 0862-4-1740 津山市北瀬町 25-13 |
| 4 | 48 バリ | 教諭 | 48.4.1~51.3.31 | 田村加代子 | 津山・高倉小 | ▽708 0862-4-1740 津山市北瀬町 25-13 |
| 5 | 49 ナイロビ | 教諭 | 49.4.1~52.3.31 | 馬場俊晴 | 牛窓町教委 | ▽703-03 0863-34-3547 邑人部牛窓町教委 |
| 6 | 49 ニューデリー | 教諭 | 49.4.1~52.3.31 | 松内義昌 | 総社・阿谷小 | ▽703-03 0864-33-1556 総社部早島町早島 99-40 |
| 7 | 50 モスクワ | 教諭 | 50.4.1~53.3.31 | 武泰稔 | 岡山県教委 | ▽701-01 0862-93-5165 岡山市宇野 902-5 |
| 8 | 50 モスクワ | 教諭 | 50.4.1~53.3.31 | 武芳子 | 岡山・第一藤田小 | ▽701-01 0862-93-5165 岡山市宇野 902-5 |
| 9 | 51 リオデジャネイロ | 教諭 | 51.4.1~54.3.31 | 高橋典男 | 津山教育事務所 | ▽708 0862-2-5314 津山市上之町 5-161 |
| 10 | 51 テヘラン | 教諭 | 51.4.1~54.3.31 | 岡本篤子 | 退職 | 在 ニューゼーランド |
| 11 | 52 アテネ | 教諭 | 52.4.1~54.3.31 | 徳田真人 | 高梁・津川中 | ▽716 0862-2-4362 高梁市津川合津 259-2 |
| 12 | 52 台北 | 教諭 | 52.4.1~55.3.31 | 岡本利和 | 岡山・桑田中 | ▽703-02 0862-98-2508 岡山市台根 897-8 |
| 13 | 53 ジャカルタ | 教諭 | 53.4.1~56.3.31 | 小坂田孟 | 岡山・津島小 | ▽700 0862-53-9430 岡山市宇南町 2-3-35 |
| 14 | 53 カラチ | 教諭 | 53.4.1~56.3.31 | 藤木靖史 | 津山・鶴山中 | ▽708 0862-3-0678 津山市南新座 86 |
| 15 | 53 サンパウロ | 教諭 | 53.4.1~56.3.31 | 岡本淑明 | 岡山・福田中 | ▽700 0862-41-2782 岡山市岩新田 107-22 |
| 16 | 53 モスクワ | 教諭 | 53.4.1~56.3.31 | 小澤定子 | 岡山・南輝小 | ▽700 0862-63-3574 岡山市桑葉町 2-26-2 |
| 17 | 54 北京 | 教諭 | 54.4.1~57.3.31 | 黒田忠男 | 岡山・加茂小 | ▽701-12 0862-84-3307 岡山市梅谷 4-3 |
| 18 | 54 カラカス | 教諭 | 54.4.1~57.3.31 | 赤坂英二 | 岡山・岡南小 | ▽704 08694-3-8794 岡山市金園西 607-5 |
| 19 | 54 ワルンツァフ | 教諭 | 54.4.1~57.3.31 | 村瀬憲正 | 岡山・旭中 | ▽701-11 0862-24-3418 岡山市旭井 1224-16 |
| 20 | 54 ペナン | 教諭 | 54.4.1~57.3.31 | 安部町江 | 和氣・石生小 | ▽709-04 08693-2-0092 和氣部和氣町 311 |
| 21 | 54 ジャカルタ | 教諭 | 54.4.1~57.3.31 | 井関繁孝 | 双総合文化セ | ▽701-11 0862-54-7414 岡山市高原南三ノ宮 298-33 |
| 22 | 55 コロンボ | 校長 | 55.4.1~58.3.31 | 沼本泰知 | 岡山・平福小 | ▽708 0862-73-9077 岡山市赤坂台 11-2 |
| 23 | 55 高雄 | 教頭 | 55.4.1~58.3.31 | 浅尾豊 | 寄島・寄島中 | ▽714-11 08656-3-0287 小豆部久須岡本町 442 |
| 24 | 55 台北 | 教諭 | 55.4.1~58.3.31 | 大本春美 | 岡山・丸之内中 | ▽700 0862-53-1020 岡山市歌元町 14-37 |
| 25 | 55 プカレスト | 教諭 | 55.4.1~58.3.31 | 友保正彦 | 岡山・御休小 | ▽709-08 086928-4977 岡山市東平島 1403 |
| 26 | 56 カルカタ | 校長 | 56.4.1~59.3.31 | 西崎正明 | 岡山・藤田中 | ▽709-11 0864-28-6130 倉敷市茶屋町 161-1 |
| 27 | 56 香港 | 教頭 | 56.4.1~59.3.31 | 村瀬俊一 | 倉敷・琴浦中 | ▽718 0864-77-5700 倉敷市児田の口 5-5-43 |
| 28 | 56 ウィーン | 教諭 | 56.4.1~59.3.31 | 大山裕一 | 岡山・妹尾小 | ▽701-01 0862-53-1598 岡山市榑川 1438-9 |
| 29 | 56 ソウル | 教諭 | 56.4.1~59.3.31 | 鈴木秀樹 | 岡山・妹尾中 | ▽701-01 0862-75-0536 岡山市成園 215 |
| 30 | 56 カラカス | 教諭 | 56.4.1~59.3.31 | 杉山哲郎 | 中央町・厚生小 | ▽700 08682-2-2515 津山市幸町 25 |
| 31 | 57 シカゴ | 教諭 | 57.4.1~60.3.31 | 鈴井清 | 岡山・福兵小 | ▽701-02 0862-61-4552 岡山市東庄 242-6 |
| 32 | 57 リオデジャネイロ | 教諭 | 57.4.1~60.3.31 | 今井史苗 | 倉敷・倉敷西中 | ▽719-02 086544-4379 津口郡岡方町深田 2507 |
| 33 | 57 リオデジャネイロ | 教諭 | 57.4.1~60.3.31 | 守屋俊憲 | 井原・井原小 | ▽710-11 08669-8-1632 吉備郡佐治町 二万 1749 |
| 34 | 57 ウィトリア | 教諭 | 57.4.1~60.3.31 | 内藤光啓 | 総社・総社北小 | ▽719-11 08669-3-4850 総社市三輪 1030-3 |
| 35 | 57 メキシコ | 教諭 | 57.4.1~60.3.31 | 寺脇政富 | 倉敷・新田中 | ▽710 0864-25-6664 倉敷市浜の茶屋 2-1-10 |
| 36 | 57 リマ | 教諭 | 57.4.1~60.3.31 | 安達忠巳 | 大畑町・大畑中 | ▽708 08677-2-8807 新見市新見 701-1 |
| 37 | 50 台北 | 教諭 | 50.4.1~53.3.31 | 藤原勝彦 | 岡山中・高枝 | ▽700 0864-25-1429 倉敷市浜の茶屋 2-7-10 |
| 38 | 52 ペナン(現探) | 教諭 | 52.4.1~53.3.31 | 浦上典江 | 岡山大学 | ▽700 0862-26-3271 岡山市番町 2-3-2-60 |

| 座 | 年度・派遣先 | 派遣時名 | 派遣期間 | 氏名 | 現勤務先 | 現住所 |
|----|-----------|------|-----------------|------|--------|--|
| 39 | 58 北 京 | 教 頭 | 58.4.1.~61.3.31 | 熊代剛士 | 岡山：芳泉中 | 〒701-12 0888-64-2082 岡山市上 618-4 |
| 40 | 58 ベレ ン | 教 諭 | 58.4.1.~61.3.31 | 菊田 治 | 久米：飯岡小 | 0888-23-7885 津山市山北 893-2 |
| 41 | 58 ラ エ ス | 教 諭 | 58.4.1.~61.3.31 | 秋本賢治 | 釜岡：瀬島小 | 〒709-08 0888-5-3111 赤松郡山陽町山陽町8-6-19 |
| 42 | 58 シンガポール | 教 諭 | 58.4.1.~61.3.31 | 梁峯憲悟 | 勝央：植月小 | 〒708-11 0883-28-6829 津山市高野本郷 1259-0 |
| 43 | 58 パ リ | 教 諭 | 58.4.1.~61.3.31 | 柴山 勲 | 岡山：雲山中 | 〒719-11 0888-8-8785 岡山市門田 249-123 |
| 44 | 58 アルジェ | 教 諭 | 58.4.1.~61.3.31 | 恒見憲裕 | 玉野：山田中 | 〒708-01 0883-71-0879 玉野市湊 349-1 |
| 45 | 58 バグダッド | 教 諭 | 58.4.1.~61.3.31 | 市原誠二 | 岡山：東山中 | 〒701-18 岡山市門前 291-5 |

現 派 遣 者 名 簿

(昭和61年4月1日)

| 座 | 年度・派遣先 | 職名 | 氏名 | 在籍校 | 職名 | 期 間 |
|----|-------------|-----|-----------|---------|-----|------------------|
| 1 | 59 クワラルンプル | 教 頭 | 増 田 節 男 | 岡山：東山中 | 教 頭 | 59.4.1.~62.3.31. |
| 2 | 59 コタキナバル | 教 諭 | 尾 崎 達 | 岡山：御野小 | 教 諭 | 59.4.1.~62.3.31. |
| 3 | 59 パンコク | 教 諭 | 船 曳 文 洋 | 岡山：岡輝中 | 教 諭 | 59.4.1.~62.3.31. |
| 4 | 59 北 京 | 教 諭 | 渡 辺 光 | 岡山：桑田中 | 教 諭 | 59.4.1.~62.3.31. |
| 5 | 59 カラカス | 教 諭 | 難 波 勢 津 子 | 津山：弥生小 | 教 諭 | 59.4.1.~62.3.31. |
| 6 | 59 ジ ャ ッ グ | 教 諭 | 神 田 進 | 津山：広野小 | 教 諭 | 59.4.1.~62.3.31. |
| 7 | 60 ロンドン | 教 諭 | 難 波 朱 美 | 和気：佐伯小 | 教 諭 | 60.4.1.~63.3.31. |
| 8 | 60 デュッセルドルフ | 教 諭 | 高 木 直 美 | 倉敷：倉敷西小 | 教 諭 | 60.4.1.~63.3.31. |
| 9 | 60 クワラルンプル | 教 諭 | 岡 本 善 弘 | 倉敷：中庄小 | 教 諭 | 60.4.1.~63.3.31. |
| 10 | 60 ブエノスアイレス | 教 諭 | 佐 川 慶 三 | 倉敷：琴浦中 | 教 諭 | 60.4.1.~63.3.31. |
| 11 | 60 高 雄 | 教 諭 | 西 岡 忍 | 玉野：玉 中 | 教 諭 | 60.4.1.~63.3.31. |
| 12 | 61 シドニー | 校 長 | 赤 木 寛 | 岡山：福浜中 | 校 長 | 61.4.1.~64.3.31. |
| 13 | 61 モスクワ | 教 頭 | 土 屋 丹 | 岡山：中山中 | 教 頭 | 61.4.1.~64.3.31. |
| 14 | 61 香 港 | 教 諭 | 阿比留 博 | 岡山：妹尾小 | 教 諭 | 61.4.1.~64.3.31. |
| 15 | 61 ベレ ン | 教 諭 | 横 山 福 水 | 岡山：岡輝中 | 教 諭 | 61.4.1.~64.3.31. |
| 16 | 61 テヘラン | 教 諭 | 根 葉 健 児 | 備前：備前中 | 教 諭 | 61.4.1.~64.3.31. |
| 17 | 61 台 北 | 教 諭 | 金 澤 隆 | 真備：鷹 小 | 教 諭 | 61.4.1.~64.3.31. |

役 員 一 覧

【 願 問 】

| | |
|-------------------|-------------|
| 岡山県立岡山養護学校長 | 藤 井 昭 平 先 生 |
| 岡山県立玉野光南高等学校長 | 三 澤 和 昭 先 生 |
| 岡山県立総社南高等学校長 | 植 木 利 男 先 生 |
| 岡山県教育センター所長 | 幾 田 尚 先 生 |
| 岡山県教育委員会学事課長 | 西 山 進 先 生 |
| 岡山県教育委員会教育振興室企画主幹 | 小野田 昌 三 先 生 |

【 役 員 】

| | | |
|--------|---------|-------------|
| 会 長 | 西 崎 正 明 | 岡山市立高松中学校 |
| 副 会 長 | 小坂田 孟 | 岡山市立津島小学校 |
| 幹 事 | 高 橋 典 男 | 津山教育事務所 |
| 幹 事 | 黒 田 忠 男 | 岡山市立加茂小学校 |
| 幹事(事務) | 井 関 繁 孝 | 岡山県総合文化センター |
| 幹 事 | 赤 坂 英 二 | 岡山市立岡南小学校 |
| 幹事(会計) | 大 本 春 美 | 岡山市立丸之内中学校 |
| 幹 事 | 寺 脇 政 富 | 倉敷市立新田中学校 |
| 幹 事 | 垣 見 憲 治 | 玉野市立山田中学校 |
| 幹 事 | 岡 本 利 和 | 岡山市立桑田中学校 |
| 監 査 | 沼 本 泰 知 | 岡山市立平福小学校 |
| 監 査 | 三 宅 正 勝 | 岡山市立岡北中学校 |

正 会 員

修学旅行（北京日本人学校）

北京日本人学校（中華人民共和国）

岡山市立芳泉中学校

熊代剛士

北京日本人学校の修学旅行は、4泊5日と長い。デラックスと言いたところだが、少々異論がある。

まず、火車（汽車）。軟座（寝台車は軟臥）～一等車輦、硬座（寝台車は硬臥）～二等車輦というのがある。軟座は非常に数が少く、外国人旅行者、中国人の幹部連中が独占し、一般中国人はなかなか乗れない。日本人学校の子供達も家族旅行は軟座を使うが、修学旅行は硬座である。小学校5、6年生と中学生全部が修学旅行に参加するので総勢50人程になる。硬座は文字通り硬い。通路は中国人乗客でいっぱい。冷房車などめったになく、小さな扇風機が申し訳なさそうに回っているが、汗だくだくの旅となる。広い中国だから車中24時間とか36時間の旅はザラだから、食堂車は必ずついている。修学旅行でも、駅のプラットフォームでパンを買いか、食堂車に行くのだが、その食器に問題がある。取り皿と箸がまず出るが油でぬるぬる。料理が来るまでティッシュペーパーで皿・箸を綺麗にするのが食前の仕事となる。

「ティッシュペーパーがこんなに黒くなった。」

「ぼくの方が黒いよ。」

これが食前の会話である。子供達がたくましくなるのが目に見える。中国の名誉のために一言付記するが、食事それ自体は美味しい。き、と食器の洗剤がまだ普及していないのだと思う。汚れは大した問題でないのかも知れない。

修学旅行には小学校5年生以上、中学3年生までが行くことと、保護者の任期がほぼ3年ぐらいであることから3年間で一巡するローテーションを組み目的地を3か所決めている。1つは太原・石家庄-北京の西、西安との中間ぐらいに位置する都市である。次の年は泰山・曲阜-北京の南に位置し、孔子生誕の地である。さらに次の年は呼和浩特・大同-北京の北、内モンゴルの大平原である。

昭和60年度は、フホト・大同の番であった。運賃が大差ないので飛行機をチャーターしてはと提案したが、運営委員会で危険度が高いと言われてオジャンになった。日航の支店長も同意見だったので納得した。

北京駅に夕方5時に集合、駅前には人また人でごった返している。大きな荷物にもたれて坐り込んでいる人、寝具

を丸めて持っている人、ちょうど終戦後の岡山駅と似ている。日本人学校の子供達が整列するとたちまち人の輪、
「你們是日本人嗎？」(アナタ達は日本人デスカ?)

「對。」(イエス)

と言った感じ。中国人は底ぬけに子供が好きなのだ。

いよいよ出発。火車は例によって硬臥。カーテンなしの三段板ベッド。むんむんするひといきれの中で、いつの間にか眠る。朝8時大同に到着。いったん休息の後、この旅行の目玉の一つ雲崗石窟を見学、北魏の時代からの石像が山を削って刻まれ、あまりの大きさに呆然。

再び火車に乗って内蒙古自治区の呼和浩特市(フフホト)に着く。呼和浩特市に宿泊の予定が変更されていて招待所へ。招待所という名前はよいが実は三流で外人専用の賓館とは相当差が。バスの代用でシャワーがついているが水が出ない。岡山出身の気鋭〜渡辺 光教諭が中国語を駆使して交渉するが「ワタシノ責任デハアリマセン。」いつもの奇任回避型の答弁に、渡辺先生も「チバケルナ！」と遂に岡山弁で応酬する幕もあった。

翌日はバス2台をチャーターして大草原へ。ところが出発してみると子供達の中に見知らぬ婦人(残念ながら相当の年増)。運転手の知人とかで平然

と乗って行く。何10Kmの大草原の道だから捨ててはいかれないから、気になりながら気にしないで延々と行く。

道なき大草原を走っていくところどころに石の墓がある。オボと呼ばれ大草原を通行するための目じるしである。これが無ければ見渡す限りの大草原、どうにもならないだろう。

蒙古大学へ派遣されて来ている日本人教授と包(内蒙古族の住居)で話を聞いたが、モンゴル族は、遠い石墓の上に止まっている鳥を見分けることができるそうである。夜目・遠目が得意だそうであらやましい。

夕食は羊の丸焼き、野菜いじめにもスープにも羊肉が入っている。好き嫌い言うてはおられないから、全員むしゃぶりつくが、2日3日と続くと羊の臭いが鼻についてきて、日本製のふりかけなどが人気を増す。

この草原でキャンプファイヤーを計画した。「教頭先生、それは無理ですよ。木がないのですから。」「しかし、石炭があるではないか。」「はあ。」と半信半疑の答え。実際この地方は山肌を掘れば石炭が出るし、無煙炭なので結構いけると思った。いよいよキャンプファイヤー。まるでプラネタリウムの中に居るような満天の星。はるかな地平線の丸みまでの星屑がはきりと冴えて見える。燃料はと見るとレンガのようなものが重ねてある。羊のふんを

初めての海

シンガポール
勝田町立植月
乗 峯



を固めたものだそうで、乾燥し切っている。モンゴル族の子供が草原のあちこちかごを抱えて素手で拾っているのを見かけたが、ここでは、羊ふん・牛ふん・馬ふんが貴重な燃料である。

火の神が語る、「日本人、いや世界中の君達の友人は幾万人いるとしても羊のふんでキャンプファイヤーをした者は君達だけだ。見上げてみよう、星の数がこんなに多いことに今はじめて気づいた。このキャンプファイヤーと満天の星を私達の友情のきずなとしよう。」と。

呼和浩特は、中・ソ国境（正確にはモンゴル共和国）に近い。公園や並木の下で女性達が銃を打つ練習をしている。解放軍の車がやたらに多く目につく。この大草原のどこに国境線を引いているのか。どんな理由で引いたのか。この果てしない大草原に線引きの必要がどこにある。モンゴル族は、ゆうゆうと牛を追い、馬を追っているのに、得難い経験を積み、壮大な気宇と友情を培う修学旅行であった。

外国に住むということが一人の人間の見方、ものの見方をこれほどまでに変えるものなのだろうか。たった一つの国に住むだけでこのうなたから、たくさんの国に住んでみることは、人生をより豊かにしてくれるに違いない。と私は思う。

私は、ある会で挨拶に立った人が長い話の最後に「たくさんの方が外国旅行に行きますが、誰も、『日本が一番いい』』というのを耳にします。そうです。日本が一番いい国なんですよ。」と言われたのを、日本に帰国してから聞いた。決して日本は悪い国ではない。ただ、世界にはいろんな国々があり、そこで多くの人々が様々な生活習慣や自然環境・政治形態のもとで暮らしており、世界の中で日本が一番いいというのは、日本人として、日本の国を思うのは勝手であるが、決して他国との比較で思っはいけない考え方だと思う。話は飛躍するかもしれないが、日本人は優れた民族であり、世界の盟主となるべき国であるというような戦前の考え方に相通じるのではないかと。

私は、日本のより多くの人が、単な

外生活から学んだこと

日本人学校

小学校

憲 悟

る海外旅行ではなく、現地に何年か住むという経験を積むべきだと思う。こういう人達が増えれば増えるほど、国際関係はうまくいき、ひいては日本自身もよりすばらしい国になっていくと思う。

さて、私の赴任したシンガポール。派遣されると決まった時の第一印象は遅れた国だ、暑い国だということであった。それまで、あまり耳にしたこともない国名であり、一つの国かどうかということも定かではなく、マレーシアの第二の都市かとも思っていた。

これが1月であるが、それから3月までの間、研修会に参加したり、本を



海上から見たビジネス街

読んだり、現地からの情報などから、意外と住みやすい国なのだということが分かりかけてきた。そして、そこで暮らした3年間を経て、シンガポール

はすばらしい思い出を作ってくれた国になったのである。

私達日本人の多くは、東南アジアについてもっと勉強し、知識を増やすべきである。なぜならば、そこに住む人々は、太平洋戦争では日本から多くの被害をもたらされ、現在でも、日本に対する関心がわれわれの予想以上に強いからである。この意味で、派遣された国がヨーロッパ・アメリカ等の国々でなかったことに感謝している。

まず、毎日の気候であるが、赤道近くということで、四季はもちろんない。そして、年中暑い日が続いて湿気も多い。しかし、家の作りが根本的に違うこと、海洋性気候であり、年間を通じて風があることなどから、クーラーを使うことはめったになく、日本の夏よりもはるかにしのぎやすい日々であった。

12月～2月ごろは軽い雨季になり、雨が多く、肌寒いように感じる(気温は26℃前後)日も多くあった。四季があることは確かに変化があり、魅力はあるが、そうでない国でも、衣替えの必要はない、特に南の国では衣服に金がかからない、家の作りが簡単でいいなどいくらでも利点はある。

1965年独立ということで、建国以来20年余りの若い国であるため、今、さかんに国づくりが行われている印象

が強く、日々の変化も目を見張るものがある。そして、淡路島とはほぼ同じ面積という小国家でもあり、国の政策を浸透させやすいのか、計画的な国づくりが着々進行しているという感を受ける。

クリーンアンドグリーンという言葉がある。清潔で豊かな国にしようということである。ほとんど全土にわたり、緑ばかりでなく色とりどり（勝手に植えているのではなく、色の組み合わせをしてある）の花も咲き乱れ、道路はまさしく緑のトンネルである。街並も緑の中にビルがうもれている感がある。島の中心部は、ビルが乱立しており、それは岡山の比ではない。また、街灯・信号横断歩道等も整備され、日本の交番制度も取り入れられていたが、治安面でもまず問題がなかった。

田舎に行くと、日本の農村によく似た風景があちこちに見られたが、ここはここで、のんびりと気ままな（暑い国であり、そうあくせくする必要があるかという印象）生活ぶりが感じとられた。ただ、こうした田舎は、中心地域（島の南部）では、ほとんど見られなくなっている。

車は、日本車が圧倒的に多く、またその台数も、中心部ではよく渋滞するほどたくさん車の車がひしめいていた。道路は、完璧と言っていいぐらいに整

備されており、実に走りやすかった。片側4車線という道路も少なくなく、しかも、幹線はすべて完全な一方通行であった。日本人学生の教員もほとんどが車を持っていた。しかし、バス・タクシーもその数、運賃とも使いやすくなっており、公共の輸送機関も日本よりはるかに便利であった。

食べ物に関しても、肉・魚・野菜・米・菓子等、すべての面でまったく不自由しなかった。シンガポールの自給率は、鶏卵・豚肉を除いてほとんど0%となっている。これがいいか悪いかその判断は別として、自給率0%というのに、ものはあふれかつ安価であるというおもしろい国であった。

日本食品も、私達がいた3年間に見る見る充実して、3年目は何一つ手に入らないものはなかったが、慣れていくと、現地の人達が使うマーケットにもよく行った。そこでは、あらゆる物（食料品・衣類・薬品 etc）が、新鮮で安く（と言っても、現地の人達から見れば、普通の値段かもしれない）手に入った。こういうマーケットは、少し大きい団地には必ず備えられていた。また、そこには、キャンテーンと呼ばれる大衆食堂（日本の食堂とはまったく違い、広い屋根つきの市場という感じ）があり、ここでもまた安く食事ができた。例えば、ラーメン（たくさ

んの種類があった)は、日本円で約100円から150円。コーヒー・紅茶・ジュース・コーラの飲み物は、一杯50円前後であった。このキャンティーンは、マーケットばかりでなく、街中のいたるところ、人の集まるところにはすべて設けられ、私達もよくその恩恵にあずかった。

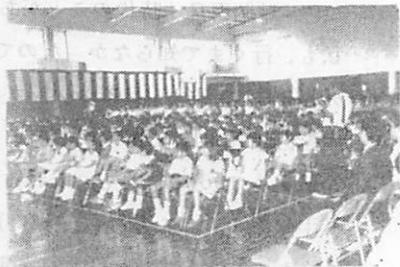
住まいの方だが、これは、外国人や金銭的に豊かな階層の人が集まるところに住んでいたのも、一概にその善し悪しは言えないが、その概略を紹介してみると、ガードマンのついた、プール・テニスコートもあるアパートに最後の1年いた。初めの2年は、庭付きの2階家(長屋づくり)にいた。条件的には、はるかにアパートの方が良かったが、現地の人達との付き合い、現地の人の生活を知るという面では最初の方が良かった。ただ、最後の1年は、日本ではできないということを探したものである。

日本で経験できないことといえば、ウイスキー・ブランデーが安く飲め、ビールも世界各国のものを手に入れることができた。

また、飲酒運転も、当初は、事故を起こさない限り、泥酔状態でない限り罪にならなかった。ただ、これは少しずつ日本の考え方が導入され、私達が帰国する直前はまずダメになった。

さて、こうして、家に恵まれ、環境に恵まれ、日本人学校の子供達は、どういふ生活をしていただろうか。シンガポール日本人学校は、児童・生徒数約2000名、教職員数約100名の大規模校であり、設備面でも、各特別教室・LL教室・放送室など、また、冷房施設も完備され、日本でも考えられないものであった。在職中に、中学部が分離、独立したため、施設に余裕ができすばらしい環境になった。

子供達は、朝、小中合わせ56台のスクールバス(民間からの借り上げ)と、約100名の市バスとで登校している。授業は、各学年とも、週2時間の英会話が外国人を含んだ講師により行なわれる以外、まったく日本と同じである。ただ、水泳が年間通して実施されている。



日本人学校：小学部の入学式
年間、数百人が入れかわるのであるが、子供達は、温かく転入生を迎え入れており、日本で言われている「いじめ」「非行」は、まずなかった。

現地の状況は、日本よりはるかに毒

するものが少なくなく、子どもの成長にとっての環境は申し分なかった。(日本の何と刺激的なことか)。しかし、私達は十分な教育内容であると思っているにもかかわらず、中学生、小学校高学年あたりでは、進学問題が親の頭を悩ませていた。

全体的には、明るく、元気に、伸び伸びと個性豊かな子ども達が多かった。日本国内では、残念ながらあまり見られなくなった風景があった。また、若干の問題点(インド人マレーを軽く見てしまう)もあったが、多くの民族が暮らす多民族国家であるため、多民族の習慣に対して理解する機会も多く、国際性も身につけていた。

最後になるが、シンガポールと日本との関係で忘れてはいけないことの一つに、「昭南島」時代のことがある。私も、行くまで知らなかったのであるが、2月15日は、日本がシンガポールを占領した日であり、その後、5000人とも10000人とも言われる華人(中国系の人のことをこう呼ぶ)虐殺の始まる日でもあった。中国・朝鮮の侵略のことは曲がりなりにも伝えられてきたがシンガポールのことはまず耳にすることはなかった。しかし、シンガポールにおいては、日本人もよく行く観光地「セントサ島」に日本軍が侵入してきた経過や、日本軍がおこなっ

た様々な事実を映画・パネル・ろう人形などで今もきちんと伝えている。若い人はまだしも、老人の中には、日本に対して悪感情を抱いている人も少なくない。

この時代には、シンガポールの人達も多くの被害があったのは勿論、日本も何千人もの戦死者を出している。そして、15名の戦犯も出している。戦争が大きな傷あとを残している。

現在、シンガポールが日本による関心は、官民共に大きなものがある。これは単なる営利(もうけ)主義ではなく、文化・精神面でも深いものを持っている。

最初にもふれたが、私達日本人はもっともっと東南アジアに関心を持ち、日本としてのあるべき姿をさぐっていく必要があると思う。

シンガポールの3年間は、まことに有意義なものであった。



シンガポールの日本人墓地



チグリスとユーフラテスの峽にて

バグダッド日本人学校

岡山市立東山中学校

市原 誠 二

産油国、発展途上国、アラビアンナイト、そしてここ数年、新聞紙上をにぎわわしているイラン・イラク戦争。この程度しか知識がなかった私が、バグダッドに赴任が決定したのは、昭和58年の春のことでした。

大統領の名前をとったサダムフセイン空港に到着。空港内は勿論、街のいたるところに見られるサダムフセインの写眞は、バース党政権の威厳をみせているようでした。

荒涼とした土漠の大地の中で、熱風と土埃の臭いが鼻につき、灼熱の太陽に度肝を抜かれたものゝした。言語・風俗・習慣が全く異り、酷暑と乾燥に耐えながら、言論の制約に気を使う生活が始まったのは、今から思うと夢のような気がします。

「メソポタミア」とは、「二つの川にはさまれた土地」という意味だそうです。チグリス川とユーフラテス川は、国土の北西から南東にほとんど並んだまま流れており、バスラ市の北西クルナで合流して、ペルシャ湾に流れこんでいます。このメソポタミアに住んでいるイラク人は、およそ1500万人。

そしてそのうちの95%にあたる1400万人がイスラムを信じているといわれています。

ムハンドによって開かれたイスラムは「神に自己のすべてをもって従うこと。」を基本の理念としています。「すべて神のなすままに…。」という教えが現在もなおイラクのいろいろな生活習慣の中に流れているようです。

戦時下のイラクでは、不自由な生活を強いられているが、すべて神のなすままであり、あまり悲観的に考えることはない。市民生活も意外に活気があり、バグダッド市内は、「戦時中」というのに夜もらんらんと電気がつく。映画館は満員、中心街のラジッド通りやサドンストリートなどは、朝、夕方にかけて大変な人と車のラッシュになる。市民の服装も雑多だ。いわゆるアラブ風の服装は少なくなってきた。女性のアバヤ姿も少なくなってきた。原色のワンピース、首飾りにイヤリング、栗毛色に染めた髪、そんなヨーロッパ姿でさっそうと歩いている姿を見かけるようになってきた。

さて、日本からの進出企業は、数

年前は70社を数え、5000人を超す邦人が全土で活躍していた。しかし、イ・イ戦争のため、現在は約半数になっている。

バグダッドのほぼ中央にある日本人学校は、チグリス川のほとりにあり、現地採用教員2名を含めて9人の先生に児童・生徒約40名。先生と生徒が1対1で、あるいは、1対5～6人で授業。家族的で理想的な教育の場であったように思われます。

個人の大家宅を借りたこの学校は、在留邦人のオアシスとして、また、子ども達が日本語で自由に遊べる場として、大変楽しいところでした。ただ、時おりやって来る空襲警報（ほとんど登校時寸前の7時頃）。また、一度は学習発表会の最中に隣の軍施設から大きなサイレンが鳴りだし、土肝を抜かれたことがある。ミサイルがバグダッド市内の銀行や橋や私達の居住地近くに落ち爆破された時は大変にとまどい、校内のガラスに大使館からの好意により、テープを貼ったりしたことがある。子ども達には戦争の恐ろしさがよくわかったのではないかと思います。

戦場に運ばれていくバスの中の兵士達の目はさびしそうだったし、ドライブに出れば必ずといってよいほど、戦死者の棺（イラクの国旗で包まれたもの）を乗せた車を見かけたものです。



バビロン；アシュタル門の前にて

しかし、世界に誇るメソポタミア文明の地、遺跡を巡ねる楽しみは私達だけではなく、子ども達にも味わえたようです。修学旅行やクラブ活動で、ヘトラやバビロン、アガルグーフからクテシフォン、ウルやウルクへと走り回ることができたのもバグダッド日本人学校に勤務することができたからこそだと思います。

実に紀元前3500年ぐらいのウル・ウルクを中心としたシュメール文化から始まって、アッシリア期（前2000年～前800年）のニムルド・アガルグーフ。そして世界的に有名なバビロンやクテシフォン、シルクロードの隊商都市ヘトラと3年間で走り廻ること4000km。砂漠の中を東奔西走。あたりにも何も見えない砂漠の中にポツンと小高い丘が見える、これをテルというのだそうだが、その周囲を歩いてみるとレンガや土器が散在している。そんな場所を見つけたらまず間違いなく遺跡だとみてよい。いろいろな土器片が散らばっている。ただ残念なことに、

何百年という歳月を経ているので、その原型はほとんど姿を変えてしまっている。

現在イラクには国士館大学の藤井教授を隊長としたイラク古代文化研究所の人達が各地を発掘している。隊員の方々に親しくしていただくにつれ、古代の遺産に全く興味を持っていなかった自分も多少なり関心を持てるようになってきた。それまで、アテネの神殿のように見事な様子を残している遺跡がすばらしいと思いつけていたものが今では何の変化もない土漠の中にぽつんとあるテルに関心を持ちだしたものでした。

遠いのにしえの世界に思いをめぐらせ、なんとも言えないロマンチックな気持ちになることもたびたびでした。

夕方、街の中の中心のラジッド通りや、ニューバグダッドに集ってくる人々やチグリスに落ちる夕日をながめにやってくる人達に入りこんで、テッカやカバブを食べ、時にはシェラザードと名が書かれた小びんのビールを飲んでいると、周囲に漂う独特の悪臭さえ、かえって快く感じるものでした。

最後に、長びくイ・イ戦争が一日も早く終わり、明るい笑顔がイラクにあふれる日がやってくることを切望いたします。

ベレーンの思い出 ベレーン(ブラジル)

日本人学校
久米郡柵原町立飯岡小学校
菊 田 治



西経48度29分・南緯1度28分。アマゾン河の河口から、約150km上流。熱帯雨林気候に属し、一年中気温

は35度、湿度は90%を越えるベレーン市。人口約100万人。日本の面積の3.3倍を有するパラ州の都。建国以来370年。

1 出発～到着

派遣決定以来、あわただしい日を送り、いざ出発。ところが、岡山～東京の旅と2日間の東京泊で、すでに長男(9か月)は疲れから発熱。いったいこの先どうなることかと心配しました。

ヴァリグ航空でリオ・デ・ジャネイロまで一昼夜。機内では、ぐずる長男にあらかじめ用意しておいた睡眠薬を飲ませながら過ごしました。

リオ到着後、ベレーン行きの飛行機の出発まで12時間。とりあえず

フラミンゴ海岸にあるホテルで休憩、めずらしいはずのリオの街にも出ず、ベッドの上でやっと足をのびすことができ、みんなぐっすりと昼寝をしました。

このホテルで驚いたことは、風呂の水が真茶色だったことです。また、冷蔵庫に冷えていた水を出し、栓を開けて飲もうとすると、炭酸水。普通の水と炭酸水のピンの違いは、ラベルの色だけ、そこに書かれた文字も読めず。

夜10時半、リオから3時間あまり、ベレ-ン市の夜景が見えたときは、感激で胸がいっぱいになりました。

タラップに出たとたん、手のひらがじっとりとし、背中を汗が流れました。待合室で歓迎行事が行われましたが、暑くて暑くてこれでもクーラーがきいているのだろうかと思いましたが、出迎えの人達は寒くて寒くて… 数日後のPTA主催の歓迎会では、居並ぶ奥さん方の何と色の黒いこと。

2 アマニャン・ジ・マニャン

アマニャン・ジ・マニャン～ポルトガル語で「明日の朝」という意味です。ブラジルに住んで、真っ先に覚えたことばと聞いていいでしょう。それほどブラジル人がよく使うことばなのです。

では、いったいどんなときに使われるのでしょうか。赴任するとすぐに、住居を確保しなければなりません。ベ

レ-ンでは当時家具つきのアパートはほとんどありませんでしたから、家具や電気製品を買わなければなりません。その家具類を買ったときのことで

「いつ運んでくれますか」「アマニャン・ジ・マニャン」次の日の夜届きました。ベッドは組み立ててないので、「組み立ててください」「アマニャン・ジ・マニャン、別の者が来る。」また、洗濯機が届いたときは、梱包をとらずに掃りかけるので、取るように言う。「アマニャン・ジ・マニャン」梱包は解いてもらいましたが、使い方がわかりません。その説明にいたっては、「オートロ-ジ-ア(別の日に)」で、結局、説明には来ませんでした。

3 金銭感覚

もし、あなたが銀行で電気代を払ったとします。そのとき、おつりに端数があり、しかも、その端数を切り捨てられて差し出されたとしたら、いったいどのような感じを持たれますか。これは、もしもの話ではなく、ブラジルで現実に、そしてさらには日常行われていることなのです。

値切る、借金を返さない。家賃は決める。見ず知らずの人間に無心する。よく言えば、細かいところにこだわらない国民性なのでしょう。

中南米諸国は、高インフレの国が多いのですが、ブラジルも例外ではなく

私のいたときは、年間200%以上のインフレでした。日に日に対ドルレートが変わり、価値が下がるのも手伝ってか、細かい金額は用を足さなくなっていたのも原因の一つかも知れません。

生活に慣れてしまえば、払い込む方もジャレたもので、はじめから端数は切り捨てるようになりました。

4 ガランチード

作者名は忘れましたが、「アマゾンでは、日本人はガランチードと呼ばれた」というタイトルの本があります。ガランチードというのは、「保証された人、信頼できる人、確かな人」といった意味があります。では、どうしてそう呼ばれたのでしょうか。それは、裏を返してみればよくわかります。つまり、日本人以外はガランチードでないわけです。先にも書いたように、金銭問題については、非常にいいかげんだし、約束をしても守れないし、時間が決められていてもすぐに破ってしまうのです。ところが、日本人は、貸したお金は返してくれるし、家賃は毎月きちんと払う。もちろん移民した人達がしている農業においても、確かな作物を提供してくれるなど、言葉の通りガランチードだったわけですね。

しかし、二世三世がふえて来た今日、

一部ではあります、ガランチードにふさわしくない日系人がいるということも耳にもしました。でも、やっぱり日本人はガランチードと呼ばれているのです。

5 はずれだった新車

中兩米の先進工業国ブラジル。車はすべて自国生産で輸入禁止。メーカーは、ベンツ・フォード・GM・フォルクスワーゲンと世界でも一流の会社が名を連ねています。

ところが、製品はというと、ちょうど日本の20年ぐらい昔の頃あった当たりはずれがあるのです。

私は、GMのオペラという車を買いましたが、それがはずれ。ラジエーターとエンジンを結ぶパイプに穴があいていたり、水の調節弁がこわれたりしました。買ってすぐのときは、ウイドウォッシャー液とノズルを結ぶパイプに穴があいていました。エンジンも欠陥ということで、途中部品の交換してもらったことがありました。中でもいちばん困ったことは、見わたすかぎりのジャングルの中の道路で、急にエンジンが止ってしまったことでした。押しでもだめ、引いてもだめ。幸いだったことは、その道は比較的交通量が多いことと近くの町まで、ほんの10kmほどだったことです。

車を待つこと5分余り、1台の砂運搬のトラックが通りかかりました。それを止め、ロープで引っ張って町まで連れていってくれと頼み、一度は了解を得たのですが、肝心のロープが無く結局は荷台に乗せてもらい、砂まみれになりながら、町まで行きました。日曜日のことでどこのお店も休みだったのですが、1軒だけガソリンスタンドが開いており、そこで車の修理工を探し出してもらい、再びタクシーで車のところへもどりました。故障は、たった1本のコードが断線していただけでした。タクシー代と修理と合わせ、5000円足らずですみほっとしました。

6 帰国～その後

出発の時、熱を出した長男。やはり熱を出しての旅となりました。帰りはおまけがつき、私がハワイで、また、ブラジル生まれの二男が寒さのせいか発熱。熱に始まり、熱に終わった3年間となりました。

帰国後、日本のペースについて行けず、現在の職場で失敗ばかりしていましたが、ようやく、家族共々落ち着いた生活ができるようになりました。

海外で得た貴重な体験を生かし、いつの日か、再び日本を離れて生活することを夢見ながら、今後の教育活動に取り組んでいきたいと思っています。

アルジェリア社会の 基本的特徴

在アルジェリア日本国大使館
附属日本人学校(アルジェリア)

玉野市立山田中学校

垣 見 憲 治

1 はじめに



県教委を通じて、赴任国の内示があった時は、正直いって驚いた。仕事から、最低の事ぐらひは知

っていた積りではあったが、70余ある世界の日本人学校の中で、「まさか アフリカとは」と言うのが本音であった。アフリカでの生活の困難さもあったが、それ以上に余りにも日本と違いすぎるというのが最大の理由であった。さらに、欧米と比較して、情報量の貧弱さもめだつのである。これは既して、日本人全体について言えることであろう。

しかし、結論から言うと、「日本と違いすぎる」国で生活したことは、何物にも換えられない得難い体験であったし、ある面では「人間は皆同じ」ということも実感させられたのであった。よく言われることであるが、言葉・歴史等々異っていても、誠さえあれば心は通じる。一のが肌でよく理解できたこ

とも、大きな収穫であった。

アルジェリア民主人民共和国は、面積でおよそ日本の6.5倍、人口で約5分の1の地中海に面する北アフリカの国であるが、世界最大の「サハラ」の国、歌の「カスバの女」の国と言った方が、一般の方々には通りがよいかも知れない。

この国の歴史・民族・宗教・言語等々、どの一つを取ってみても、日本と異なる特徴・特性を持っているが、小文では、最も基本的な特徴について列記してみたい。しかし一部は、この国のみならず、近隣のモロッコ・チュニジアの「マグレブ」諸国全体にも、あてはまるものもある。

2 アルジェリア社会を

構成する基本的要素

(1) イスラム教を国教としている国

国民のほとんどは、回教のうちで多数派であるスンニ派である。モスLEM(回教徒)は、次の5つの戒律を守らなければならない。

ア 信仰告白…教徒になる時に、祈りの最後に、「アラ-は唯一神なり。モハメッドは神の予言者なり。」と唱える。

イ 礼拝…1日に日の出・正午・夕べ・日没・夜半の少なくとも5回の祈りが義務づけられている。

ウ 喜捨…富める者は貧しき者に物または金銭を与える義務がある。

エ ラマダーン月の断食…陰暦のイスラム暦9月の1か月間は、日の出から日没まで一切の飲食物を口にしてはいけない。

オ 聖地巡礼…できれば一生に一度、聖地であるメッカ(サウジ)へ詣でることが望ましいとされている。

多数の国民は、上記の戒律を当然のように実行している。政府にも宗教省があり、全ての宗教的行事の決定、モスケ(寺院)イマム(導師)の管理、統轄を行なっている。テレビ・ラジオは国営だが、番組にもコーラン朗読や宗教の話の時間が、多く組み込まれている。初等・中等教育にも、発達段階に応じて宗教の時間が設けられており、お祈りの仕方に始まり音読や解釈等を教えている。

毎日の生活では、日に5回以上、モスケのミナレット(尖塔)上のスピーカーから、コーランの節や詠唱やイマムの説教等が、大音響で流されてくる。お祈りの時間になると、熱心な人または家長はモスケ、普通の人や家は家で、小さなじゅうたんを敷き、「アッラー、アッバール」に始まる文句を口の中で唱えながら、

ひとりで祈りの儀式を行う。イスラムは、このように、人々の生活に根づいており、話の中にも「コーランによると…」といった表現が、よく使われている。

しかし、サウジアラビアやイランといった敵しい国々のように、人々を無理やりモスケに行かせたり、飲酒をした科で罰せられるということはないし、酒類も生産され売られている。このように見ると、律気ではあるが、狂信的ではないし、旧宗主国フランスの影響も見受けられるのである。



(2) イスラム教を基本とした社会主義

世界の社会主義国には、いろいろなパターンがあるが、アルジェリアの場合、132年に及ぶフランスの支配に対する反仏闘争が、反植民主義、反帝国主義として、独立戦争の中で昇華していったように思われる。独立戦争の中核的存在としての「FLN」(アルジェリア民族開放戦線)の目的は、仏からの自立(独立)で

あり、当初からソビエト型社会主義をめざしたのではないように見える。

植民地時代の経済は、ぶどうを中心としたいわゆる「モノカルチャー」であり、非常にいびつな経済であった。当時、植民地支配の尖兵として100万人に達する「コロシ」(フランス人入植者)が、良い土地のほとんどを支配し、仏系の銀行が金融・資本を独占していた。これらのことは日本の朝鮮・満洲における「支配」と考え合わせると、興味深い。さらに、彼らの「配下」として、多くのユダヤ人が、実務・商業を担当していた。このため、これらの「くびき」を除去するために、必然的に独立後、国有化を推し進め、社会主義政策を取らざるを得なかったと思われる。

また、イスラム教の重要視は、本質的に社会主義と矛盾するように思われるが、仏の政策と無縁ではない。仏支配下においては、アラビア語に代って、仏語の強制、イスラム教に代ってキリスト教の強制が行なわれた。一見、仏国民~しかし「二等国民」として、ふるまうことが強いられた。このような中で、アルジェリア人達は、彼らのアイデンティティを確立するため、心のよりどころとして、イスラム教を重視した。仏は

砂漠の民の「単なる宗教」を、民族の「精神的支柱」にまで高めてしまったのである。こうした過程の中で、「イスラム社会主義」が成立しているのである。

さて、独立後、前述のコロンが放置した土地を、国有化し集団で管理する方法が取られたが、途中で個人農育成という方向へ変化し、今では個人農も多い。また、商店も大半は個人経営で、国家が直接関与するのは、政策・銀行・貿易等で、後は各省のもとに公社・公団があり、それらが直接、生産に携わっている。

社会主義のリ・ダーであるソビエトとの関係は、政治的には影響力はあろうが、経済的には、全貿易額のわずか1%で、微々たるものである。ここにこの国の「政経分離」を明確化した、アルジェリア社会主義を見るのである。これに対して旧宗主国フランスとは貿易額の20%を占めるつき合いをしており、また、アメリカに対しても、石油輸出の58%を依存している。さらに、外交的にも、東欧圏よりも資本主義諸国との往来が多い。まことに、「バランスの良い」現実的政策である。

(3) 資源のある発展途上国

A・A諸国の中でも、アルジェリアは、石油・天然ガスに恵まれ、国

家財政に大きく寄与している。このため、当国の「1人当りの国民所得」は、1870米ドル（1980年）であり、韓国の1520米ドルを上回っている。この意味では「中進国」と言ってもさしつかえない位である。石油・天然ガスなどの「炭化水素」が、輸出の98%（1981）を占め、政府歳入の68%と貢献しているのである。

この国も、他の社会主義国に見られるように、独立後、重化学工業中心の政策をとり続けてきたが、種々の歪が顕著となり、1980～84年の「新5か年計画」では、「効率化」・「生産性向上」・「社会的ニーズの充足」が骨子となった。具体的に言うと、技術者や管理層といった人材不足からくる「非能率」と、長い間の軽工業軽視の「耐乏生活」に対する国民の不満を解消しようとするものであった。このための消費財、農業部門、住宅等の投資を重点的に行なうことにした。さらに、民間企業の活動を緩和し、経営の活性化を図ろうとしている。

このように、先進の社会主義国が迎えて来た道を通っているが、前項で述べたように、資本主義国とのつながりを大切にしているのが、特色と言わなければならない。財政的には、「石油ショック」の72～74年、81年以外は赤字であり、対外債務も存在するが

・キンコ・ブラジル等のように、多額の不履行という段階には程遠い。また、サウジやUAEのように、原油のみに依存していないので、現在のように石油価格の下落した状態においても、苦しいながらも、政策遂行は依然続いているようである。以上見てくると、比較的「足が地についた」・「健全な」政策をとっていることが分かる

(4) 複数言語を使用する複数民族国家

この国の先住民族は、セム・ハム系のベルベル人である。彼らは紀元前に、古代モーリタニア王国（ヌミディア王国）を建国し、西北アフリカのほとんど（マグレブ）を支配していた。フェニキアの植民地カルタゴとの抗争から、ローマと同盟し、やがてローマに征服されることになる。ローマは、国内に多くの遺物を残したが、ベルベル人自体は、帰順には抵抗を示した。

この後、8世紀に入ると、「イスラムの拡張」があり、アラブ人がイスラム教をもって侵入してきた。彼らがベルベルを帰順させた後、急速に、「イスラム化」がすすんでいった。この時代には、文芸・科学・文化が大いに発達した。

イベリア半島における、キリスト

教徒の「国土回復運動」（レコンキスタ）が、1492年のグラナダ陥落で頂点に達し、半島からイスラムを「駆逐」した後、スペイン人はアルジェリアにも侵入、アルジェを占領した。しかし、住民は、当時のイスラム世界の擁護者オスマン・トルコに援助を求め、トルコはアルジェリアから、スペイン勢を追い払った。この後しばらく、トルコの太守（ディ）のアルジェリア支配が続く。フランスは、1830年、経済的必要から、トルコ太守に「言いがかり」をつけ、アルジェに上陸し、トルコを追放する。これから、1962年に独立するまで、132年間フランスの植民地となるのである。

このように、この国はベルベル人+アラブ人+フランス人との混血が、構成していることがわかる。しかし、「人種問題は、ほとんど見られない。

言語については、ベルベル人は元来、ベルベル語を持つが、長い歴史にもまれる間に、話し言葉のみが残ってしまった。そして、アラビア語は、使用されるが、既述のように、この場での使用は禁止されてしまった。このため政府は独立後、「アラビゼーション」（アラブ化）を唱え、アラビア語だけを公用語にしようとした。しかし、長年の仏支配のため、アラ

ビア語を十分に話せる人が少なく、フランス語も公用語にせざるを得なかったのである。さらに、アラビア語といっても、サウジなどで使用される正統アラビア語と、アルジェリア方言があり、大変異っているという問題がある。

わが家の大家のファミリーはベルベル人だが、家族内ではベルベル語、学校の授業は正統アラビア語、町ではアラビア語アルジェリア方言、高等教育はフランス語を使っているようだ。そしてインテリ層は、英語をよく理解し、話せる。大家の次女は大学生だが、以上の5つの言葉を不自由なく使いこなしている。このような環境では、必然的に「外来語」が上達するのであろう。歴史を自分達で選ぶことができなかった結果として。

(5) 長い被征服から独立戦争に

よって独立した国

前述のようにこの国は、長い被征服の歴史を持つ。その頂点がフランスによる支配であった。同じフランス植民地であった隣国のチュニジア・モロッコは、あっけなく独立できたが、当国は、サハラに石油が存在するため、仏はなかなか手離そうとはしなかった。

既にフランス侵入の直後、エミール

- アブデルカデルは、一族を率いフランス軍に打撃を与えてゆき、一時は国土の3分の2を支配下に置いたが、17年後、彼は捕えられ、抵抗は終結した。しかし、彼の名は、「独立の英雄」として残り、愛国の炎(ナショナリズム)は長く燃え続けるのである。この後も、散発的にアルジェリア人の反抗が起こるが、仏の支配はますます強力なものになっていく。第2次大戦も終わる1945年5月8日、仏によるアルジェリア人約4万人のざく殺が行なわれる。1954年11月1日、独立のための闘いが始まった。この闘いは組織的なもので、前年結成されたFLN(既出)を中核とし、農民・市民より構成される「民族解放軍」は、フランス軍のみならず、コロンを中心とする極右の「OAS」とも闘った。フランス軍は、あらゆる兵器を投入し、市民に対してさえ、残酷な行動をおこした。このあたりは、伊・ア合作映画「アルジェの闘い」で日本にもよく知られている。

こうした百数十万人の戦闘員、非戦闘員(女子、子供を含む)の犠牲を払った闘いは、1962年7月1日の独立で終結した。この時参加した世代(20~40代)を多く失い、後の国家建設に支障が出たことは、言

うまでもない。現在でも、どの家庭でもこれらの闘いで、家族を失った人達が多くいる。わか大家の所も例外ではない。この時開った世代は、独立の重みを忘れてはいない。

(6) 地中海と砂漠(サハラ)の2大要素によって成り立つ国

この国は、アトラス山脈以北に、地中海に沿って広がる平野部と、アトラス以南の国土の80%を占める砂漠部に大分される。

地中海沿岸は、温帯に属する「地中海性」の気候である。アルジェでの年降水量は、600~700mm、岡山のその半分に近く、全体的に乾燥しており、湿度は低い。冬期の平均気温は11℃、8月のそれは25℃位である。真冬でも霜がおりることはまずなく、庭にはハイビスカスが咲いている。従って、農業は、かんきつ類・ぶどう・オリーブ・野菜・小麦等、米以外のほとんどが作られており、比較的恵まれている。

よくマスコミで、「アフリカの砂漠化・飢餓」が言われているが、この地域では、今のところその兆候は見られない。このような温暖な土地のせいか、南スペイン・南仏・南伊などラテン系の国民と類似性があると言われる。曰く、「楽天的」「不勉強」「大雑把」等々。

これに対して、「サハラ」は純然たる砂漠気候である。年降水量は100mm以下、夏期の最高気温は37~46℃、非居住地域では、さらにそれを上まわる。また、冬期は、-10℃になることもあるという。当然、水のあるオアシス部に人が集中する。なつめやしの外、とうもろこし、うり類が植えられているが、自給は難しい。

砂漠の自然の過酷さは、言語を絶し、水の欠乏は死を意味することもある。ここの人々は、「自然を征服する」と言うより、「自然に従って生きている感じである。同じ気候から生まれた、超越的、唯一絶対神アラールの必然性が理解できそうである。一方、箱庭的四季に恵まれた日本で、八百万の神が存在するのも必然であろうか。砂漠の民は「見、「怠惰」だが、強い忍耐の気性を持つ。いつ開店するかわからない店の前で列をなし、じっと待つ。いつ来るかわからないバスを、文句も言わず、ひたすら待っている。まるで、時間が永遠に続いているとでも言うように…モンテスキューも言うように、その土地の気候が国民性を決定してゆくのであろう。

3 おわりに

以上述べてきたことは、3年間で

見聞したことを基とし、まとめたものである。残念なことに、この小文で、アルジェリアの全体像を把握することはできないし、また、その力もない。また、比較的基本的、抽象的な記述に終始し、社会的、生産的側面を十分に描出することはできなかった。機会があれば、それらについても述べてみたい。

その国を「知る」ことはできても、「理解する」ことは難しいことである。とまれ、拙文がアフリカを理解するための糸口になれば幸いである。識者の忌たんのないご意見、関心を持っておられる方々のご質問を待つものである。

〔参考文献〕

「アルジェリアの経済開発」

日本長期信用銀行；勁草書房

「アルジェリア・ハンドブック」

日本アルジェリア協会；西田書店
他

アルジェリアの伝統工芸 —見てある記・やっつてある記— アルジェリア

垣見 益子

1 プロローグ

「え、アルジェリア？ どこだっけ？ へえ、北アフリカで地中海沿岸なの。

おもしろそうじゃないの。私はどこだって行くわよ。」1983年1月、主人のアルジェ日本人学校派遣内定の知らせに、こう答えました。小学校時代から、先天的に社会科が苦手だと思いつつ、地理オンチ、歴史オンチの私には、「カスバの女」「地の果て」という言葉しか連想できませんでした。あわてて本を探しても、ほとんど見つかりません。アルジェリア大使館に、資料を請求しても梨のつぶて。少しは具体的なことが聞けるかと、海外子女教育振興財団主催の夫人研修に参加しても、「アメリカでは…」「ドイツでは…。一番気にかかる医療衛生についても、「アフリカ等のことはわかりませんが」といった具合でした。人間というのは、切羽詰ると身勝手になるもので「先進国のことは情報があふれてい

るじゃないの。もっと、アフリカ、アルジェリアのことを教えてよ！」と叫びたい気持ちでした。赴任先はどこであれ、誰もが同じような不安を胸に参加していることは、理屈では重々わかっていたのですが…。

着任後、1年ほどして、同期の先生に、「ここでの暮しぶりの情報を出発前にもっと欲しかったですね。」と言ったところ、「もしわかっていたら、妻を連れて来なかったかもしれませんよ。」と冗談っぽく言われました。

出発までには、それでも多少の予備知識を得、アルジェリアが、イスラム教国、社会主義国、石油産出国、元フランス植民地、従ってフランス語が話される国であること、などがわかりました。すべて未知の世界です。好奇心をかきたてられた私は、4つの目標をたてて、4月10日、張り切って成田を発ちました。

1. 現地採用教員として最善を尽すこと。(結果として、これは最初の2年間に限られました)
2. 教員の妻として、夫が全力を尽せるよう、健康管理などに努め、夫の足を引っ張る軽率な行動をとらないこと。
3. フランス語を習得すること。
4. できるだけ深くアルジェリアを

知る努力をし、何か伝統の技術を身につけて帰ること。

病気に対して神経質になり、日本においては想像もできなかった、生活上の不便、密度の高い人間関係の中で時折生ずる軋轢などに音を上げることもあった3年間でしたが、同時に、かつてないほど高揚した気持ちで過した有機的な、実り多い3年間でもありました。将来、ここまで前向きな姿勢を持てる時はもう来ないのではないかと思えるほどです。忘れ難い数々の思い出の中から、今回は、「アルジェリアの伝統工芸」を中心に紹介しようと思います。

2 私見による、アルジェリアの

伝統工芸の実態

一般にアルジェリアの伝統工芸については、次のような特徴が見られるように思います。

1. イスラム文化圏に共通して見られるものと、先住民族古来のものが併存している。
2. 技術レベルが低く、仕上りが雑な物がかなり見られる。
3. ほとんど民間による生産；販売であるが、原材料の輸入の過程で政府の統制下に置かれている。

第1の点については、歴史的な背景が考えられます。先住民族であるベルベル人は、ローマ帝国に征服されて以来アラブ人・スペイン人、そしてフラン

フランス人による征服の歴史をたどることになるのですが、山岳地方・砂漠地帯に住むベルベル人は、それらの支配者に対して、しばしば反乱を繰り返してきました。また、アルジェリアの文化を決定づけた、イスラムの拡張に際しても、土着信仰に比べて、より寛大で平等なイスラム教に喜んで帰順こそすれ、独自の言語・生活様式を守り続けて今に至っています。人口に占める純血ベルベル人の割合は、20%（本によると30%）と言われ、主に、アトラス山脈の一部であるジュルジュラ山塊のカピリ地方、あるいは、対仏独立戦争の火蓋を切ったオーレス山塊の稜線沿いに集落を連ねて、また サハラのアオアシスに定住しています。

ちなみに、私達の大家さんであるアクシッシュ氏はカピリ出身のベルベル人で日本人学校があるウッサン・ディ市の元市長であり元校長です。両者を兼任していた時期もあるとか。近所にも、彼の前の代の市長とか、戦争中エジプトで革命政府旗上げに参加したとかいう人達がありますが、偶然にもすべてベルベル人です。ベルベル人に言わせると、「アラブ人よりベルベル人の方が勤勉だ。フランスでホテルや店舗を自営しているのはベルベル人が多い。アラブ人は、メイドやボーイといった下働きが多い。」そうです。

当然我田引水の分を差し引かねばなりません、実際に、3年間アクシ

ッシュ家と接してみて、少くとも、彼らは誇り高く、優れた資質を持っているようにみえました。ただ、彼らを商売相手とする商社マンの立場からは、「とてもじゃないが、アルジェリアのベルベル人は煮ても焼いても食えん」のだそうです。

次に、技術の低さについてですが、両隣のモロッコ・チュニジアへ旅した人は、同じような工芸品がよりよ技術で、しかも安価で売られていることに驚くそうです。私は残念ながら、そのいずれの国も訪れる機会に恵まれませんでしたので、比較による判断はできませんが、確かに購売意欲をそそる物を探すのに苦勞しました。着任早々、いろんな人から異口同音に、「アルジェリアのみやげ物は粗末で高い。日本へのおみやげは、ヨーロッパで買う。」と言う意味のことを聞きました。「大金を払って買っても、日本にいる人には、それだけの価値を見いだしてもらえないから。」だそうです。

モロッコ・チュニジアと併せて「マグレブ三国」（マグレブとは「日の没する国」というアラブ語）と呼ばれ、フランスの植民地となるまで、同じ歴史・文化を共有しているはずのアルジェリアが、工芸技術において、本当に両国に劣るのだとしたら、その原因はどこにあるのでしょうか。まず、独立の

過程及び、それ以降のあり方を比較してみました。

(1) 独立の過程

アルジェリアは、7年半の熾烈な戦いで、百数十万の死者を出し、300万以上が家を失うという、大きな犠牲を払って独立を勝ち取ったのに対し、モロッコ・チュニジアは、交渉により、無血で相次いで独立している。

(2) 独立後の社会情勢

アルジェリアでは、政治経済のすべてを掌握していたフランス人が、急に引き上げたため、大混乱をきたし、生産能力等が急降下したが、他の2国では、比較的混乱は少なかったと想像できる。

(3) 経済政策

アルジェリアでは、国有化により、重工業を優先し、生活消費物資の生産・輸入を極力押えて、国民に「耐乏」を求める政策を取ったのに対し、他の2国では、自由主義を基調とし、大幅な外国からの援助を仰いでおり、観光産業への依存度が比較的高い。

これらのことからアルジェリアでは、熟練世代の大量の戦死により、技術の継承が行なわれにくかった。イ 小規模民間産業である工芸は、政府の復興計画の域外に置かれた。

ウ 供給が需要に追いつかず、作れば売れた。

エ 社会主義体制の中で、品質による競争が育たなかった。

と見るのは、あまりにもこじつけに過ぎるでしょうか？ もっとも、商品の不備を客から指摘されても、一向に悪びれた風も見せないだけでなく、時には、「嫌なら買わない」と言わんばかりの態度まで見せる店主に会ったりすると、つい、もっと根本的な感性の違いかな、と短絡的に考えてみたりもします。いずれにせよ、売らんがためには細かく客のニーズを研究し、改良に改良を重ねることが当り前の日本人の感覚とは、程遠いものがあるようです。

3 表舞台に出始めた伝統工芸

目かくしをした競走馬のごとく、独立後、わきめもふらずただひたすら、重工業路線を突っ走ってきたアルジェリア政府ですが、耐乏政策に対して、国民の不満がつのってきたこともあって、1978年誕生のシャドリ大統領政権下では、生活消費材を充足すべく、軌道修正が行なわれてきました。それに呼応するように、観光資源の開発にも目が向けられ、各地の伝統工芸の振興が推進されています。私達の滞在中国だけでも、それを示唆する2つの事象に出会いました。

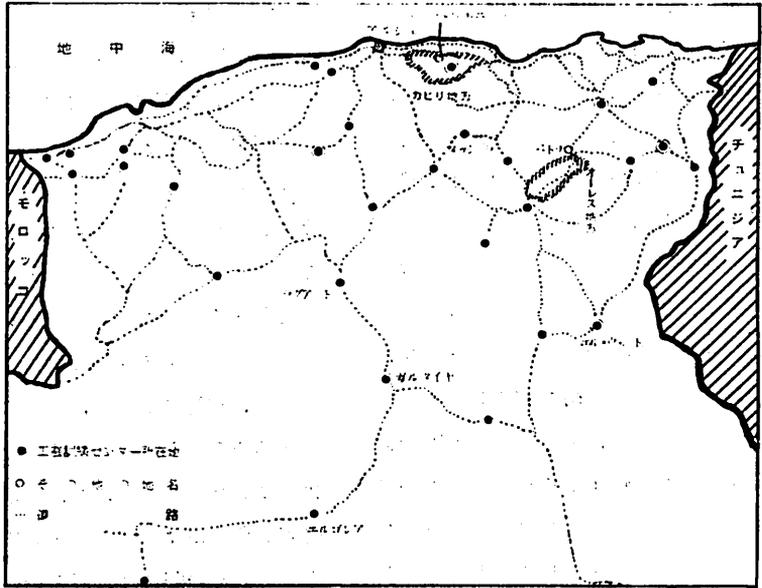
その1つは、独立記念塔公園に出現

した工芸村です。1982年、独立20年を祝い、カナダ人の設計により、アルジュ市郊外の丘の上に建てられたこの塔は、今ではアルジェリアのシンボルになっています。塔の下は記念博物館となっており、さらに地下は、戦没者慰霊の聖域となっています。周辺には野外劇場・レストラン・工芸村などを配し、また別の一隅には、帰国移、ヨーロッパの町を思わせる、あか抜けしたショッピング街も完成したそうです。丘の麓には、再開発により国会議事堂なども移転するそうで、この一帯は、いわばアルジェリアの「よそいき顔」となりつつあるわけです。その中にある工芸村では、絹織物・刺繍・銅板細工・タイル画・銀製アクセサリー・寄木細工や螺鈿細工をあしらった民族楽器・木彫・藤や柳細工などの第一人者達が原則として2店ずつ、実演直売を行っています。優れた技術が、常時アルジュでしかも一か所でまとめて見学できることは、外国人のみならずアルジェリアの人々にとっても、重宝がられているようです。3年目、私も時々バスで一人で出かけましたが、そこで、一連の節節団に出くわしたりしました。

もうひとつは、伝統工芸の中でも、特に地方に分散する毛織動物（口後タビと呼ぶ）の振興を目的とした公的機

関の店でした。一般にタビを扱う小売店は、個人経営なのですが、ここでは全国30か所に設置された工芸訓練センターで、地方の女性に技術指導を行った結果生ずる製品の販売に当たっています。他の土産物店やタビ専門店と異なり、一枚一枚に、製造地名、サイズなどを記したラベルが付されていることに興味を持ったのが、店通いの発端です。通い始めて帰国までの1年ほどの間に、惣物に加えて、袋・クッション・刺繍を施した衣類など商品が多様化しました。これは即ち、技術指導の内容が豊富になったことを意味します。そして、その間には、何と驚いたことに、英仏併記の小冊子まで売り出されたのです。カラーで、産地別に製品が紹介されています。有名な鏡光地や博物館を訪ねても、地図・案内図はおろか、パンフレットすらもほとんど手に入らないアルジェリアにおいて、これは画期的なことと言えます。タビに興味を持ち始めていた私にとって、それこそ求めていたものであり、50DA（2500円）という値段の高さにもかかわらず、すぐ飛びついたのです。英語表記は外国人を対象としたものとしか考えられませんが、ようやく伝統工芸が表舞台に登場してきたことの現われと考えると差支えないと思います。

工芸訓練センターの分布



3 印象に残ったアルジェリア

の伝統工芸

伝統工芸は、元来、生活必需品の製造からスタートしたものですから、数えあげればきりがありませんが、印象に残ったものをいくつかご紹介します。

(1) タイル画

本来は建材であってイスラム教に広く見られます。特に、モスク（イスラム寺院）は、内も外もアラビスク、あるいは、幾何学模様タイルで美しく飾られています。その他、ホテル・レストラン・個人の邸などに、何十枚ものタイルの上に描かれたタイル画が、壁にはめ込まれています。代表的なデザインは、花びん

に生けた花に鳥、アラベスクをおしらったもので、バルド博物館の中庭に古いものが見られます。この建物は、北アフリカ特有のムーア様式で、カスバであったものが移築され考古学及び民族学博物館として使用されています。外国人客の多いホテル・エルジャザイールは、柱といわず壁といわず、レストランやデリスコの中までタイルで覆われています。透明感のある青や緑を主体とした涼やかな配色は、見る人の足を止めるものがあります。日本人出張者の中には、「これは、きっと、どこから輸入したに違いない」と、アルジェリア人に対して失礼ともとれ



マウルム-ア様式；バルド-博物館の中庭
 することを言う人もいます。これ程
 大規模ではありませんが、エアーフ
 ランスの正面の壁にも、大きなタイ
 ル画がはめ込まれています。土産用

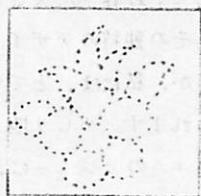
初めて描かせてもらったブーメディ氏のデザイン(タイル三枚)



には、タイル
 3~6枚の小
 さなものも作
 られています。
 自宅から歩
 いて25分のと
 ころに、ブー
 メディ氏のア
 トリエがあり
 ます。ホテル・

エルジャザールやエアーフランス
 のタイルは、彼のデザインで、ここ
 で焼かれました。タイル画は次のよ
 うにして作られます。

【タイル画の描き方】



① 下 絵
 (カーボンの粉)



バルド-博物館中庭のタイル画



② 線 入 れ
 極細の筆で
 柔かい線の
 流れを出す



③ 色 差 し
 筆のタッチ
 を生かし線
 との間に少
 し余白をと
 る。

①素焼きの白タイル(一辺15cm)に
 下絵を描く。針で模様に沿い穴をまけ
 たトレ-シングペーパーをタイルにの
 せ、上から炭の粉をすり込む。

または鉛筆で直接描く。

②細筆で線を入れる。

黒絵具の粉を、のり状液と水で
 溶く。

③色を差す。

非水溶性の粉末絵具に水を加
 筆につけて刷く。

④透明釉をかける。

⑤ 炉に入れて焼く。(800~900℃)

こうしてでき上ったタイル画は、6枚組で、4万円前後もします。この場合は、熟練者ひとりひとりが、一つの注文に一貫して携わります。



線描きしたタイルに色を入れる職人



流れ作業で色を塗る見習い達



親切だったブーメディ氏の息子とその他、このアトリエで、先進国だと当然機械化されそうな、安価な外壁用タイルも手作りしています。見習いの少年達が、騰写版のようなもので、

2級タイルに黒線を刷り込み、色塗りも一人一色分担し、流れ作業で行なっていますが、そのスピード、雑さは驚くほどです。

ブーメディ氏のアトリエは、質・量共にアルジェリアでは随一と言われ、シャドリ大統領がローマ法王に贈ったタイル画も、ここで造られました。各国大使館の得意先も多く、店にあるノートには、宮崎前大使が訪問の際、こう記しておられました。「アルジェリアで最も美しいもののひとつだと思います。」

なお、タイルは、スペインやフランスから、絵具・釉・筆はフランスからの輸入だそうです。

(2) カビリのビジュール

ビジュールとは、フランス語で貴金属アクセサリの意味です。バルベル人古来の伝統で、ベニエニという村で作られてきたところから、「ベニエニのビジュール」とも呼ばれます。銀に珊瑚やエナメルを施し、古来の技法で作られますが、ネックレスや手錠のようなプレスレットの止め金・ブローチのピンなど、信じられないほど原始的で、野暮ったくさえ思えます。が、その独特のデザインと色合いの渋さが、私には、とても好ましく感じられます。カビリ地方では、今もベニエニのビジュールは、大

切な嫁入り道具ですし、祝事があると女性は重いほどこれを身につけるそうです。

アルジェ市内の土産物店で見られる物は珊瑚の代わりに赤いプラスチック玉が入っていたり細工が雑だったりして満足できる品質には巡り会えませんでしたが。結局ベルベル人の客が多いという店を教えてもらいベニエニの村まで片道3時間かけて行かざるを得ませんでした。店の半分では職人が作業中でしたが、時間のゆとりが無く、ゆっくり見学することができませんでした。記念塔の工芸村で見たことも併せますと、だいたい次の手順です。

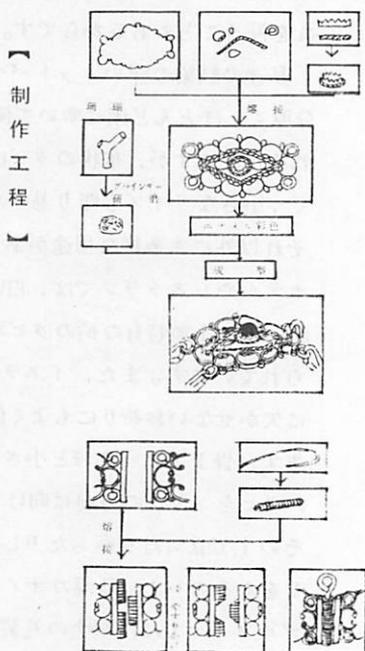
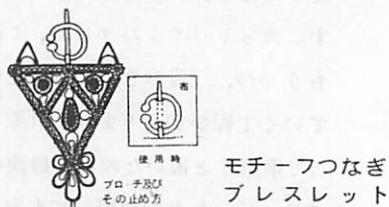
- ①銀線、あるいはそれを2本撚り合わせたものを短く切って形造る。
- ②薄い銀板を好みの形に切る。
- ③②に①とろう銀をのせ、ガスバーナーで熔接する。
- ④別途①～③の手順で作った、冠状の飾りや珊瑚の止め台、コイル状の止め金などを、ろう銀で熔接する。
- ⑤青・緑・黄のエナメル彩色をする。
- ⑥成型する。(⑤⑥は実際見ていません。逆かもしれません。)
- ⑦薬品につけ、磨いていぶし銀のような光沢を出す。(この工程を経たものはベニエニの店でしか人手できなかった。他のものは時がた

つと酸化して黒ずんでくる。)

材料の銀・エナメルはフランスから輸入、珊瑚は国内産及びチュニジア産だそうです



熔接をするベニエニの職人



【プレスレットの止め具】

(3) タビ(敷物)

タビには、毛足の長いカットパイル状のものと、布状に織ったものがあります。前者は、一般に言うカーペットで見慣れています。後者は日本では見た覚えがありません。いずれも手織りで、原則として垂直に立てた機に綿の縦糸を張ります。羊毛の横糸を交互に通すと、畳表のようになります。これが布状タビです。カットパイルのタビは、これにもう一つ、三段おきにループを作っていく工程が加わります。「原則として垂直」と書いたのは、砂漠の中では、石と丸太を利用して水平に縦糸を張ることもあるからです。

私達の馴染の深いカットパイルは分厚く、ほとんど床に敷いて使用されるだけですが、布状のタビは薄手で、小さなサイズも作り易いため、それ以外にも多様な用途があります。ホテルやレストランでは、白い壁一面にその土地特有の柄のタビが掛けられています。また、イスラム教徒に欠かせないお祈りにもよく使われます。畳より2回りほど小さい細長いタビをメッカの方向に向けて敷き、その上で立ったり座ったりしてお祈りをするのです。砂漠のオアシス〜ガルダイヤでは、男性の礼装にも用いられたそうですし、燃りの強い丈



タビを売る店



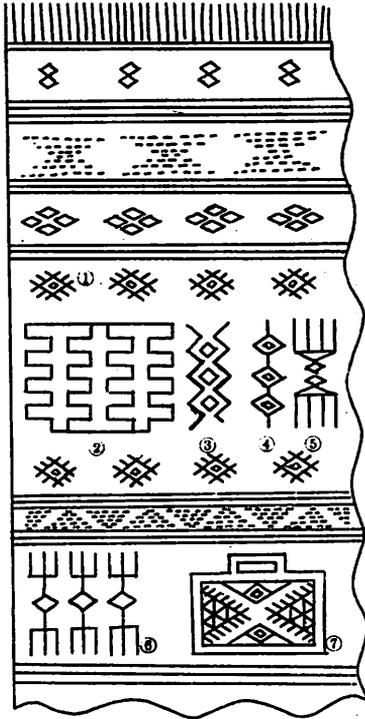
ホテルの壁を飾るタビ(バトナ)

夫な糸で織ったものは、遊牧民のテントの間仕切にも使われます。アラビアのおとぎ話に 登場し、子供心に夢を与えてくれた「魔法の絨毯」は、どうやら、この布状のタビのようです。

織物タビの魅力は、何といっても美しい模様とすばらしい配色です。タビは、もともと外出の機会の少ない女性の仕事で、母から娘へと、地域独特の柄が受け継がれてきたと思われれます。自家用に、あるいは、娘や息子のためにコソコソと織りためていたそうですが、今では都市部は

勿論のこと、地方でもだんだんに減っているようです。アクシッシュ氏の説明や、前出の英仏併記パンフレットから、掃蕩するまでに、少し柄が見分けられるようになりました。

【ガルダイヤのタビ】



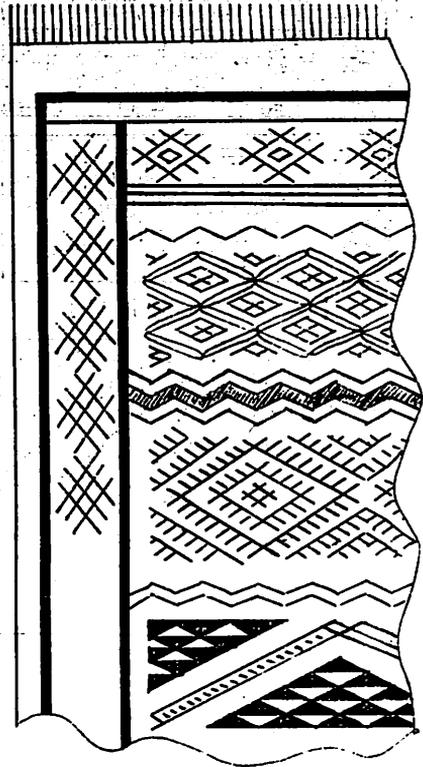
【比較的新しいムザブの柄】

(かつては男性の礼装に用いられたという)

- ①…花
- ②…梳毛(そもう)用くし
- ③…へび
- ④…フィアンセへの首飾り
- ⑤…手
- ⑥…サツリ
- ⑦…花嫁の衣装ケース

【ガルダイヤ】

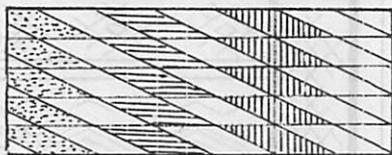
古来ベルベルの柄と、アラブ拡張以降の比較的新しい柄の二通りがある。前者は、額縁状の模様の中に数種類の連続模様が織り込まれているのに対し、後者は、大きな縞がぶち



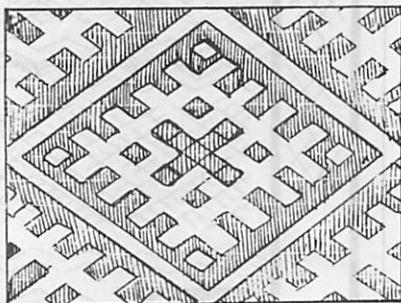
2000年も前から伝わるという、ベルベル古来の柄(わが家のサロンにあったもの)

抜きになっていて、各段に、サツリ・手・花・ネックレス・衣装箱といったモチーフが織り込まれている。

赤・緑・黄・茶・黒などの配色は、派手なようであるが調和がとれていて特に、赤と黒を交互にベースの縞としたものは、アルジェリアの白い壁によく映える。



【メッシーラの幾何模様】



【ラグアットの柄】

【エルゴレア】

日本の錦織り風の柄が、タビの上下に带状に配されている。よく見ると、織り込み模様は、地の横縞だけで、他の細かい柄はその上に刺繍されていることがよくわかるが、糸目がすべて織目に平行であるために、一見すると縦織り込みとまちがいやすい。

【メッシーラ】

ベージュの濃淡・モスグリーンの濃淡などを基調とした地味な色合いのタビが多く、模様は三角形・菱形・四角形を積み上げて、带状に配している。

【ラグアット】

赤と黒のコントラストが鮮やかな幾何学模様。タビ全体にモチーフが繰り返されている。同類の柄は他地方にも見られる。

以上、それぞれ代表的と思える柄傾向ですが、いずれの地方でも、異なる柄模様のタビも産しています。一般的に、アルジェリアのタビは、柄が大きく配色が派手で、日本家屋のインテリアとしてはどうかと思いますが、逆に日本好みの色柄を、強烈な太陽・なつめやし林・そして乾いた土や砂の国に置いたとしたら、ダサイことこの上ないでしょう。風土によって色彩感覚はこうも異なるものだ実感しました。

材料について特に調べてはいませんが、横糸は羊毛の生産・製糸共に国内で、また、縦糸は製糸のみ国内で行っているような気がします。

(4) 織物事始め

美しい物を見れば作り方を知りたいと思い、作り方が分かれば自分で作ってみたいと願う。まことに悪い癖を持った私が、先ず手をつけたのは、タビ織りでした。1984年12月末のことです。少し目処が立った頃、興味を持

ち続けていたタイル画のアトリエを見つめました。ちょうどフランス語学校の夏休みでもあったので日参し、無理を承知で強引に頼み込み、タイル何枚分かを描かせてもらいました。ブーメディ氏の息子 テュフィールさんの協力のお蔭でした。記念塔の籐柳細工の店では、パトロン(主人)と仲良くなり、分けてもらった籐や柳を使って、最後の日本人会バザーへの出品物を作ってもみました。帰国2週間前頃に、歩いて15分のところに銅細工の店を見つけ、細工前の銅円盤を10 DAで分



真鍮板に「アッラー」の飾り文字を刻む職人



その完成品(近所のアトリエで)けてもらい、店で写した「アッラー」

の飾り文字を、あり合わせの道具で打ち込んだのが、最後のチャレンジとなりました。これは、とうとう未完成のまま日本に持ち帰る破目となっています。カビリのビジューは、たまたま銀線七宝を趣味としているところから、是非ともやってみたかったのですが、材料の銀が厳しい統制下に置かれ、仕入れ重量・使用重量共に細かく店の台帳に託されている状態で、材料を分けてもらうことすらできず、実演を見学するのみに止まらざるを得ませんでした。

これら、種々の工芸の中で、必要な材料・工具・製品の用途などを考慮に入れますと、日本でも家庭で簡単に続けられるのはタビだけということになりそうです。そこで、もう少しわしく機の構造、糸の張り方などに触れながら、私の織物事始めの顛末をご紹介します。私の織物事始めの顛末をご紹介します。

アルジェリア滞在2年目の1984年12月、私達はガルダイヤ・エルゴレアに2度目のドライブをしました。首都アルジェより600 Km南下したガルダイヤは、サハラ砂漠とは言え、まだ土漠地帯で、いわゆる「月の砂漠」のイメージを抱かせる景色は、さらに250 Km南のエルゴレアに行かねば見られません。ガルダイヤは、大きな窪地の底

に発達したオアシスの街で、どこまでも続くかと思われる土漠のかなたにじっと目を凝らしていると、地面のへこみが現われ、その割れ目から緑のやしの林と共に忽然と姿を現わします。何度行っても感動的な一瞬です。



オアシス：ガルダイヤ



この住民は、ムザブ人で、極めて禁欲的な生活を送っており、外出時の女性は片目以外はハイクです。ぽり身を抱えています。有名なフランス人建築家をして「世界で最も美しい街並」と驚嘆させたというこの街は、フランスから直通便もある観光地で、土産物店にいくると囲まれた市場は、いつも人で賑わっています。そこで選りに選

って求めた数枚の小さなタビが、私を織物の世界へ導いてくれることになったのです。慎重に選んだはずのタビですが、家でつぶさに調べてみますと、柄の端や目の詰まり具合に不揃いなところが少なからずあることに気が付き、手作りの暖かさを感じると共に、「これなら私にも挑戦できそうだな」という気にさせられました。そうなれば猪突猛進、早速、教えてくれる人を探しましたが、見つかりません。勿論、タビ教室などありません。結局、帰国まで一度もタビ織りの実演を目にする機会に恵まれませんでした。ただ、日本人学校の掃除婦のハバシュさんが、時折注文に応じて家で毛布を織っていると聞き、二度家を訪れ、見学させてもらったのは不幸中の幸いでした。

ハバシュさんはベルベル人で、夫を独立戦争で失っています。写真を見せてくれたので、「ハンサムな旦那様ね。」と言うと、嬉しそうに笑ってうなずきました。息子や娘は成人してそれぞれ家庭を持ち同じ家や隣りに住んでいます。家は典型的なカビリの造りで、他人を拒むかのような高い塀に取り付けられた重い鉄扉を開くと、先ずタイル張りの中庭があり、その回りに部屋が並んでいます。確かドアはなく、代わりにタビがかけられ、普段はたくし上げられていたと記憶しています。ハバシュさんの部屋は、8畳位の大きさで、ベッド・たんすの他に壁際一

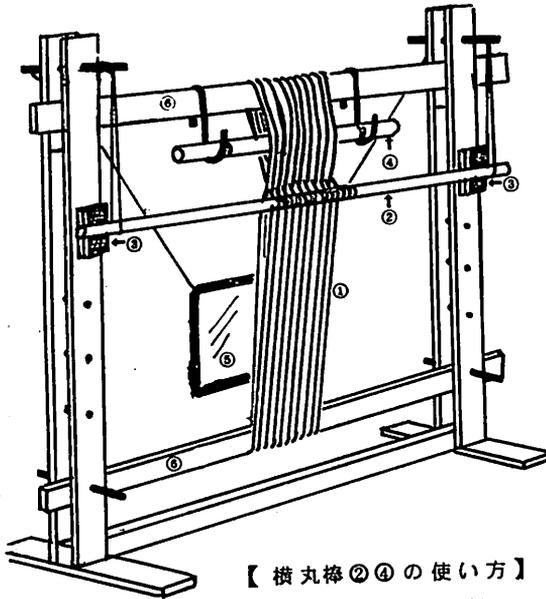
面に機が置かれていました。12月もなかば過ぎなのに、帰宅した彼女はタイルの床の上で素足になります。中庭も部屋も、床はきれいに水で洗われているので、子供達も素足でした。勿論、私のように靴をはいたままでも構わないのです。彼女は1977年学校設立以来の掃除婦で、午後は別のビルの掃除をしています。机用の雑布と床用の区別をなかなかしてくれなかったり、モップをよく水洗トイレのたまり水でゆすいでいたのには皆まいました。これはあくまで習慣、感覚の違いなのであって、とても誠実な暖かい人柄です。

ハバシュさんの家では先ず、機の構造を見せてもらいました。近所の男の人達の手による木製組立機で、不要時は解体して片付けておくそうです。垂直な柱に高さを調節して止められる2本の横棒のうち、上方には縦糸が、下方には既に織られた毛布が巻き取られています。織り進むにつれ、横棒を外して、巻取りますが、3人がかりの大仕事です。訓練センターなどの機の場合は、共に金属製のシリンダーになっていて、回転によって巻き取れるようになっています。タテ糸には丸棒が横に3本通されており、一番下の棒は、ひもを壁のフックにかけて壁側に引き寄せています。中の1本は上下させる

ため、滑りのよい竹竿を使っていますが、これは日本人学校でもらったのだそうです。一番上の棒は、竹棒が上下どの位置でも止まるように、縦糸の張りを持たせるために通されています。彼女が織っていたのは、婚礼用の紅白縞の毛布ですが、私はもとより大物を作る気はありません。自分用の機を作るに当って、大幅に構造を簡単にし、サイズを縮小しました。材料は船便荷物の廃材をかき集めたものですから、それを高さの限度とし、縦糸の長さを有効に使えるよう、一番上の丸棒を省略しました。当然、中の竹棒が滑り落ちますから、上の位置でそれを針金で止めるようにしました。学校から借りたのこぎりと手持ちの道具とで、ペランダでトンカチと作業を始めますと、



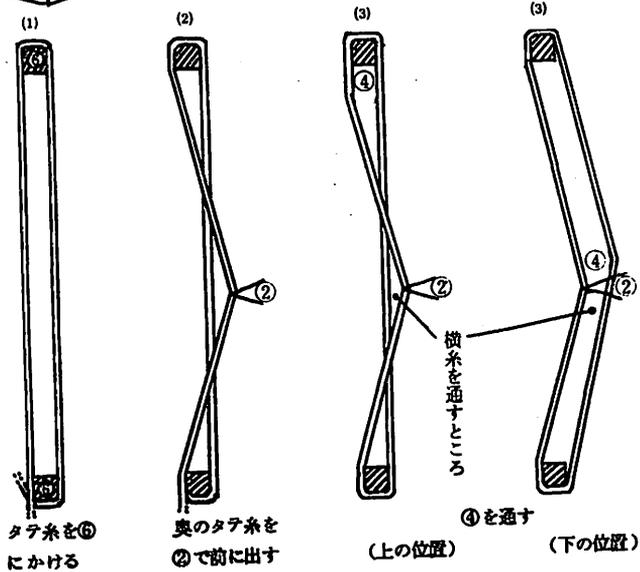
機を織る筆者



【手作り機の構造】

- ① タテ糸（レース糸）
- ② 丸棒（モップの柄）
タテ糸を1本おきに前に引張る
- ③ ②の丸棒がタテ糸を引張る強度を調節する板切れ（カマボ=板使用）
- ④ すべりのよい丸棒（竹）
一段毎に上下させ、タテ糸の交叉位置を変える。
- ⑤ 鏡
表側を映して、柄を確認できる。
- ⑥ 上下可動横板
タテ糸をかける

【横丸棒②④の使い方】



大家さんの家族が、「またやってる。」とばかりに見物にきます。以前 やはり廃材で台所用の食品棚を作ったりしたからなのですが、アルジェリアでは、女性が大工仕事をするのはあまりないらしく、私はすっかり「男仕事の好きなマスコ」ということになってしまいました。横木を固定する金属棒は、向いの建築現場でコンクリート用の鉄筋を適当な長さに切ってもらいました。職人さんに頼んでもキョトンとして一向に通じず困っていると、主任らしき人が現われ、「変な物があるんだなあ」という顔をしながらも、すぐに愛想良くくれました。アルジェリアの男性は女性には優しいんです！

何とか格好がついて、次は糸のかけ方、織り方の勉強です。糸をかけるところは当然見られませんが、話によると、女性2人が離れて地面に棒を立てて立ち、3人目がその間を行き来して棒に糸をかけるんだそうです。それを片方に巻き取り機にセットするという1日かりの作業だそうです。私はそうはいきません。わが家では、私が趣味を楽しむについては、「家事に支障を来さない限りOKだが、主人の手助けを当てにしないこと！」という不文律があるので、一人で糸かけをしなくてはなりません。いろいろ失敗した結果高さを決めてセットした横棒に直接

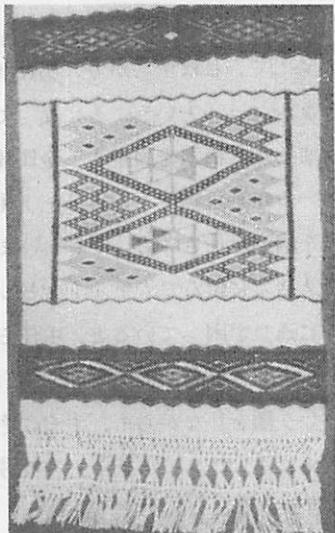
巻いていくことにしました。縦糸の本数だけ何十回となく立ったり座ったりせねばならず、腰痛持ちの私には少々疲れる作業です。今後の改良の課題点です。織る際には横糸を数段毎にトントンと押える鉄のくしや、織った部分を横にぴんと張らせる爪のようなものが必要ですが、近辺では手に入らないとのことなので、それぞれ洗濯ばさみと髪用プラスチック製くしで間に合わせました。（嬉しいことに、鉄くしの方は、85年秋訪れた、エルウェッドで、中古ながらやっと手に入れることができました！）

次に材料ですが、縦糸は一般のレース糸、横糸は毛糸があれば十分です。ハバシュさんは、隣町のエルハラシュに週2日たつ青空市で、毛布用の細い縦糸と撚りのほとんどないアクリルの太毛糸を買うそうです。フランス語は何とか話せても数がわからない彼女は財布からコインを出して、糸の値段を教えてくださいました。後日、エルハラシュへ出かけましたが、タビ用の羊毛糸は売っていないとのことで、太目の縦糸だけ買って来ました。レース糸と両方試した結果は、レース糸の方が仕上がりがきれいだと思います。

2度ハバシュ家を訪れた後、彼女の手つきを思い出しながら、彼女にもらった余り糸で先ず無地織り、次いで縞

模様を入れる練習をしました。上下の幅を揃えるのに特に苦勞しました。これも今後の課題です。何とか縞も入って、さてそれから暗中模索でした。というのは、ハバシュさんは、縞以外の模様を入れたことがなかったからです。買って来たタビの裏を見、表の目数を数えながらグラフを作り、全く自己流で模様を入れてみました。出来上りは一応同じように見えましたので、それから先も自己流のままです。私の場合、柄に慣れていないこともあってどうしてもグラフを作り、紙上で計算してからでないと織れません。しかも始終グラフと首っぴきです。写真などによると、アルジェリアの織手は、ただ下絵を見ているだけのようです。よく間違えないものだ后感心します。また、織っている最中は、タビの裏側が手前に来て表を見ることができません。そのため、よく模様がずれたり、目がとんだりして、時間をかけて織った分、やはり時間をかけてほどかねばならないことがしばしばでした。そこで、間違い防止のために反対側に鏡をつるすことにしました。それ以降この種の間違いは大幅に減り一息つきました。試行錯誤の連続で、一作毎に改良を重ねていく段階での帰国となるので多少不安もありましたが、ちょうど帰国直前に知り合った近所に住むオーレ

ス地方出身のベルベル人の親族に、手織りの作品を見てもいい、織り方が間違っていないと太鼓判を押してもらえやれやれと胸をなで下した次第です。



ベルベルの柄をアレンジした自作のテーブルセンター

少し慣れたところで、私は自分の織物の柄について2つの方向を定めました。ひとつは、アルジェリアの伝統柄を模倣すること、もうひとつは、自分のオリジナル柄を作ることです。前者のためには、できるだけ多くの柄を集めなければなりません。で、前出のタビの店へカメラを持って行き、特に興味を持ったベルベル古来の柄の多くのパリエーションを撮らせてもらいました。パンフレットと糸糸を少し買っただけの、得にもならない客ですのに、店のムッシュは実に親切に協力してくれました。これらの柄は、これから少しずつ再生させていこうと思っています

す。後者としては、まず、アルジェリアらしいテーマとして「ハイクの女性」をデザインしました。出来上がったものをハバシュさんに見せると「私がモデルかしら」と喜んでくれました。彼女は夫が死んで20年以上たった今でも、外出時はハイクをつけているからです。（仕事中は勿論着けません。）また、大家さんの子供達は、「お母さんにそっくり。」とマダムと見比べます。マダムもハイク姿で外出します。でも、85年に結婚した私と同年の長女のウリダさんは、結婚後も大学講師を続けており、勿論ハイクは着けません。他の3人の娘達も結婚しても着けないと言います。ハイクを着けるか否かは、夫となる人の意向次第だそうですが、若い世代のハイク離れが見られます。女性の解放が着実に進んでいる表われでしょう。年輩の女性の中には、「ハイクを着けていないと、裸姿を人に見られているような気がする。」という人が少なからずいることも現実ですが…。

私のタビの経験に、帰国直前、思いがけないおまげができました。私のタビに太鼓判を押してくれた、オーレスから来ている例のおばさん達が、カットパイルの織り方も知っていたので、早速わが家から機を持ち込み、教えを受けました。縦糸の準備などは同じですので、おばさん達の前で糸をかけて

いきますと、ウンウンとうなずきながら見守っています。ループを作る段になると、席を代わり、おばさんが先ず実演します。一段終わったところで交替し、次は私がやってみますと、順調なところではじっと見守り、手つきが変になるとスッと手をのばして直してくれます。おばさん達はベルベル語しか話せないの、言葉は役に立たないのです。必要に応じて娘さんが通訳をしてくれましたが、少くとも織り方の習得には不可欠ではありませんでした。外国語を専攻した者の悪い癖で、つい言葉から人間関係を始めてしまおうとしがちな私にとっては良い経験でした。帰国準備に追われ、カットパイルは家で一度練習したのみで、作品になっていません。これも今後の練習課題です。

こうしてふり返ると、私のタビ経験は、まだほんの入口に足を踏み入れたばかりで、その行く末はこれからの練習にかかっているといえます。

5 エピローグ

タビ織りを始め、数々の伝統工芸に興味を持ち、歩き回ったことによって、私のアルジェリア滞在の3年間は、実に彩りの豊かなものとなりました。その理由は先ず、行く先々で多くの人の善意に触れたことです。何の前ぶれもなく現われあつかましい依頼をする私に、皆様にとまどいの表情を見せま

したが、真剣に気持ちを説明するとたいい受け入れてもらえました。私が外国人で帰国まで長くないこと、女性であること、日本人であることなどが幸いしたとも言えます。多民族国家で排他的一面を持つ上に、社会主義・警察国家の常として思想言論が必ずしも自由でないアルジェリアでは、むしろ同じアルジェリア人同士の間に警戒心があります。しかもプライドの高い国民ですから、外国人に対してよい面を見せようともしてくれません。男性が女性にやさしいのも、弱者に対する寛大さの表われなのでしょう。もし私が女性として魅力ある存在であれば別の要素も加わるのですが… また、「日本を見習え。」という政府のキャンペーンが効を奏してか、対日感情はおおむね良好でした。「国を知ることは、人を知ることである」そんな気がします。様々な人に出会い、話をし、考え方などに触れたことにより、アルジェリアという国が私の心の中にドンと腰を下してしまった感じです。もう一つの理由は、もっと凄然としてうまく表現できませんが、ひとりでトントンと織物をしながら、同じ頃どこかで同じように機に向っているアルジェリア女性に思いを巡らせることができたことです。手がかかり根気のいる同じ作業をしている、それだけのことで、見知らぬ

人を身近に感じる、と言えばオーバーになるかもしれませんが、それに近い感じですか。カットパイルを救ったオーレス出身の人の家で、実はもうひとつ思いがけないことがありました。そこでバッタリ、タビの店の親切的なムッシューに再会したのです。彼はその家族の親戚でした。ちょうど救わっている最中に訪ねてきて、私を見つけて啞然。偶然という形の神の申し召しであると思わずにはいられませんでした。

帰国後半年になろうとしているにもかかわらず、まだ織物を再開するに至っておりません。本稿を書きながら、「早く終りたい」という気持ちが次第に募ってきました。一日も早く人に見てもらえるものを作りたい。そうすれば私と同じように織物に興味を抱いてくれる同好の志が得られるかも知れない。そんな気持ちでいっぱいです。そして、私が織物を続けていくことができれば、もう二度とは訪れることがないかも知れないアルジェリアとの絆が細くとも、いつまでも切れずに続くのではないかと、そんな気がします。

中華民國滞在三年間を終えて

高雄日本人学校
寄島町立寄島中学校

浅尾豊

ジェット機で東京より約3時間、香港より約1時間で桃園国際空港へ到着。

歴史的に言えば台湾はもと中国の版図であったが、1895年日清戦争の結

果によって日本に割譲され、第2次大戦後50年ぶりで再び中国に復帰し、今では中華民國の一省として、また、中国政府の臨時所在地にもなっており自由陣営の反共基地として大きな役目を果している。

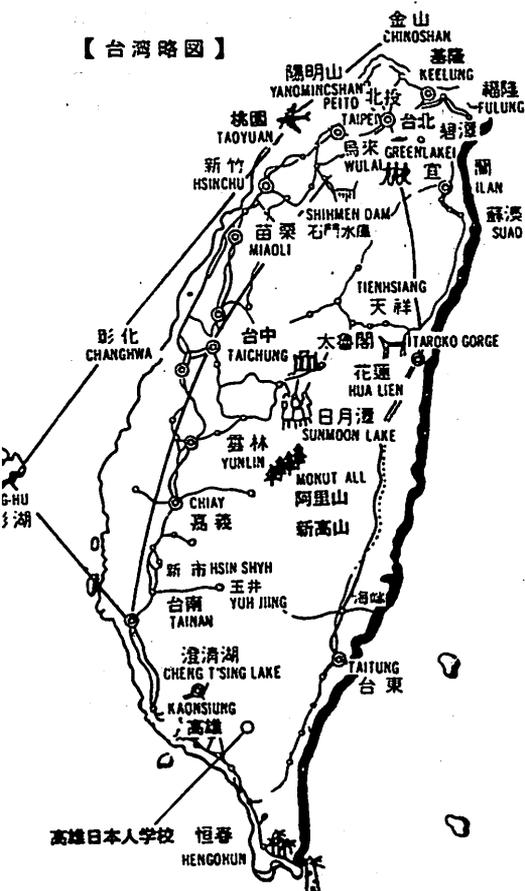
台北は1967年7月1日から特別都市に昇格し、中国政府の臨時首都になって、戦前30余万人の人口が今では全台湾人の人口の約1割以上、約220万人である。

台湾の地形と民族

「台湾の地形」 台湾本島は北から南まで縦の長さは383kmで、東西の一番広い所でさえ142kmの細長い島である。

中央山脈が島の南北を貫き、本島を東と西に分断している。台湾の山岳で1000m以上の山は49もあって、その内で一番高いのが玉山(旧称新高山)で海拔3997mで、台湾本島の100m以上の山岳地帯は70%を占めており、30%が100m以下の平地の割合になり、河は地勢の影響を受けて、河床の

【台湾略図】



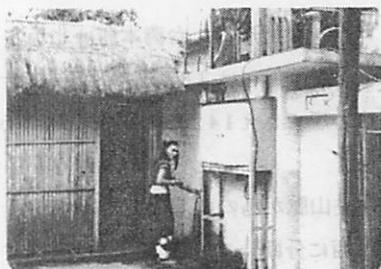
高雄日本人学校 恒春 HENGCHUN



阿美族酋長



阿美族少女



阿美族住居



阿美族住居

傾斜が比較的高いので、流れが短かくなっている。

台湾本島の外、北、東及び南に大小合せて11の島があり、その内で西側にある澎湖島は、64の島が集って形成されている。台湾のほぼ中心に近い嘉義の南が北緯23.5°にあたり、北回帰線が横断しており、台湾の北半分は亜熱帯で、南半分が熱帯に属している。

台湾海峡を隔てて、海の向うには中国大陸がある。いちばん近いのは福建省で、海峡のいちばん狭い所は約150 Kmである。

台湾を台湾と呼ぶようになったのは、清の初めの頃で、勿論オランダ人が台湾を占領していた時も福建省の発音で「タイワン」と呼んでいたそうであるが、その範囲は今の台南の安平一带に限られていた。

漢民族が台湾を発見したことについてはいまだにはっきりしていない。

考古学上からは秦か漢の時代でないかと言われているが、とにかく漢民族がいちばん早く、台湾に住みついた民族でないことは確かで、山胞の高砂族はその以前から住んでおり、原住民と言われている。

漢民族が台湾を統治するのに大変苦勞した事実は、食人の悪習を改めさせるため我が身を犠牲に供した史実によっても明らかである。

人々はこれを統括して高山同胞と呼んでいるが、日本時代は高砂族と呼んでいた。

現在台湾に住んでいる高砂族は鈴木明氏によれば、九つの種族に分れている。

(1) タイヤル族

約 51,000 人で、高砂族の 42% を占めている。

(2) サイシャット族

約 2,500 人で、タイヤル族の圧力を受けて山麓に降りて住むようになり漢民族との接触も多くなっている。

(3) ブヌン族

25,430 人で高雄県、台東県の山地に住む典型的な高山民族で、海拔 1,000 ~ 2,300 m の高山に居住している。

(4) ツォーウ族

3,400 人程度で、海拔 1,000 m ~ 1,500 m の高地玉山に住む。

(5) ルカイ族

台東県の上流に住む。

(6) バイワン族

高山族三大種族の一つで約 42,400 人

(7) ビイウマ族

約 3,000 人程度で台東県の山地に住む。

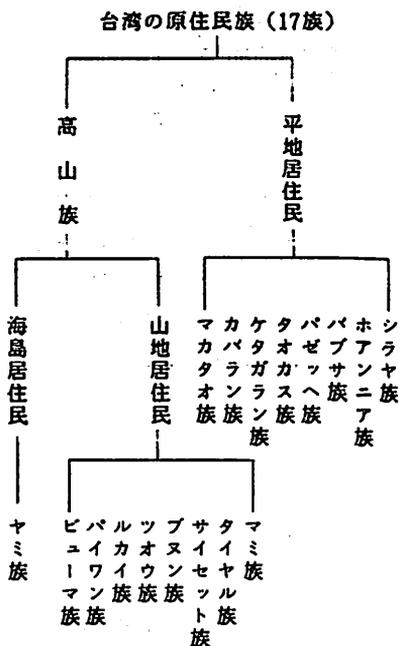
(8) ヤミイ族

観光客によく知られる民族で 67,000 人といわれ原住民中で一番人口が多

く、母系制度で、年令別の階級制が強い。

(9) ヤミイ族

16,19 人で原始的な生活様式で暮している。



生活概況

台湾は最近めざましい経済発展をとげており、その基になる工業生産は、南部の百万都市高雄の加工区（工業団地）で集中的に行なわれている。そこには日本との合弁会社があり日本人が多く働いている。市内には家族も含め約 1000 人の日本人が住んでおり、そのうち

【ハイワン族の歌謡】

— 粟祭り、姉をしたらう歌 —

ナルワン ヒナルワナ イヤーファイヨ
 ナシーヘル オフョー オイヤ
 オーイナル イヤナイヨア
 ナシルオルオーマダ
 チソー ホナチーヒカアラ
 コネナクダグラヤ
 マヤクーナ マハリイヤリー
 アータオマライチーモアラ
 クスアガキエバラ
 ナール オ ハナルワーンナ
 イエイヤファイヨ
 ナシー ヘルオオフヨオイヤ
 オーヒナル イヤナイヨア
 ナシルオルオーマダ

私の大好きなお姉さん (日本語訳)
 私のことを、絶対に忘れないで下さい。
 今、粟祭りの祭りがありますので、遊びに来て下さい。
 私は、どんなことがあっても、あなたを忘れることができません。
 お姉さんが私のことを忘れても、私のお姉さんをしたう心は、変わりません。
 どうか、粟祭りには、来て下さい。
 そして、ほがらかに、遊びましょう。

供達がきょうもスクールバスで市中心よりやや東にある日本人学校へ通学している。

高雄市ではここ2～3年の間に近代的なビルがどんどん建てられている。

日本人学校は三階建ての校舎一棟と四階建ての校舎一棟、それにグラウンドの端にプールがあり、海外日本人学校としては、余裕のある施設となっている。学校には小学生、中学生あわせて240名、教員15名、その他現地人講師事務員、用務員、運転手、11名で構成されている。

この現地の方はいずれも日本語が話

せる。



高雄日本人学校

左3階建小学部、右3階建中学部
 また、教員の中で台湾の人と結婚し高雄に住んでいる女性もいて、台湾の人達は私達日本人をなつかしがり、親しみをもって接してくれる。タクシーに乗ると運転手は日本の演歌のカセットをかけてくれる。50才位より上の人は、日本時代の教育を受けており、日本語が話せ、酒を飲みながら日本のナツメロを歌う。私達が買い物に店へ行



中学部校庭で

たくましく育てている日本人学校生徒くと、日本語の話せない若い店員は二階からおじいちゃんやおばあちゃんを連れて来て通訳をしてくれる。そんなことで言葉の不便はないが、そのことが中国語を勉強する障害になっている。日本人学校の児童、生徒は、容貌も変らない人達の中での生活にすぐ慣れる

ようである。

食物は豊富で日本料理店もたくさんあり、米も日本のものほどおいしくないが現地米（2～3期作が行なわれている）が安く手に入る。半年以上が夏の気候なので、学校では11月中はまだ水泳が盛んで、転入してきた子供の一番の抵抗はこの水泳練習のようだが、1～2か月たつと見違えるようにたくましくなってくる。現地の小中学校、アメリカ人学校、韓国人学校との水泳大会にも参加し、たくさんのカップを獲得している。

1500年の初め、ポルトガルの航海者が初めて台湾海峡を通過した時、萌える緑におおわれた美しい島を見て、そのすばらしさに思わず「イラー、フォルモサ」（麗わしの島）と呼んだように、日本人もかつて「蓬来の島」、「高砂の島」などと呼んでいた。この呼称は、この島の美しさ、平和と、豊かさを十分に表現していると思われる。島全体は木の葉のような形をし、世界地図の上では豆粒ほどに見える台湾も、実際の面積は35961㎢で、日本の九州本土より少し大きく、オランダとはほぼ同じである。北回帰線が嘉義市付近を横断していて、全島は降りそそぐ太陽のもと豊かに熱帯植物が繁り、ハイビスカス、ブーゲンビリアなどの花が街を彩っている。また、バナナ、西瓜、パイナップル、パイナップル、マンゴ、

レシ等日本では味わったことのない果物も年中市場をにぎわしている。世界でも人口密度の高いこの国だが、いたるところに出されている食料の店、果物の山、食べても食べても尽きない台湾の食料。朝早くから食べ物屋が屋台を出し、さすがに「食」の王者中華民国である。

標準語は、北京語（つまり中国語）となっているが、いちばん多い福建人は福建語を、また廣東人は広東語を、その他17種族もの山地人は独自の言語の他に、いまだに日本語を共通語にしている者もいる。

しかし、何と言っても、この国では伝統ある中国文化の精粹と中国人独特の生活様式と、芸術文化のすばらしさを見逃すわけにはいかない。彼等の宗教生活と最も密接な関係にある仏教、儒教、道教の数多くの寺廟の赤、黄、緑とカラフルな瓦でふかれた屋根、石柱と壁に刻まれたすばらしい中国古風の竜、獅子、鳳凰の彫刻。今でも、邪心や、鬼を払うことができると信じられ、事あるごとにバンバン鳴らされる爆竹、線香の強い香り等興味深いことがいっぱいである。

この台湾、高雄で、見るからにたくましい日本の子供達、国際人としてすくすくと育っている。過日、社会見学で、高雄市長を訪問した。翌日の現地の新聞に、市長談として、

「日本人学校の学生が訪問するという事なので、どんなかわいい子供達が来るだろうと楽しみにしていたところ、会ってびっくりしました。台湾の子供達よりも黒く日焼けして、たくましい子供達ばかりです。その上、次から次へと質問せめにあって……」と報道された。

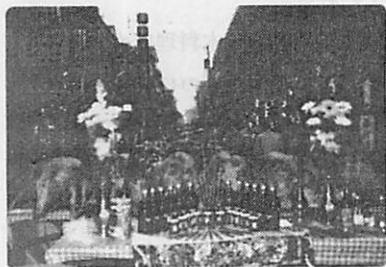
台湾は現在、政治的には、わが国と国交断絶状態にあるが、経済的には密接にお互いのつながりを持ち続けており、市内を走る車、電機製品等ほとんどが、日本製であり、その量は日本と変らぬくらい多いし、衣食住についてもかなり高い文化生活に近づきつつある。

このように、文化、経済の面では政治とは関係なく日中の交流が続けられている。

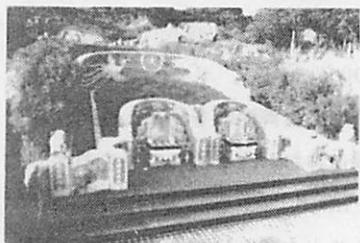
日本時代 1895~1945 台湾民主国と抗日運動

1895年4月17日、下関で講和条約が結ばれ、台湾割譲がはっきりした。日本の台湾統治に反対する人々は、1895年5月16日、台湾巡撫唐景崧を総統に推し、丘逢甲が副総統となり内閣をつくり、地方首長を任命し、移住民の有力者を議員とする議会を設置した。

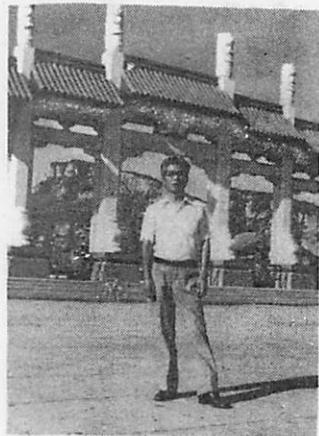
23日には「台湾民主国」として独立宣言を諸外国に通告し、年号を「永清」とし、国旗・国印をつくった、し



高雄市 代天宮 30年に1回漁業者をまつる盛大な祭典 1982. 2.



中華民国人の墓地 1982



梨山 標高 2,600 m

かし、すでに澎湖島を占領されていることから、台湾防衛の不可能を知った唐景崧は家族を大陸に帰すと共に清朝に指示をあおいだ。

清朝は「すみやかに任地を離れて北京にもどるべし」と訓電をよこしたが情勢がそれを許さなかった。一方、初代台湾総督に任命された樺山資紀海軍大将一行500名は、北白川宮親王ひきいる近衛師団とともに台湾接收と鎮圧（ちんあつ）に出動した。樺山総督は5月28日基隆沖の横浜丸船上において清国使節と受渡手続を実施し、翌日近衛師団は基隆の南に上陸した。上陸した日本軍は、海軍の協力を得て6月3日基隆を占領した。基隆占領に驚いた唐景崧は、6日ドイツ汽船で廈門に去り、前後して民主国要人も台湾から逃げ去った。

このため日本軍は、6月7日に台北を無血占領し、17日には始政式を行った。

台湾領有に出動した日本軍は、兵5万と軍夫2万人それに軍馬9,400頭という大部隊であった。これに対し民主国軍は、正規軍35,000人と移住民による義勇兵約100,000人であり、はるかに日本軍の方がすぐれていた。簡単に台北を占領できた日本軍は、7月29日、南への討伐に出発したが、南下するにつれて抵抗は益々激しくなり、進撃の速度は非常に遅く、日本軍の損害

も大きくなっていった。

基隆→台北→新竹→台中→彰化→と南下を続ける日本軍が、嘉義を占領したのは9月29日のことであった。

しかも台南城には、黒旗将軍と呼ばれる清国軍人劉永福が黒旗軍を中心に30,000人近い兵力を持って守っていた。

しかし、兵士に対する補給に苦しんでいた劉永福は、資金を得るために、大陸に逃げる裕富な商人から見逃し料をとったり出港税を取ったりしていたが、6月には紙幣を、7月には郵便切手まで発行して資金集めに苦勞していた。

これに対し日本軍は、再編成した南進軍で台南を三方向から攻撃する態勢を整えた。

このため補給に苦しみ、士気が落ちたことを知った劉永福は、イギリス人を通じて日本軍に休戦を申し入れたが、日本軍は降服することを求めたため、彼は10月19日イギリス船に乗り脱出した。こうして台湾民主国防衛戦は終！ここに台湾民主国は消え去った。しかし台湾人の武力抵抗は、さらに続き、日本が台湾全土を鎮圧し終えるのに、1902年5月鳳山の林小貓を討伐するまで7年間も必要とした。

1902年で武力抵抗は一応終るが、1907年からは政治闘争となった。しかし、未然に発覚したり、規模も大きくなかったが、捕えられたり、死刑にな

る者は多かった。

日本時代の台湾開発

日本時代の台湾総督府は、武力抵抗を鎮圧する一方で、台湾の近代化をすすめるため、各地を開発し植民地としての役割を果たそうとした。このため、総督府は、塩・樟脳・酒・タバコ・アヘンを専売とする一方、日本の企業を誘致し、土地をタダ同様の値段で売り、多くの利権を与え保護した。そこで多くの企業が進出し、急速に工業化が進められていった。一方、農業技術の改革や、近代工場の設営は、台湾人の生活を大きく変えた。日本の台湾領有以来30年間で、耕地面積は約2倍になり、工業生産は約70倍にも増えた。しかしその裏には、台湾の人達の苦しみや、犠牲も多かった。

台湾のアヘン政策

台湾が日本に割譲される時、李鴻章は伊藤博文に「台湾人のアヘン吸飲は久しいことにて、これを禁止することは、できないであろう。」といったほど台湾におけるアヘン吸飲の習慣は根強いものがあつた。

台湾領有後、後藤新平衛生局長の意見を採り入れ、新規のアヘン吸飲を禁止すると共に、医師の診断によりアヘ

ン中毒と診断された者に限り、官制アヘンの購入吸飲を許可し、総督府の行政指導の下に徐々に減少させていく方法をとった。

このため1898年(明治31年)1月にアヘン令を制定し、アヘンの専売制度を採る一方中毒患者の調査を実施し1900年(明治33年)には165,752人の患者が記録された。これらの患者には販売されたが、他人に与えたり、輸入や製造したり、吸飲の道具や場所を提供した者は厳罰が加えられた。また学校ではアヘンの害を教え、中毒患者の更正院を設けて治療にあたらせた結果、1924年(大正13年)には、36,627人に、1943年(昭和18年)には5445人に激減し、1945年(昭和20年)には全面的に禁止する厳禁令が制定され、台湾からアヘン吸飲の悪習が50年近くかかって追放された。

このアヘン政策は、台湾における日本の誇るべき政策の一つでもあつた。

台湾を愛した日本人 八田與一と嘉南大圳

1922年(昭和57年)の5月8日烏山頭水庫の起点になった小高い丘の上で、嘉南農民と嘉南農田水利会の人々の手によって、嘉南大圳を設計し完成させた八田與一技師の追悼式が行な

われた。

この追悼式が行なわれた日は、ちょうど40年前のこの日、フィリピンの灌漑設備の責任者として赴任する途中、アメリカの潜水艦によって九州沖で撃沈され不帰の客となった八田技師の命日でもあった。

嘉南の人々は、毎年こうして嘉南大圳の牛みの親である八田技師の命日には追悼式を行なって、八田技師への感謝の気持ちを決して忘れないように努めている。

その八田技師は、1886年石川県金沢市で生まれ、1901年東京大学農学部を卒業すると、その年の8月、24才の彼は直ちに台湾総督府の技手として、台湾に渡り、総督府内務局土木課に勤務するようになった。

八田技師が渡台した頃は、日本が台湾を領有して15年たった頃で、これから台湾の近代化に向けて取り組まなくてはいけないと考えられていた時代であった。

八田技師は、港湾、衛生工事を担当した後、発電工事に移り、日月潭の発電所調査にたずさわった。この工事を通して、業績を認められるようになった八田技師が、目をつけたのが、当時不毛の土地と言われた嘉南庁と台南庁にまたがる南北92 Km、東西32 Kmの当時嘉南平原と呼ばれる地域だった。

嘉南平原は年間降水量が、2500 mmもあるが、この雨は5月から9月に集中して降るため、雨期には洪水を引き起し、反対にその他の月は乾期となって降水はほとんど見られず水不足を起して、土はひびわれ、風が吹くと土ぼこりが舞い上がり、米はおろか他の作物もあまり獲れない土地であった。その上付近では、台湾海峡から吹き込んでくる潮風と砂を通して浸み込んでくる海水によって塩害を受ける。まさに洪水と早魃と塩害の三重苦が支配する土地であった。

八田技師は、この土地に一大灌漑排水土木工事を行なえば15万ヘクタールにわたって土地改良ができ、洪水も、水不足も、塩害も、すべて解決したうえに、米ができるようになり、7万5千トンもの食糧増産ができるようになると考えた。

この計画は、総督府の認めるところとなり、30才を過ぎたばかりの八田技師は、嘉南平原での現地調査を行なうことになった。

着工にこぎつけるまでの4年間、現地調査を実施していた八田技師は、調査結果から具体的な工事計画をたてた。

台南市の北に曾文溪と呼ばれる台湾第4位の川があり、その支流に官田溪と呼ばれる小さな川が流れている。

八田技師は、この官田溪の上流の烏

山頭と呼ばれる場所に一大土堤を築いて川をせき止め、自然の谷あいを利用して一大人造湖をつくることにした。そして、この人造湖に水を貯えるため、烏山嶺と呼ばれる山に全長3107mのトンネルを掘って曾文溪から導水することにした。しかし、この貯水池の水だけでは9万8千ヘクタールの土地にしか灌漑できないため、残りの5万2千ヘクタールの土地は、直接濁水溪の水を取り入れ、水路で結びつけることにした。

こうして15万ヘクタールという香川県に匹敵する土地への灌漑土木工事が計画されたのである。

この工事は嘉義庁と台南庁にまたがる広大な土地に及んでいたために嘉南大圳と名付けられ、6か年の工期と4千200万円の予算で1820年（大正9年）9月1日に始められた。

工事は、烏山嶺隧道工事、烏山頭堰堤工事、給排水路工事に分けられた。工事は東洋一といわれる規模であったため想像を絶する難工事となった。

烏山嶺隧道工事では、隧道を掘り進むうちに石油ガスが噴出爆発し50名余りの死者まで出し、その後も泥土が噴き出したり、石油の噴出が起り再三中止になり、計画も度々変更されたりした。王育徳氏によれば、また、烏山頭堰堤工事は、高さ56m、全長1273m

底部幅303m、貯水能力1億5000万トンにもなる、東洋一のダムをつくるというものであり、しかも、この土堰堤をつくるのに、日本はおろか、東洋でもいまだかつて誰も試みなかった「セミ、ハイドロリック工法」を採用した。

この工法は、土や砂それに石を突き固めていく乾式のロックフィルダムではなくて、土砂、石をいらしに積み上げておき、ジャイアントポンプで強力に水を吹きつけ、小さい粘土、砂、砂利、栗石、小石、大石の順に流して中央に粘土、外側に大石が残るという独特の湿式ロックフィルダムであった。この工法によるダムは、アメリカに数例あるだけで東洋では唯一であり、後日、八田ダムと呼ばれるようになった。

これらの工事がすべて完了し、珊瑚潭に水が貯えられはじめたのは1903年（昭和5年）の春のことであった。

10年間の歳月と5413万円余りの費用をかけた嘉南大圳は完成した。

この嘉南大圳の完成によって不毛の土地と呼ばれた15万ヘクタールの土地は、台湾の穀倉地帯と呼ばれるようになった。

嘉南の農民は、待望の嘉南大圳の完成を喜び合うと共に、この難工事に挑戦し、青春を捧げた八田技師に、心から感謝した。そして、嘉南大圳の工事にたずさわった人々で組織された交友

会の人達と共に、八田技師の銅像を作り、翌年の7月に烏山頭ダムの起点になった丘の上に置いた。

やがて、太平洋戦争が始まり、八田技師は日本の占領地であった南方(フィリピン)の調査に総督府から派遣されるようになった。

1942年(昭和17年)5月5日、広島県宇品港で他の技師と共に大洋丸に乗り込んだ八田技師は、最初の寄港地フィリピンのマニラに向けて出港した。

出港して3日後の5月8日、九州の南西五島列島の先の男女群島沖にさしかかった時、アメリカの潜水艇が大洋丸めがけて魚雷を発射した。午後7時45分のことである。3発の魚雷が命中し大洋丸は大火災を起して1時間後に817名の人達と共に海の藻くずと消えた。そして、この時、八田技師は不帰の客となったのである。時に56才であった。

太平洋戦争が激しくなり、物資が不足してくると、軍需物資にするため八田技師の銅像が供出されて烏山頭ダムから姿を消した。嘉南の人々は、八田技師の死と、銅像の供出を悲しんだ。

しかし、悲しみはこれだけで終らなかった。台北から疎開のために烏山頭に来ていた八田技師の夫人、外代樹さんが、日本が戦争に負けた2週間後9月1日未明、八田技師がその生涯をか

けて造りあげた烏山頭ダムの排水口に身を投げて夫の後を追ったのである。まだ45才の若さであった。

嘉南の人々は、深い悲しみに沈んだ。台湾は日本の敗戦によって中華民國に返還され、次々と日本人は引き揚げて行き台湾の主人は、日本人ではなく、台湾の人々になった。

戦後の混乱の中で生活は苦しかったが、嘉南の人々は、嘉南大塚の生みの親が誰であるかは決して忘れてはいなかった。

嘉南の人々は、苦しい生活の中からお金を出し合い、八田夫妻の墓をつくることにした。しかも、日本式の墓にするため、大理石ならタダ同然の台湾で、御影石を探した。やっと高雄で御影石を返見した人達は、日本式の墓を注文して購入し、かつて八田技師の銅像の置かれていた場所のすぐ後ろに建立した。戦争の終わった翌年の12月15日のことである。

その頃、供出されてなくなっていた八田技師の銅像が、隆田の町で偶然嘉南の人によって発見された。

駅前の倉庫の中で他の物といっしょに積み上げられていたのである。嘉南の人々は喜んで、再び銅像を買い戻した。この銅像は、長い間、嘉南農田水利会烏山頭管理事務所に置かれていたが、1981年(昭和56年)の1月1日

かつて八田技師の銅像が置かれていた場所にきちんとした台座までつけて再び置かれた。

八田技師の銅像は、温かい嘉南の人々に見守られながら、きょうも青春を捧げて完成した美しい珊瑚潭を見下ろしている。

そして珊瑚潭から送られた水は、嘉南平原を潤し、50年余りたった今日でも嘉南の人々に多くの恩恵を続けている。

磯 永吉 博士

台湾の蓬莱米の研究に全生涯を捧げ、「台湾に磯 永吉あり」とまで言われた磯博士は、1886年（明治19年）広島県福山市で生まれ、1905年には札幌農学校に入学した。

その後、東北帝大農学科を1911年に卒業し、翌年の3月には、台湾総督府に農事試験場技手として台北に赴任した。ここで始まったばかりの米種改良事業に参加し、これが生涯の仕事となった。

1914年（大正4年）4月には技師になり、翌年2月台中庁技師となって台中農事試験場に移り、ここで遺伝学を応用した純系分離、交配など育種法を実施して多くの業績をあげた。

その後、アメリカ・ヨーロッパに留学し、1930年（昭和5年）に帰国後、

台北帝国大学の教授となる。1942年には、大陸の福建省・フィリピン・海南島などに出張し、調査指導を行なった。

日本の敗戦後も中華民国政府の要請によって台湾に残り、12年間の長きにわたり中華民国政府の農林庁顧問として指導を続けた。

1957年（昭和32年）8月日本に帰国したが、この帰国は、台湾に渡ってから45年ぶりのことであった。帰国にあたり、中華民国蔣介石総統より景星勳章を授与されると共に、毎年蓬莱米20俵が送り続けられた。

帰国後、1966年（昭和41年）には勳二等旭日章を受けたが、翌年病気で入院し、1972年（昭和47年）1月2日、85才で亡くなった。米寿にあと3年足らなかったが世界の人々からその死を惜しまれた。

日本の敗戦と台湾

太平洋戦争が始まって2年近くたち、日本が各戦線で敗退していた1943年11月27日、連合国首脳であるルーズベルト大統領、チャーチル首相、蔣介石総統の三者がエジプトのカイロにおいて、対日戦争の作戦会議を行なった。おもな議題は、天皇制存続問題と日本の軍事占領の方法および中国の日本に対する賠償要求であった。この中で一

番問題となったのは、天皇制府統問題であったが、蔣総統は天皇制を廃止することの非を力説し「敗戦後の日本の政体は日本人の意志に任すべき」ことをカイロ宣言の中に残した。また軍事占領についても「現在の中国においては、その重要な責務を負う用意はない。むしろその任務は合衆国の指導のもとに遂行するべきである」と述べ、さらに「賠償の一部は、日本が戦後において物納のかたちで中国に支払うべきもの」だとし、会談においても確認された。

しかし1952年4月28日台北における日華平和条約が結ばれる時、蔣総統は自発的に日本への賠償請求権を放棄した。これは敗戦で疲労しきっている日本にとって大きな救いであった。

また、戦後の領土問題については、日本が武力によって中国から奪い取った満洲・台湾・澎湖島を中国に返還することを決定し宣言文が発表された。このカイロ宣言が、1945年7月27日に発表されたポツダム宣言と共に敗戦後の日本の方向を決定した。

1945年8月15日、天皇の「終戦の詔書」が放送され、太平洋戦争は終わった。

その日の台湾は、静かだった。台湾で生活する日本人も台湾人もいつものように生活していた。戦争が終わったこ

とを知った者は、少なかったし、ましてやこの日をさかいに台湾が中華民国に返還され、日本人が敗戦国民で台湾人が戦勝国民になったことに気づいた人はあまりなかった。むしろ、台湾人も日本人と同じように「戦争に負けたい」と思った人が大部分だった。それほど日本の皇民化運動は浸透していた。

しかしやがて日がたつにつれて台湾が中華民国に返還され、日本人に代って中国人が台湾の主人になることがわかってきた。

これまで台湾を統治し、台湾の人々を差別していたにもかかわらず、満洲や朝鮮で起きたような日本人に対する激しい仕返しは行なわれなかったが、中華民国旗が街にあらわれたり「光復旧山河」と書かれた看板や幕が出現しはじめ、台湾人は、日本の植民地支配から解放された喜びと戦争の終わった喜びを味わった。

戦が終わった時台湾には約670万人の台湾人、28万5000人の日本民間人、15万8000人の将兵と軍属、5000人の沖縄人、2000人の朝鮮人がいたが、日本人がどうなるかは誰にもわからなかった。

一方中国大陸には、約130万人の将兵と85万人の日本人がいた。日本軍は日中戦争で、300万人の兵士を殺し、多くの民間人を傷つけ殺していたため

中国人は、日本人に対して報復を始めた。しかし蔣介石総統は、

「既往をとがめず怨みに報ゆるに徳をもってする」とラジオを通じて全中国人に呼びかけ「日本人に対して報復や侮辱を与えるべきでなく、できるだけ早く日本人を帰国させるべき」という方針を決めて実施した。

これに対しソ連は満洲などにいた日本人 57 万人余りをシベリアに強制連行し収容所に入れきびしい寒さの中で労働させた。このため多くの日本人は寒さと飢えと病気の中で 5 万 5000 人もの人々が死んでいった。

日本が戦争に敗れたのは 8 月 15 日であるが、台湾が正式に中華民国に引き渡されたのは 10 月 25 日の調印式においてである。このため現在 10 月 25 日を「光復節」として祝日にしている。

1946 年 2 月 15 日、日本人の台湾引き揚げ命令が発表された。この命令は、台湾に残りたくても許可のない者は残れず、反対に帰国したくても台湾に必要とされた人は帰国を許されず、日本人の持って帰れる財産は、洗面器・コップ・タオル・歯ブラシ・歯磨き・かき・靴・コート・上衣・寝巻・帽子・釜・鍋・庖丁・万年筆・鉛筆・筆・インク・時計各 1 個ずつ、石けん・毛布・櫛各 2 個、靴下・パンツ各 3 個、それに凶器若干と現金千円に決められていた。そ

して命令が出されて 2 週間後には早くも引き揚げ第 1 便が台北を出港して行った。すべてのものを失った日本人引き揚げ者に対し台湾の新聞は温かい言葉を送った。

在台の日僑は、数十年来彼等の心血を、台湾建設事業に注いできたし、またわれわれのよき隣人であったと言えよう。彼等は私物を残したまま帰ろうとしている。今われわれも人情の点から言って、彼等にささやかなりとも御札を贈り、故郷に持って帰らせるのが本当ではなからうか。そしてその最も望ましいのは、彼等に精神的なお土産を贈ることである。彼等が故郷に帰って、今昔の想いに心を傷ましめた時、台湾のうるわしき風景、わけても台湾 600 万の民衆が清明心に充ち、礼節あり、情熱ある国民であることを想起せしめることである。 中華日報より

引き揚げは、わずか 2 か月足らずの期間に、双方に何の混乱も起さず、スムーズに実施されていった。40 万を超える人数が、短期間に、何の問題もなく実施された例は世界でもまれであった。

日本人の引き揚げて行く様子を見て

新聞「新生報」は3月31日に次のような記事を発表した。

われわれは日本人の引き揚げて行く行列を見て、深刻な印象を受けた。それは彼等が厳肅で整然としていたことである。

日本はかつて台湾において数十年経営を続け、その中には台湾に生活の根拠をすえ、全財産を台湾に持っていた者もある。しかし彼等はそのすべてを棄てなければならぬのである。

だがそれにもかかわらず、彼等はなお平常のごとくに静かであった。彼らは天も怨まず、人も呪わなかった。取り乱しもしなかった。

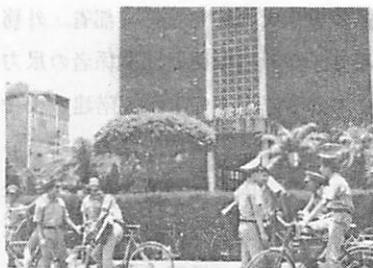
これは一人や一家だけのことでなく、われわれの知る限り、ほとんどがそうであった。

最後の引揚船が台湾を離れていったのは1946年4月25日であった。

これから後、台湾の人々は、中華民国台湾省の国民として新しい国づくりのためその一步をふみ出した。そして中華民国の新しい時代をむかえた。

学 校 の 特 色

本年で満15周年を迎える。元高雄市



中華民国高雄高等学校と学生



中華民国女子高校生の軍事教練



日本人学校運転手 陳連清氏3女の結婚式 1982. 4. 17.

長陳啓川氏の好意と、文部省・外務省・海外子女教育振興財団関係者の尽力により、3階建本館と、4階建の校舎、施設・設備共に飛躍的に充実している。

11年前、国交は断絶されたが、企業等の進出に大きな影響もなく、日本人の台湾における活躍は国交の有無にかかわらず活発になり、高雄市においても現在1200名の日本人が在住し、民間外交の役割りを果たしている。

学校は、日本国内における小中学校の児童・生徒に負けない知・徳・体の実力を養成する一方、広い視野を持つ豊かな国際人をつくるために、現地との交流を深めながら特色ある教育課程を編成している。

文化面においても、全校生の器楽合奏活動は、年間を通して練習がなされ、中日連合音楽会や、日韓米中、4か国親善音楽会、水泳等に出演して絶賛をうけている。

このほか、年3回の遠足は、この国の社会風俗の見学や、景勝地の探訪を楽しみ、小中別に行なわれる修学旅行では、在台中全島をくまなく走破する計画を実施している。

中学部の修学旅行はフィリピン・マニラ見学を実施している。

夏は水泳記録会や、全校児童・生徒による校内キャンプ、秋は日本人全員が一堂に会して行なわれる、日本人会



高雄駅

と学校共催の大運動会、そして年末には伝統行事、餅搗き大会で暑い正月の中で、日本の懐しい風習をしのいでいる。

3学期は書初め大会をかわきりに、縄飛び記録会、三角倒立記録会、台北まで走ろうの100日マラソン、そしてしめくりは豪華な演劇、学習発表会で幕を閉じる。

職員は一致結束、和気あいあい、海外子女教育の使命を十分自覚しながらも、ゆとりのある教育活動のよるこびにひたりながら業務にいそしんでいる。

1 教育目標の設定

教育目標は、日本の学校とは違った教育理念に基づいて行なわれるべきだとは考えていない。

国内、国外共通の教育理念に基づいて行なわれるべきである。

ただし、本校においては、教育の場が異文化の中にあるという事情が考慮されている。

2 異文化と国際理解

国際理解と言えども、ここ高尾では、台湾そのもの高尾を理解することであり、また台湾高雄に日本というものについての知識や理解をしてもらい、両サイドの面があってこそ国際理解と言える。

しかし、政治上の問題もあり、困難な面もあるが、現在、過去において行っていた、現地校との交流の深まりを多く持つべく努力した。

台湾の学校の書道・絵画・墨絵・音楽会等も見ごとな成果を発揮しているので、その方面での交流こそが国際理解教育につながる第一歩である。

国内と全く異なる環境の中で、教育施設を整備するにも、法的に日本の主権が及ばない状況下にある。様々な経緯によりきょうがあり、将来が決して安定約束されたものではなく、本校の運営と指導に当たる者の苦悩は想像できない厳しいものがある。

児童・生徒は異なった価値観を持つ民族国家の中で生活し、学校生活を体験しているので、人間関係や精神面の発達に多様な影響が生じる。またそれぞれの置かれている立場や条件は千差万別である。ひとりひとりが異なる生活や環境の中で、外国にあることを生かせる教育とその目標を達するために、教材の工夫と、それが帰国後の生

活の中で有効に働くよう指導していかねばならない。

「国際理解」をめざす

「台湾郷土史クラブ」の活動について



台北日本人学校
岡山市立桑田中学校

岡 本 利 和

1 「台湾郷土史クラブ」

の成立まで

(1) 社会科の授業で

「君たちは台湾で生活している。君たちのまわりには台湾の人達がいる。だけど、君たちは台湾や台湾の人たちについて、どれだけのことを知っているのか。また、知ろうと努力しているのか。」

台北日本人学校での2年目。小学部1年生の社会科の授業で、私は40人あまりの生徒たちの前で、こう尋ねた。

「台湾や台湾の人々を理解するために、台湾の歴史や社会について知りたい。けれども、どうしたらいいのかわからない。日本語のガイドブックは、観光地や観音街しか載っていない。」

彼らの答は、概略このようなものであった。

この答は、私にはひどく新鮮に感じられ、同時に、彼らの「健全さ」に救われた思いもしたのであ

った。

(2) 台湾の日本人子弟たち

台湾に住む日本人の間でよく使われていたことばに「台湾製」がある。「作りが粗末で壊れやすい」(児童の話)台湾製品から出てきたことばであり、もちろん、その反対の極には「日本製」があることは明らかである。そして、この「台湾製」論議は、特に児童にかわりのある玩具に顕著であったが、おかあさんたちの間でも、よく話題になっていたようだ。

また、古い衣服もくり返し洗濯しては身につける質素で儉約な台湾の庶民の生活。あるいは、日本人学校の体育倉庫や教室へも度々泥棒が侵入したことなど……

このようなことが影響したのであろうか。児童の「台湾」ないしは「台湾の人々」に対する批判は極めてしんらつで、べっ視といってもよいようなものだった。いわく、「きたない」「貧しい」「ひ

きょうだ」「なんでも日本のまねをする」等々、日本人学校の近くに住む、台湾の子どもたちとのトラブルも、日常茶飯事のことだった。

思ったことをそのままストレートに口に出す児童のことばにハラハラしたり、腹を立てたりしながら、その都度指導は尽してきたが何とかしなければと気がかりなことであった。

(3) 「小さな国際人」

と日本人学校児童

このような児童と台湾の人々とのかわり方を考えたとき、いつも思い出すのは、赴任前の研修会で聞いた「小さな国際人」の話であった。カルチャー・ショックに戸惑うおとなたちをしり目に、いち早くことばを覚え、現地の子どもたちとの友情を育てている彼ら。

私の目の前にいる児童も、やはり「小さな国際人」のひとりではないのか。真の国際人とは、その国の人々の立場になってものを考えることができる人々である。彼らには身につけなければならないことがまだまだたくさんあるということを痛感させられたのだった。

しかし、冷静に彼らの置かれた環境を考えれば、一概に彼らだけ

を責めるわけにはいかない。登校にはスクールバスを使い、タクシーで塾へ通う。児童数が多いので遊び友だちにもこと欠かない。家庭での台湾の人々との交際は、大部分が日本語の話せる会社関係者。市場に買いものに行っても、日本語教育を受けた方々がおられるし、デパートの店員さんたちもカタコトの日本語をしゃべってくれる。つまり、台湾の日本人には台湾の人々と交際をしなければならない切実感がないのである。日本での生活をそのまま台湾でも続けることに、全く抵抗はない。すなわち台湾の日本人の生活は、台湾の人々のそれとは隔絶されたところにある特殊な生活なのである。児童たちも外地に住んでいるけれども日本にいるのと全く同じ意識で生活しているといっても過言ではないのだ。

(4) 「台湾郷土史クラブ」

をつくらう

私が社会科の授業のとき教われた気持ちになったのは、このような事情の下であった。生徒のことばの中に、台湾を、「日本」との比較を通して相違を相違として、(偏見も優越感も混えないで)認識しようという姿勢を発見したか

らであった。

台湾史に研究テーマをしぼって少しずつ資料を集め学習を進めていた私は、彼らのその願いに答えてやれるのではないかという気がそのときしたのだった。

こうして、私が社会科を担当していたクラスを中心に郷土のように身近な存在として台湾の学習を進めようという「台湾郷土史クラブ」ができあがった。そして、台湾3年目の年度初めの職員会議で承認され、成立した。

2 台湾郷土史クラブの活動

(1) 活動の概略

ア 活動の目的

(ア) 台湾の歴史の学習や遺跡・文化財の見学を通して、台湾への関心を高めるとともに台湾の人々への理解を深めさせる。

(イ) 台湾の庶民の交通機関を利用することによって、台湾の人々との交流を深めるとともに、将来独力の旅をするための基礎的な技能を体得させる。

イ 活動の方法及び留意点

(ア) 見学の効果をあげるために、教室での事前指導に重点を置く。

(イ) 資料は、ことばの問題や入手の困難さから教師が作成せざるを得ないが、生徒の発達段階に即して専門的にならないよう配慮し、その時代背景やその後の変化などが理解しやすいものにした。

(ウ) 台湾に対する理解を深めるために、台湾の開拓、民間信仰、民家など民俗学的な遺跡や文化財、あるいはSLやスポーツ交流などの生徒の興味や関心をひきやすいもの、台湾の学生や青年の活動など、生徒の共感をよぶものなど、幅広く積極的にとりあげる。

(エ) 鉄道・市内バス・路線バスを使用し、日曜日に日帰り可能な台北近郊の史跡を訪ねることを原則とする。

ウ 資料づくりの方法と参考文献
生徒への指導以前に不可欠なのが、私自身の研修であった。台湾省文献委員会の主任委員をしておられた淡江大学教授、林衡道先生の著作と遺跡見学会の説明が、とりわけ、台湾の干拓や庶民信仰について有意義だった。その他省文献委員の洪敏麟先生の御指導や、師範大学で閲覧させていただいた研究書、比

岡山県帰国子女の会「桃太郎」

岡山県帰国子女の会

代表 大 谷 裕 子

夫の任地オーストラリアより帰国し、10か月も経ちますと、子ども達はせっかく覚えた英語を忘れてしまい、親は日常の忙しさにかまけ、オーストラリアの記憶がだんだんと薄れていってしまいました。このままではせっかくの貴重な経験が忘れ去られ、血のにじむような努力が報われぬままに終るのではないかという不安にかられるようになってきました。そこで、同じような気持ちの方方、6家族で話し合い「帰国子女の会準備会…昭和58年11月」を持ったのが、当会の始まりです。岡山の民話にあやかり「桃太郎」と名付けました。

昭和59年5月19日、10家族で総会を開き、正式にスタートしました。その後、紆余曲折を経、現在20家族に増え、第3回総会を開くまでになりました。毎月1回の定例勉強会も軌道に乗っています。年2～3回の講演会は、「中国の教育について…王賓氏」・「日本の教育に思う…ライース氏」・「フランス文化と日本文化の接点…木口敬三氏」・「異文化理解について…箕浦康子氏」・「思春期をとりまく問題…青木省三氏」

など帰国子女の教育、心理、外国事情などについて行ない、専門家の方々からも励ましのお言葉をいただいているほどです。クリスマス会、年2回の子供新聞「ももたろう」の発行、海外へ出向かれる方々への助言、海外滞在中の方との文通、帰国された方々へは、教育問題・帰国後の適応問題などで相談に乗るなどの活動を、すべてボランティア精神と当会々費で賄ってきました。

今年は、垣間見た外国の状態を把握し、これから海外へ出向かれる方々のためにも、帰国子女の子ども達が外国で一体どのような教育を受け、心理的にどういう状態であったのか、専門家の協力を得て、アンケート調査を行なってみようと考えています。

21世紀へ向けて日本の教育の国際化が叫ばれて久しいですが、教育に限らず、海外で得た経験を日本の社会に生かせ、発展させることができるようになってこそ、真の国際化と言えるのではないのでしょうか。ここ岡山でも、県教育委員会への働きかけが効を奏したのか、昭和61年度開校の新設高校へ帰国子女の受け容れが決ったことは喜ばしいことと思います。

がすたれつつあります。そのため、午前中に学校を終えた子ども達は、ひとりで昼食をとらなければなりません。ひとりの孤独な時間も増え、青少年の非行化につながるということです。制服については抵抗があるといいました。それは、どうしてもヒットラーのあのいまわしい時代につながるから。ドイツ国民は意識的に「揃えることを避けます」と。

私も子ども達に質問しました。「海藻をなぜ、毒だと思っているのか」ということです。クラスで1番の秀才と評判の高い男の子が説明してくれました。「海藻はヘドロや海のクズを食べて成長するから。そのお陰で海がきれいになるのだよ。」と。

あくる日、私はのりを巻いたおにぎり・天ぷら・野菜の煮つけ・卵焼きなどの日本食を持って行きました。卵焼きは好評でした。魚の天ぷらは生臭い。野菜はきらい。おにぎりは誰も手を出しませんでした。味覚に関しては大人より子ども達の方が保守的でした。子ども達の「日出ずる処の国」日本についての知識は皆無といっていいでしょう。でも、これを機会に私達の国に興味を持ってくれるなら、こんなうれしいことはありません。外国に滞在することは、深く考えてみると、大変責任

の重いことなのですね。

「ドイツの小学校にて」

〒719-11 総社市三須 1433-25

田中 紘子 「帰国子女の会」会員

機関紙「国際理解」の原稿を、先生方と全く異質な一主婦の私が、書いていいものかどうか迷いつつトライしてみました。

ドイツに滞在したのは、わずか2年余りでした。私達にとっては良い思い出がいっぱいの2年間でした。その中で、長女の通った小学校で「日本の子ども達」についてお話したことを書きます。これは、帰国直前、担任の先生から「子ども達の国際理解のためにぜひ」と頼まれたからです。毎日40分ほどで6日間、それもドイツ語です。ずい分迷ったのですが、ドイツ人の友達も助けてくれるとのことでしたので引き受けました。でも、いったい何を話したらいいのでしょうか。早速カリキュラム作りに取りかかりました。そして、まず「日本の小学生の一日」を説明。朝の起床から床につくまでです。次にこれをさらにくわしく「お勉強について」・「遊び」・「食事」・「日本のお母さんとドイツのお母さん」。最後は「知りたいことを質問する日」としました。

子ども達は大変興味を持って聞いてくれました。が、質問が多過ぎて用意

したことの半分も話せませんでした。「日本では、学校にいる時間がどうしてそんなに長いのか。」

「給食って何だ。誰がお金を払っているのか。」

「学校でそんなにたくさんお勉強して、家でもやっていたらにならないのか。」

「落第がないのはよくない。」

「制服はどうしてあるのか。」

「学校から帰って遊ぶ時間があるのか。」

「サッカーは盛んか。」

「クリスマスにプレゼントはもらえるのか。」

「日本には、犬や猫の様なペットがいるのか。」

「彼等は何を食べているのか。」

「海藻を食べても死なないのはどうしてか。」

など、こちらがびっくりするような質問もあります。先生が時々、子どもをたしなめながら意見をはさまれます。特に、「午後の授業があり、学校で昼食を食べられること」を大変うらやましがっておりました。

最近、ドイツでも共稼ぎの家庭が増え、1日のディナーを昼食に、家族全員で、たっぷり時間をかけてとる習慣

来て」

本人学校

玉中学校

岡 忠

年 湯 山 仁 美

台湾の市場といえば、あまりきれいじゃあないと思う人もいるけれど、市場の方がデパートよりきれいで新鮮です。それは、毎朝新鮮な肉・魚・野菜・果物が運ばれてきて、その日に残った物は、肉だんご・ちくわどかの材料に使われます。

市場に行くとき驚くことがあります。それは、えびや魚がピョンと跳ねているのです。これが新鮮な証拠です。

市場は、朝市だけじゃなく、夜市もやっています。夜市は、日本でいえば土曜夜市みたいなものです。おもに売っているのは、ウサギです。あと、ジュースもアイスも売っています。

台湾の名物料理は、台湾料理と中華料理です。私が苦手な料理はこの二つの料理です。それは、にんにくが入っているからです。なぜ、にんにくが入っているのかというと、暑い国は、暑くなると栄養のある物をとらないと、夏バテをしてしまうそうです。そのバテを防ぐために、台湾の人は食事の休憩をふくめてほしい12時から2時まで昼ねをしています。

台湾の子供は、すごく丈夫な体です。それは、2才ぐらいの子が夜の10時まで起きているのです。顔を見ても全く眠そうな顔ではありません。

高雄日本人学校は、日本と全く同じです。集会もあるし、お昼の放送もあるからです。ただ、ちょっと違うことは、給食がないのと、学校に水筒を持って行くことです。水筒を持って行くということは、台湾の水が飲めないからです。

日本人学校では、もちろん、台湾にいるので中国語を習います。週に2回あります。私は、中国語をすらすらいえるようになりたいです。そのためには、いっしょうけんめい勉強しなければいけません。

私も、日本の皆さんに負けないうよう勉強やスポーツにがんばります。

になっているのです。そうしてお互いに国を理解する大切な場所に本校はなっています。

オーストラリアにとって、日本は第1の貿易国です。日本にとって、オーストラリアはアメリカに次ぐ貿易国で両国の関係はこれからいっそう深まっていくことが予想されます。本校で育った子ども達が将来、一人でも多く、国際交流、国際親善に尽してくれることを期待しながら内容の充実にいっそう力を注いでいきたいと思っています。

11月から校舎増築にかかりました。その資金集めに苦勞していますが、今後も各方面のご協力をお願いしたいと思っております。

「台湾に

高雄日

玉野市立

西

5

前略 先日、国際理解第3号を送っていただきありがとうございます。

こちら高雄は、もうすっかり夏で、毎日暑い日が続いています。

ちょうど、この日本人学校に新見から来ている児童がいますので、その子に高雄や学校の様子を書いてもらいました。

私は、岡山県新見市立西方小学校から3年生が終わって高雄日本人学校に4年の時入りました。

初めて台湾・高雄に来た時（都会だなあ）と思いました。

高雄では、ほとんど不便はなく、どっちかっついていけば、便利な方です。それは、病院もデパートも夜の10時までやっているからです。

デパートには、日本製品が、たくさんあります。日本製のお菓子や食料品もあるので安心です。

野菜や果物をデパートに売っているけど、あまり新鮮ではないので、市場で買っています。

が多いので、小学部 6年生以上で英検の 2 級を持っている子どもは珍しくありません。両国の子どもが共存する学校でお互いに相手の言葉を理解することは、国際理解を進めるうえで大切な条件となってきます。国際学級の子どもと日本人学級の子どものホームステ

は現地校も交じえて全ての子ども達が参加し、市のホールで 1 日楽しく、合唱や合奏を行ないました。このように多くの交歓行事が国際学級の存在に加わって、開かれた日本人学校としてシドニーの有名校になり、現地住民感情を好ましいものにしていていると思います。



すき焼きパーティーの国際学級の子ども達もお互いの間で行なわれており、現地校と日本人学校の間の子どものホームステイも行事の一つになっています。現地校との学年交歓は毎週のようにどの学年かが行なっています。7月のオープンデーには「日本の教育の紹介」と題して学校を開放し 900 名の現地の子ども達を迎え 1 日中にぎわいました。10月のジョイントコンサートに

国際学級の入学希望者が定員の 3 倍にも達しているのはその一つの現れかもしれませぬ。入学希望の理由として、日本人学校に行けば日本語が習え、日本の文化に接することができる、現地の人は言っていますが、逆に、日本人は国際学級のあるおかげで、オーストラリアの友達や先生と交わり、オーストラリアの文化に接し、英語も上手

国際交流の場としてのシドニー日本人学校



シドニー日本人学校

(岡山市立福浜中学校)

赤木 寛

シドニー日本人学校に私が赴任したのは、昭和61年4月ですから、いま2学期間を経過しました。昭和44年に僅か33名の児童数で発足した本校は、その後、日本とオーストラリアの貿易と人の交流の増大するにつれて増え続け、現在470名の児童・生徒がいます。この内60名がオーストラリアの小学生で、国際学級をつくっています。これが本校の大きな特色になっています。現在は複式3学級ですが、私の在任中に単式6学級とし、現在の2倍の120名にする予定です。小規模ですが、日豪の架け橋としてニューサウスウェールズ州や連邦政府をはじめ、現地社会・日本人会等、内外の注目と期待を集めている大切な学級です。その設置の目的は、具体的には、日本語と日本文化の理解を通して、日豪親善に尽くしてくれる人材を育成することにあります。国際学級の発足は、創立以来州の認可を得た私立校として現地人にも門戸を開き受け容れてきたことからはじまります。当初は一般学級に入ってくる現地人子女を混じえた普通学級での教育で

したが、言語と習慣の違いによって、十分な成果が得られなかったので、その解決方法として国際学級への移行が考えられ今日に至っています。現地オーストラリア人の担任教師により、現地カリキュラムを基本にしたうえで、音楽・体育は日本人学級と共に学ぶ交流学習にしていますので、居ながらにして国際交流ができています。その上派遣教員による1週5時間の日本語の授業は、本校開発の日本語の教科書によって行なわれています。その成果は11月に行なわれたラングエイジフェスティバルで発表されましたが、すばらしいものでした。その他、学校行事は無論のこと、登下校や朝夕の行事もすべて日本人と共に行動します。行事はすべて日本語と英語の両方で先生も生徒も行ないます。私も校長として児童・生徒の前で話す機会が多いのですが、常に和英両方で話さなくてはなりません。日本人学級は小学部1年生から1週4時間の英語の授業が現地人講師によって会話の中心に進められています。このように英語に接する機会

対洋人本日本 ロンドン日本人学校

和気郡佐伯町立佐伯小学校

(対洋中邦語立) 難波 朱 美

国際理解第3号 到着!

DRG
J. ARTHUR
DIXON

おかげさまでいそいそと、このように皆様
のご活躍の様子を知り、私も奮然と
では……! と思いをあらたにしています。
1) 暮らして一年余と経りましたが、英、ロンドン
は、政、財、中近東への玄関の位置
置と役割をしているものだから、生活に不
由することなく、物質もけいぞい入ら
れます。唯、現地校を見学する機会が得
られ、校舎の中では、日本式授業のた
り、国際理解

Westminster Bridge, the Houses of Parliament and
Westminster Abbey with the proximity are easily
accessible on the "London Underground" Victoria Embank-
ment and Whitehall with the government buildings
Colour Photograph by Australia Ltd
L 6 9255 LGN

London

では別れ、お別れです。 Namba 難波

Pass or
Postage



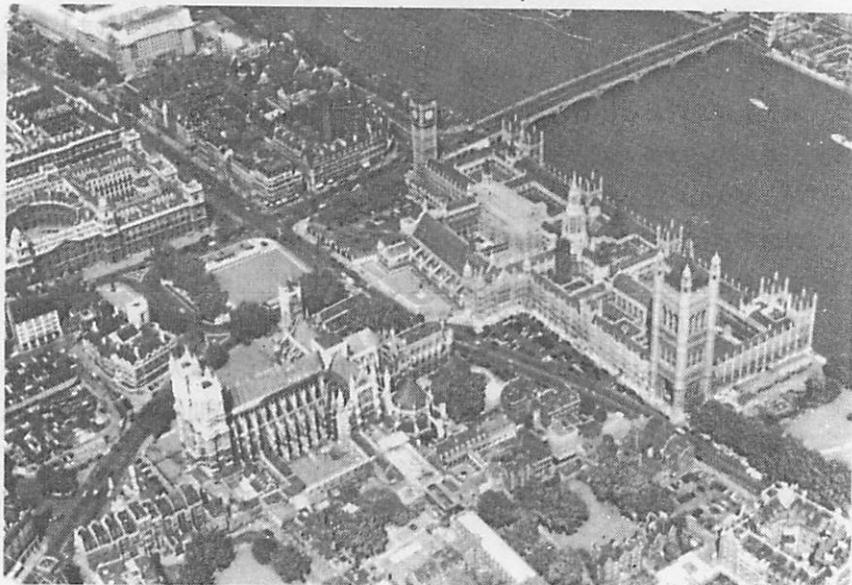
700

岡山市天神町8-54

岡山県総合文化センター

井関 繁孝様

air Mail
to Japan



現地だより・帰国子女・その他

閑話帳 日本人学校

ジャカルタ日本人学校

岡山県総合文化センター

井 関 繁 孝

閑話帳

日本人学校

海外に長期滞在する在留邦人の増加にともなう、その同伴する義務教育相当年齢の海外子女の数の増加の一途をたどっている。

外務省がこのほどおこなった在留邦人子女数の調査結果（昭和六十年五月一日現在）によると、その数は三八、〇一一人に達している。これらの海外子女に対する日本語の教育施設としては、日本人学校と補習授業校がある。前者は国内の義務教育の学校と同様の教育課程と授業時数に基づいて教育

を行っているもので、五十四カ国二地域にわたって七十八校があり、一五、八九一人の生徒が在籍している。後者は現地校又はインターナショナルスクールに通い、週末や放課後を利用して日本語能力の維持向上のために主として国語、算数を中心として授業を行っているもので、四十七カ国一〇九校で一四、三二一人の生徒が在籍している。その他、このいずれにも在籍していない在留邦人の子女は、七、七九九人である。

県内から日本人学校へ派遣された先生は、現派遣者を含め四十一カ国六十一名である。これらの先生方は「岡山県国際理解教育研究会」という教育研究グループをつくり、豊富な海外経験や知識を生かし国際性豊かな人づくり教育に貢献している。

複雑、多様化してきている国際社会において、わが国のしめる位置、役割は年々重要なものとなってきている。このような状況の中で、これからのわが国の教育は国際的な広い視野をもった長期的展望に立った施策が望まれている。

こうした社会情勢の中で、海外で生活をし、教育の現場を通して異質な文化をもった人との相互理解の重要性を痛感した先生達が、海外生活をした子供達と共に、これからのわが国の教育にかかわっていくことがとても重要になっていくだろう。

のです。また仮にこのようにできても12日が40日になるだけで、果してどれだけの効果があるでしょうか。

私の考えた案は次の通りですが、どれも実現は困難です。

- ① マカオに日本人学校を作る。補習授業校でもよい。
- ② 香港日本人学校の派遣教員1名を増員して、週2～3日マカオへ派遣する。
- ③ マカオ好きの派遣教員のボランティア活動により、毎週土曜日から日曜日にマカオへ行く。有志が2～3人いれば1人の負担は少なくてすむ。
- ④ 香港日本人学校の視聴覚教材（主としてビデオテープ）を貸し出す。
- ⑤ 年間何日か、香港日本人学校へ留学させる。マカオの現地校の方が休業日が多いので、そのような日を利用する。ホームステイができればなおよい。実際、私の在任中1人だけ短期留学した子どもがありました。
- ⑥ 小学6年生のマカオ修学旅行の時、マカオの日本人子女との交流会を持つ。これは実施した年がありましたが、継続性がなく、効果は疑問です。しかし、香港日本人学校の児童の勉強にはなりました。

大勢の日本人観光客が訪れるマカオ。カジノやハイアライを知る人はいても、日本語を失いかけている日本人子女が

住んでいることを知る人はありません。

程いるこれらの子どもたちは、大部分が幼ない時マカオに来たか、マカオで生まれた子で、ほとんど日本語は身につけていません。家庭で日本人の親と話す時だけが日本語ですが、共働きで中国人のアマを雇っているような家では、1日のうちどれだけの時間日本語を使うのでしょうか。遊び友達とは広東語（中国語の方言の一つ）、学校では英語を使うとすれば、日本語は次第に消滅して、両親とも広東語で話すようになってくるのです。

マカオの日本人は、不安定な雇用のため、いつ日本に帰るようになるかわかりません。もし、そのようなことがおきたら、日本語を知らない子どもたちを連れて帰っても困ることは目に見えています。何とか日本人として育てほしいと考えるのですが、毎日の現実には全く正反対の方向へと流れております。マカオの日本人のこの問題は、香港総領事館（マカオを管轄している）を通して香港日本人学校へ伝えられ、ボランティアとしてマカオへ日本語の指導に行く先生方が募られます。文部省は年間1名の教師のマカオ巡回指導の経費を認めてくれるのですが、マカオの特殊な事情により、年2回、延べ12日間程の期間、4～5名の教師を派遣するにはあまりにも僅かな補助しかありません。

そうかといって香港日本人学校の方からこの費用を補助することもできず、まことに困ったことです。結局は、受益者負担の原則により、マカオの日本人がこれらの経費を負担するのですが、そのために親たちは毎月いくらかずつ積み立てているそうです。

私も何回か、このマカオ巡回指導に顔を出しました。校長に代って開講式や閉講式に出席するのですが、わずかな時間、子どもたちのタドタドしい日本語の発表を聞いたり、日本の歌をうたっている声を聞くと、何ともいえない気持ちになってきます。日本の教育が受けられない日本人がここにいるのです。香港日本人学校の子どもたちは何と恵まれていることでしょうか。また国内で行き届いた教育を受けている子どもたちは何と幸せでしょうか。

ホテルの夜は、マカオの親たちとの意見交換の場になります。親たちは、どうすれば子どもの日本語が上達するか熱心に話し合います。しかし、本当のことはなかなかいいにくいものです。この人たちに、本当の返事はできません。1年のうち12日間だけ日本語を教えて何になるでしょう。残りの353日は、またもとの広東語の生活です。中には自分の子どもを夏休み中日本の親戚に預ける人もいます。しかし、こんなことのできる人たちがばかりではない

マカオ巡回指導

香港日本人学校

倉敷市立琴浦中学校

村 瀬 俊

香港日本人学校へ赴任して間もなく、マカオ巡回指導の話を知りました。香港赴任が決ってからは、香港についてはいろいろと調べて現地の知識を詰め込んできたのですが、実は、マカオについての知識はほとんどゼロに近い状態だったので、大いに興味をそそられました。

マカオは香港の東約 64 km、珠江をはさんで香港とは対岸にあるポルトガルの植民地です。もともとは中国の一部でしたが、約 400 年前、ポルトガル人の居住権を認め、さらに約 200 年後、ポルトガルは管理権を得て今日に至っています。住民は約 30 万人程度で、その大部分が中国系であります。

16 世紀後半から 17 世紀前半がマカオの最盛期で、ゴア、マラッカと共にポルトガルのアジア貿易の根拠地として栄え、中国や日本との交易で利益を得ていました。しかし、その後次第に衰退して、香港を本拠とするイギリスの勢力に敗れ去りました。今日、マカオの産業は、小規模の家内工業や漁業のほか、「東洋のモナコ」といわれる大

規模な公認賭博場を中心とした観光業が盛んで、付近には名所史跡も数多くありますので、香港へ来た観光客も大半が日程をさいてマカオに遊びます。

このようなわけで、マカオには観光業が盛んであり、中小の観光業者が何社かあるのですが、これらの業者に雇われた日本人が何人かいます。マカオ在住の日本人は大部分がこのような観光業に雇われていて、主として日本人観光客の案内をして生活しているのです。私たちが知っている香港の日本人はその大半が日本企業の駐在員で、華やかな海外生活を楽んでいる人が多いのにくらべ、マカオの日本人は、大企業の支えもなく、不安定な雇用の中で自ら働いて生活しています。当然、夫婦の共働きも多く、中には外国系の人と結婚している人もありました。香港日本人倶楽部で、麻雀やブリッジを楽している駐在員の夫人とはまことに対照的であるといえるでしょう。

当然のことですが、マカオにも日本人子女がいます。マカオの観光業者に雇われた人たちの子どもです。約 20 名

広間の窓にはハンガリーから贈られた、赤と緑を基調に織られた横縞のカーテンがどしりと部屋をより格調の高いものにしています。そのカーテンの赤い色がピカピカに磨かれた黒いピアノや、天井のシャンデリアの光に映えて、暖かいふんいきです。

まるでこの家の主・リスト氏は今ちょっと外出中、といった気分してくれます。

広間に続く小部屋には、彼が旅行中、馬車の中などで練習に使ったという、音の出ないピアノの鍵盤がありました。

3オクターブ程の小さいものですが、長期にわたって使われたらしく、指の当たる部分が黒ずんで汚れています。それがリストの熱心な練習の姿を物語っているようで、あの天才、「ピアノの魔術師」といわれたリストが、ガタガタゆれる馬車の中でもたゆまぬ努力をしていたという事実には、深い感動が湧いて来るのでした。

番人のおばさんが鍵盤をなでながら、「これ、もう古くなって動きが悪いのよ。」というので、私もちょっとさわらせてもらい、大作曲家リストの指に触れた思いがしたのでした。

写真はいくら撮ってもかまわないとのことなので、カメラを取り出したところ、フィルムがもうなくなっており、急いで入れ替えようとしたら、あいに

くカラーのがなくて、やむなく白黒のをセットし、どんどんシャッターを押しました。

あの由緒ある美しいカーテンを、カラーでカメラにおさめることができなかったのは残念ですが、やさしい番人のおばさんにも並んでもらって、いっしょに写真を撮りました。

立ち去り難い思いでしたが、おばさんも帰りを急いでいるようなので、暗くなった戸外へ、そしてまた次の街へと車を走らせました。

リ ス ト 博 物 館

デュッセルドルフ日本人学校

岡山市立高島中学校

三 宅 詠 子

リストのピアノ小曲に「愛の夢」とい
いう曲があります。とても美しい曲で、
誰でも一度聴くとそのロマンチックなメ
ロディが忘れ難く何度でも聴いてみた
くなります。それはロマン派の頂点に輝く
宝石のような曲だと私は思うのです。リ
ストはハンガリー出身の作曲家ですが、
少年の頃からその天才ぶりはヨーロッパ
中に知られ、フランスやドイツ・ロシア
等の各地で、華やかに活動しました。

名声が高まってからのリストは、祖国
ハンガリーにとっては英雄的存在であり、
帰国の際にはまるで凱旋將軍を迎えるよ
うに熱狂的に迎えられました。演奏会に
は多くの人々が詰めかけ、その名演奏と
貴族的な容姿に心を奪われたといわれて
います。

若い頃の彼は美しい貴婦人や上流の人
々にとりまかれ、社交界の花型的存在で
したが、年をとってからの彼は僧籍に入
り、大変質素な生活を送りました。

そのリストが後進の指導と信仰の生活
を送った家がワイマールにあり、今では
リスト博物館として大切に保存されてい
ます。

ワイマールはゲーテやシラーが晩年
を送ったところでもあり、文化の香り
高い静かな街です。

「ゲーテハウス」と「リストハウス」
を見学した後、私達はこの「シラーハ
ウス」を訪ねようと、街角に車を止め、
地図とにらめっこしていました。そろ
そろ夕やみが迫る頃、人々が家路を急
いでいます。地図ではらとがあかない
ので通りがかった若い夫婦を呼び止め

「ポー・イスト・リストハウス？(リ
ストの家はどこですか?)」
と聞いてみました。

方向はかなりいい線をいていたよ
うですが、街からはちょっと離れたと
ころにその家はありました。

写真で見たことのあるオレンジがか
った黄色い建物です。狭い階段を上っ
ていくと、人の良さそうな太ったおば
さんが羽ぼうきとつやぶきんを手に、
忙しそうに閉館準備をしているよう
でした。でも私達のために広間の灯りを
つけ、「遠い日本から来たのがから特
別だ。」とってくれた時には、そのや
さしさに大感激でした。

前にいけにえになった人がいたが、傷あとなど少しも残っていなかった。私にとって実に不思議なことである。

【おわりに】

ガーニー・ドライブは、みんなの憩いの広場であった。しかも、私にとっては私の家の庭のように親しみやすいものであった。



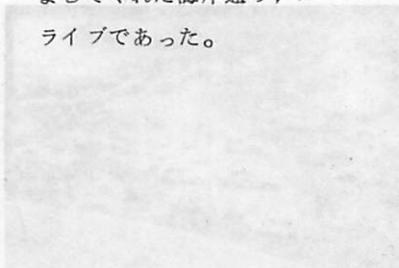
ガーニードライブから見たサンライズ
ペナンでは、ガーニー・ドライブのような憩いの広場がたくさんあった。自動車で走っていると通行止になっており、「ここから先1kmまで、市場が開かれている」というようなことはよくあったし、道のへりに屋台が並んだり、レストランに早がわりしていることもよく見かけた。

私の家から学校までの道程は、約3kmであったが、そこへの行き方は10通り以上あった。行きにはいちばん近い

道を通ったが、帰りはその日によって違っていた。ジュースのほしい時は、そのしぼりたてを売っている通りへ、

果物がほしい時は果物の屋台の並んでいる通りへ、涼しさがほしい時は大木の並木通りへ、疲れた日はビナンの並木通り、海岸通りへと、いろいろな帰り道を選ぶことができた。

日本のように緊張のしどろしどろの道でなく、学校からの帰り道でさえ自由に選べるペナンの道路であった。そして最も忘れられない通りは、なぐさめ励ましてくれた海岸通り、ガーニー・ドライブであった。



は、西暦の1月1日のことである。ご馳走を作って待つのも、着飾って迎えるのでもない。ただ、ガーニードライブへ集って、みんなでにぎやかに新年を迎えるのだ。午後10時頃からだんだん車の数が多くなる。そして、11時には身動きができないくらい自動車の洪水となる。私もその渦の中に入ってみたが、一方通行なので少しずつ前進できる。1時間に1kmぐらいの速度である。0時になるとどの自動車も一斉に警笛を鳴らす。何千台もの自動車



車の数が次第にふえてくるロータリー周辺

の音だが海へ広がるのか少しもやかましいとは感じない。そして「新年おめでとう」と誰とでも言いかわす。自動車の上に乗っている人、自動車の中からやしの葉をふっている人、タンバリンをたたいている人、バケツをたたいている人、水をかぶっている人、花火をあげている人、そのほか騒ぎが午前2時頃まで続いていたのだろうか。ほんとうにばかさわぎであるが、よく考え

てみると理屈に合っているような気がする。1月といえば、マレーシアでは乾期で最も暑い時である。夕涼みに海岸へやってくる。そして、そのついでに新年を迎える、ほんとうに楽しい正月である。タイプ-サンはヒンズ-教のお祭りで勝利の神様スプラマニアに真心をこめて祈り、うそがあれば告白生活の願い事がかなえられると信じており、このお祈りの際にわが身をいけにえとして神に捧げるのだ。いけにえになった人は、ほっぺや舌や身体に鉄のピンをさして寺院まで行進する。いけにえになっている人は、厳しく身体を鍛え、野菜だけ食べて身体を清めておく。彼等は神になっているので血も出なければ痛くもないと言っているが私には信じがたい。この行列を見て日本人の多くは気持ちが悪かったと話していたが、私も初めての年に1回見ただけで、後は見に行かなかった。外国からも見物客が多いと聞いている。サンライズのガードマンの中にも、1年



いけにえになった人

とがあっただけである。

ガーニー・ドライブを返着地点としたベナン島一周自転車レースもおこなわれていた。

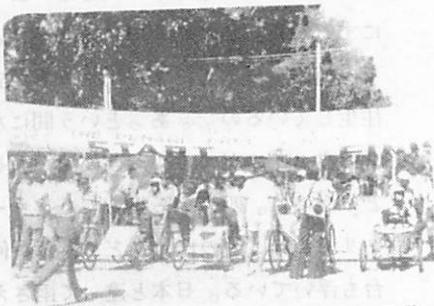


ドラゴンボートレースの日に 海岸にて

ドラゴンボートレースが行われ近隣国からの選手も参加していた。ここで勝てば国際競技への出場権が獲得できるのでどの選手も力がこもっていた。一人のリーダーが鐘や太鼓をたたき選手はそれに合わせて全力を傾けてこぎ見るからに楽しいレースであった。

空ではアクロバット飛行が繰り広げられた。ここから南へ5Km地点に空軍の飛行場がある。どこからどう現れたのかわからなかったが、かなり高い上空から宙返りして海のまん中に落ちるのではないかと思われる瞬間、二手に別れ、一方がガーニー・ドライブの私をめぐり、私の頭のすぐ上を南下し、海岸通りの並木をなでながら進む。もう一方は対岸でこれと平行して南下している。今度北上してくる時は、次の技を楽しませてくれる。10機もの飛行

機がぶつからないのが不思議である。見物人が多勢いたようであったが、次の日に日本人学校の生徒に話したら、これを見た生徒はごくわずかな数であった。



自作四輪車による大会風景

フースクールの生徒による自作四輪車のレースも楽しかった。ガーニー・ドライブを2km走って1位を競うのだが、スピードだけでなく、自分の思いのままに作った車に乗れることがすばらしかった。途中でこわれるのもあったが、それはそれで楽しくほほえましかった。

【年中行事として】

次に、ガーニー・ドライブで見ることができた年中行事の催し物の中から次の2つを紹介してみようと思う。お正月とタイブーサン(春節)の催し物である。

マレーシアには、中国人のお正月、マレー人の正月、インド人の正月がそれぞれ独自にあり、それぞれ伝統のある正月を送っている。ここで上げる正月

【ある日には】

雨期にはひどい雨が降ることがある。私の家の4階のベランダまで逆流してきた樋の水が部屋の中に入らないようにするために私は必死であった。ふと下の道路を見ると、水がたまり車が立往生しているのだ。あっという間に水がたまったのだ。すぐへりに海があるというのに。四方から集ってくるロータリーではことのほかひどく、車が何台も浮いている。日本と違って雨さえ止めばすぐ水は引くのだが。高見の見物とはまさにこのことである。

サイレンを鳴らして自動車が近づいてくる。ロータリーで三方の道を警官が塞ぎ一方のみ優先である。白バイに先導された高官の自動車が行く。その自動車の日の丸の旗があると「今日は日本から〇〇高官が来ておられるから今はラササヤンホテルに夕食に行っておられるのだ。」と自分で想像がついたが、他の国の人々のことはわからない。ただ先導車の数によってそのあらましを想像することができるのみであった。

鐘をにぎやかに鳴らして近づいてくるのは、中国人の葬式の列であった。日本と同じように全員黒い服を着ているが、とてもにぎやかである。マレー人のそれは静かな行列であるが。

ここで見ていると、まるで自動車シ

ョーを見ているようだ。きれいにかざったあの自動車は花嫁を乗せているのだ。これは中国人の祭のトラックだ。



大型観光バス

中には写真のような展望室ベッドルームを備えた大型国際観光バスがお目見えすることもあった。ここで乗客は全員下車してサンライズのレストランで昼食をとり、マーケットでたくさん買い物をしていた。東南アジアの国々を旅している一行であった。

【ある休日には】



競歩を楽しんでいる若者達

照りつける太陽にも負けず、ウォーキングレース(競歩)をよくやっていた。しかし、マラソンレースは一度見たこ

かめし。7時半、日本人学校のスクールバスが通る。私のドライバーも来て私は出勤する。

そして、ガーニー・ドライブは、やしの木の葉で作ったほうき（日本の竹ぼうきに似ている）できれいに掃除される。これは毎日続けられているので、ガーニー・ドライブはいつもきれいである。しかし、暑さを増した昼間のガーニー・ドライブは、自動車も人もめったに通らない。照りつける太陽にあえぎながらただそれが西に傾くのを待つばかりである。

夕方、4時半頃には私は帰宅する。その頃には、ガーニー・ドライブは再び生気をとりもどし、屋台が再び並び、にぎやかな音楽で人々を誘い、珍しい見せ物で人々の足をとどめる。（1か月に1度は大規模な夜市が開かれ、日用品などが安い値段で何でも手に入った。）毎夜10時が来るとサンライズのマーケットが閉店する。その頃には屋台もだんだん少なくなる。

熱帯の夜は暑い。しかし暑さのために目がさめることがあっても、クーラーを強にして5分もたてばもう眠れる私であったが、困ったものは暴走族。犬のけんか、大人のけんか、子どもの泣き声であった。

暴走族のけたたましい音で私が目を覚ます頃には、もうロータリーのまわ

りには、あちらにも、こちらにも、いたるところでオートバイを止めて、若者達がたむろしている。その中をガーニー・ドライブからフルスピードでロータリーをまわって他の道路へと走り抜ける。その時、45度に傾いたオートバイのタイヤから白い煙が見える。うるさいということも忘れて、私は「はっ」とする。若者達は口笛を吹き歓声をあげる。その様なことを何回もくり返しているうちに、若者達は急にそわそわとしてくる。みんなオートバイに乗って立ち去ろうと準備を完了する。そこへポリスの車が来る。もう誰もつかまりはしない。若者の早業にただ感心して私はベッドへ着くのであった。

子どもの「ギャー」という泣き声に目が覚めたことも何度かあった。夜中にロータリーの中央に子どもを置き去りにしているのだ。よほど悪いことをしたのだろう。1時間ほど後には親が迎えに来た。大人の争いも「あんなに大きな声を出さなくても」と思うほど大声で叫んでいた。

夜は犬の出番かも知れない。10頭ぐらいがけんかをしているのを見たことがある。これもすさまじいけんかで、負けてけがをして帰っていくのもある。

また、静かな静かな夜は、自警団が見廻りをしている姿が印象的であった。そして、やがて夜が明けるのである。

ガ ー ニ ー ・ ド ラ イ ブ

ペナン日本人学校（マレーシア）

岡山県和気郡和気町立石生小学校

安 部 町 江

【はじめに】

ペナンに滞在していた3年間、私はサンライズ・タワーという19階建てのビルの4階に住んでいた。サンライズ・タワーの前にロータリーがあり、南北、西、海岸通りへと、四方へ道がのびていた。この海岸通りの名前がガーニー・ドライブである。



サンライズの屋上から見たガーニー・ドライブ

私は、暇さえあればロータリーを通る人や車を、ガーニー・ドライブで繰り上げられる見せ物を、私の部屋の窓からあきることなく眺めていた。

ガーニー・ドライブは、道路でもあるが、憩いの広場と言った方が当たっているかもしれない。

【一日の表情】

朝、6時、ガーニー・ドライブのあ

かりが消えて、あたりはすべて私の部屋までもまっ暗になる。その頃からガーニー・ドライブでは散歩、ジョギングが始まっている。杖を持った人がたくさんいるが、これは犬が多いので万が一に備えてのものだ。何台も自動車が駐車しているのは遠くから来ていることを表している。

やがて、東の空が白み、うす紫色になり、ピンクに変わり、オレンジに染っていくと、今度はみごとに大きな太陽が海の向こうから、時を刻むように昇って行く。その瞬間は今まで、岸をたたく波の音に酔っていた人々の耳でさえも奪ってしまう程の美しさだ。ベンチに腰をおろし、インド洋のさわやかな空気を吸って、私もしばらくぼんやりしているのだった。

モーニングスクールに通っている小さい子どもの手を引いてバスに乗せているお母さん。ドライブショーに乗って学校に行っている子ども達の姿が見られる。大型バス10台を連ねてのオース

トラリア空軍の兵隊さんの出勤姿もい

に走るとデュイスブルグに着きます。この市はヨーロッパで最大の規模を誇る内陸の河川港を持っています。その河川はもちろんライン河。ボタ山が見え、何本もの煙突がもくもくと赤紫の煙を吐き続ける、ヨーロッパ屈指のルール工業地帯。ここ、低地ラインは、ひと回り大きい船を数多く浮かべています。デュイスブルグ・ドルトムント、そして兵器の製造販売で巨万の富を築いたクルップが活躍したエッセンなど、ルール工業地帯は、ヨーロッパで最も重要なコンビナートです。

ルールを抜けると、ラインの風景は再びのどかな田園風景に変わります。やがて、石炭と伝説の町、クサンテンに着きます。中世のすぐれた英雄叙事詩として、世界的に有名なニーベルンゲン伝説の主人公、ジークフリートは、この町で生まれたと伝えられています。

ライン河は、いよいよドイツ領に別れを告げ、最後の国、オランダに入ります。オランダに入ったラインは、5つほどに別れ、そのうちの3本はまたロッテルダムに合流して、北海に流れ込みます。その地点は、オランダの首府デン・ハーグの南方約20kmにある、フック・ファン・ホーランドです。ここはイギリスへの長距離フェリーボートの発着港として知られています。

西洋のナイル河と呼ばれ、ドイツ

の景観と讚美されたラインはいよいよここで北海に流れ込むことになります。ラインの流域。そこに生活する人々の数は、今日西ドイツ全体の半数に達するといわれています。

政治・経済・文化の発展とともに歩んできたラインは、その永遠の流れをいつかあなた方の目にも見せてくれることでしょう。

ぞ長い間かかっただろうね！
すると、ドイツ人はこともなげに
こう答えました。
「おや、こいつあ驚きだ。おれが
きのうここを通った時にはこの塔
はなかったよ。」

笑っているうちに、ケルンの大伽藍
は遠ざかり、ルール工業地帯の玄関口
デュッセルドルフに入ります。ボン・
ケルン・デュッセルドルフと大きな都
市を貫いて流れるライン河は、その汚
れがますますひどくなり、時おりブ
ンといやな臭いもただよってきます。

情熱の詩人、ハイネを生んだデュッ
セルドルフ。フランスの自由・平等・
博愛の精神を歌い続けたこの世界的な
革命詩人は、こよなく、自分の町を愛
していましたが、デュッセルドルフの
人たちは、ハイネは冷たく、他の文学
者や音楽家のように扱われてはきませ
んでした。これは、ハイネの両親がユ
ダヤ人であったからと言われていま
す。けれども、最近になって、ハイネの芸
術は高く評価されはじめ、ハイネ研究
の出版物が相次ぎ、展示館も設けられ
るようになりました。

デュッセルドルフは経済的には恵ま
れた町なので、古来、音楽家や文学者
が居を構えて活躍しました。しかし、
伝統的に文化人を冷遇していたらしく、

メンデルスゾーン・シューマンらもそ
ろって、芸術に理解の薄い役人やお金
持ちの悪口を書き残しています。



ライン大橋と船着場

このデュッセルドルフには、川幅
500 mのライン河にかかる、4本の大
橋があります。そのうちの1本、オー
パーカッセル橋は、その昔、シューマ
ンが身投げしたあたりにかかっています
が、古くなったので、1974年、そ
の隣りに近代的な新しい橋を完成させ
ました。古い橋は、新しい橋の完成と
同時に撤去されましたが、その新しい
橋全体を、30 mほど移動させて、元
の古い橋の場所へ据えつける大工事が
行われました。この「大橋移動作戦」
は、今までにその例がなく、世界中の
建築家の注目を浴びたものです。

その大橋をくぐった「ローレライ号」
は、ライン下りの終着駅、デュッセル
ドルフの岸壁に横付けされます。これ
で私たちのライン下りの旅は一応終わ
ったのです。

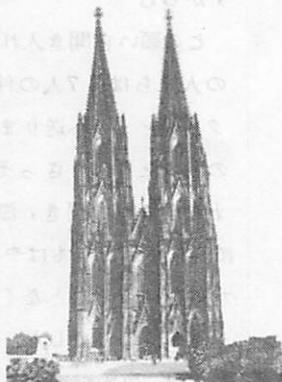
デュッセルドルフから約30 km。北

ボンを過ぎると、ほどなく前方にケルンの大伽藍が望めます。川幅はこのあたりで、400mにも達し、水深も平均5mはありますので、4000トン級の大型船も航行しています。ケルンはフランス語ではコロン、と発音され、オー・デ・コロンの産地としてもなじみ深いところです。

ケルンの歴史は、紀元前38年までさかのぼるというのですから、大変な古都といえます。ケルン駅前には、ローマ時代に栄えたこの都の歴史を証拠づける数々の陳列品のある「ローマ・ゲルマンミュージアム」があります。

同じく駅前の大聖堂。そして、高さ157mの大伽藍が黒々とそびえ立っています。

ケルンの大ドーム



ヨーロッパ最大のこの塔は、今日でも東西南北、いずれの方角からケルンに近づいてもよく見えます。高い建物のなかった昔は、さぞ遠くから望まれたことでしょう。その大伽藍は1259年に工事にとりかかり、完成したのは

1868年であったということですから途中、工事未完成のまま放っておいた期間があったとはいえ、ヨーロッパ人の息の長さには驚き入ります。

そんなに古い塔なので、今日でも常時修復作業が行われています。このケルンの塔に関して、科学時代の今日、何でもスピーディーにこなしてしまうアメリカ人をやりこめた笑話があります。

ケルンの駅に降り立ったアメリカ人が、ドイツの友人をつかまえて聞きます。

「ずいぶん大きな駅だが、建設にどれくらい日がかかったのかね。」

「〇年〇か月。」

「ふん。アメリカならその半分の日数でできるよ。ところで、ライン河にかかっているあの橋、これはどれくらいでできたのかね。」

「〇年〇か月。」

「へえ、おそろしくかかるものだねえ……。アメリカなら3分の1の期間で仕上げるよ。」

アメリカアメリカといばるこの友人のことばに、ドイツ人は腹を立てます。アメリカ人は、大聖堂の高い塔をふり仰いで、また言いました。

「これはすばらしい。完成にはさ

ツの首都ボンが近づいたのです。ラインに架けられた近代的な大橋「ケネディ・ブリュッケ」、しょうしゃな建物に旗がひるがえっている各国の大使館。緑の中に白亜がまぶしいベートーベンホール。

ボンは、一国の首府としては、こじんまりとした小都市と言えます。東西両ドイツ統一のあかつきには、首府をベルリンに移す計画がありましたが、それも実現不可能の兆しが強い今日、ボンは西ドイツの首府として発展してゆくことになりそうです。そこで、ここ数年来、人口も増え続け、数年前まで14.5万にすぎなかったのが、現在（1986年）30万人を越えるに至ったのです。また、高層ビルの建設も盛んで、ボンはどうやら西ドイツの首府として落ち着くのではないか、という感がします。旧市街の中心には、ボンが世界に誇る楽聖ベートーベンの生家があり、記念博物館とともに、毎日世界中のお客を集めています。

ところで、ボンの近郊には、「七つの丘」と呼ばれて市民に親しまれている山があります。大きく波うつこれらの山腹には、外国の高官を迎える高級ホテルやレストランが点在しています。そして山の中には、ワンダーフォーゲルの道や、ドイツ人が誇りにし、愛している手入れの行きとどいた美しい森

があり、散歩を楽しむ人たちが絶えません。では、「七つの丘」がどうしてできたのか、この地方の伝説をお話ししましょう。

むかしむかし、ライン河は、ケ-ニクスビンターにある大きな湖に流れこんでいました。ライン河の水の量が多いので、さすかの湖もこたえられず、湖の水はしばしばあふれ出て、大洪水となり、村々を襲いました。困り果てた村人は相談の結果、巨人の住む国へ使いの者を送り込みました。「どうぞ私たちが洪水から救ってください。お礼は充分にいたしますから。」

この願いを聞き入れた巨人の国の人たちは、7人の仲間をケ-ニクスビンターへ送りました。7人の巨人たちは、さっそく大きなくわで山を切り開き、湖の水を平野に流しました。もはや、ラインの水は湖に溜ることなく、流れていくようになりました。大喜びした村人は、巨人にたくさんのお礼の品物を与え、巨人も満足して、国へ帰りました。七つの丘は、こうしてできたのです。

【ケルンの大伽藍】

の人たちが敬けんな祈りを捧げていたことです。



ワイン祭り

にぎやかなワイン祭りの町、ポットバートを後にすると、観光船「ローレライ号」はやがてコブレンツに到着します。ライン河はここで、モーゼル川と合流します。モーゼル川もラインに劣らず美しい流れで、「モーゼル川下り」も人気があります。モーゼル沿いには良質のワインを産する村が散在しており、ドイツのワインは、茶色のびんに入った「ライン・ワイン」と、緑色のびんの「モーゼル・ワイン」に代表されます。

モーゼル流域のベルンカステルには、「お医者さん」という名のワインがあります。これは、14世紀半ば、この町の司教、オッヘムンドの熱病が、ワインで治ったという話です。

司教は、熱が下がった後、もう一息ぐっとこのワインを飲み干してこう言いました。

「このワインは、わしの命を救っ

てくれた。まったく、この酒はお医者様じゃ。」

そこで、「ドクター」という銘柄のワインが誕生したというわけですが、その司教が飲んだこのぶどう酒は、今のシャンパンに似た酒であったと言われています。

マインツを起点にした、「ロマンチック・ライン」はコブレンツで終わりますので、川下りのお客は、大部分降りていきます。でも私たちの旅程はゆったりしています。そこで、もう少し時間をかけて、ラインを下ってみましょう。

【7つの丘の物語】

コブレンツを出ると、ラインは一変し、急に広々とした大河の様相を帯びてきます。兩岸の家並も小さく見え、山々も遠のいて見えます。しかし、「ロマンチック・コース」が終わったからといって、ラインが急に魅力を失ったわけではありません。相変らずの溪谷美、個性豊かな町や村のたたずまいが、私たちの目を楽ませてくれます。いろんな形をした城もつぎつぎに姿を現し、300年、500年の昔をしのばせてくれます。

その夢を破るかのようにな、近代的な建物が目にとびこんできます。西ドイ

ン事件”も、下流にあるオランダからの突き上げが強く、大問題になりました。そこで、西ドイツは直ちに、ラインを航行する船の取り締りを、あらゆる面で厳しくチェックし、河川を使って毒物を運送することを禁止しました。もしこの事件がスイスで起こっていたなら、リヒテンシュタイン・オーストリア・フランス・西ドイツ・オランダの各国に影響を及ぼすことになるのですから、国際的にも大変なトラブルになっただろうと考えられます。

ドナウ河なども、西ドイツ・オーストリア・チェコスロバキア・ハンガリー・ユーゴスラビア・ルーマニア・ソ連の各国を流れて黒海に注ぐという国際河川です。そして、この場合、西欧と東欧という壁もありますので、公害とか汚染には、各国とも神経質にならざるを得ません。

【ワイン祭り】

ローライを過ぎてしばらく行くと、左岸にポッパルトという美しい町が見えてきます。人口8500人という、落ち着いた町ですが、毎年9月・10月になると、ヨーロッパ各地から大勢の人が、この町に集まってきました。ワイン祭りを楽しむためなのです。

この祭りが行われる5日間は、ホテルやレストラン、みやげ物屋のほかは

すべて店を閉じ、飲めや歌えの大騒ぎ。お祭り広場、「ラインの夜」のプログラムを見ても、催し物は午前11時から翌日の午前2時まで、ぎっしり詰まっています。

○吹奏楽の演奏とパレード ○のど自慢 ○合唱 ○有名タレントの演奏 ○ダンス ○花火大会「輝くライン」など。

そして、愉快なのは、「ぶどう栽培の人」のオーケストラ演奏会があったり、パン屋・洋服屋など職人さんの吹奏楽団が陽気に、しかも堂々と“ラインの歌”を何曲も吹きまくることで、お祭り広場にワイン醸造元が設けた何十もの屋台・模擬店。それらの店に並べられた何百本ものワイン。ソーセージを焼く匂い。ジャガイモを揚げる油の音。湧き上がる歓声・叫聲。それらを吹き飛ばす、ブラスバンドの響き一。

私も友人のドイツ人といっしょにワイン祭りを経験しましたが、ヨーロッパ人の歌と踊り、ダンスとジョークには感心させられました。3日3晩浮かれっぱなしで飲み、かつ食らい、歌っては踊るそのタフな姿に羨望の感を抱くとともに、圧倒されてしまい、劣等感さえ持ったものです。もうひとつ感心したことがあります。それは、こんなお祭り騒ぎの最中でも、日曜日に教会をのぞいてみますと、早くから大勢

スピードはこのあたりで時速約6km。
“ローレライ号”はすべるように進んで
行きます。300mから400mある
河幅。進んでいるのかいないのか、タ
グボートが、石炭を満載した平底の貨
物船を曳いて上ってきます。

山の上まで続いたぶどう畑。ライン
河岸の美しい並木。そしてワインハウ
ス。船はどんどん下り、河はときどき
急角度で右にまがり、左に折れます。
その度に眼前に現われてはゆっくり消
えていくラインの景色。古城・教会の
塔・赤い屋根・白い壁の家並。中には
伝説で名高い城や廃墟も見えます。



大蛇行するライン

船のスピーカーがそれらの伝説のひ
とつを語ってくれます。

昔、ハットーという残酷な領主
がいました。彼はライン河の中洲
に税関を設け、上り下りの船から
税を取り立てました。ある不作の
年、人々は飢え、領主に食糧を乞
いました。しかし領主は人々をだ

まして納屋に連れ込み、火をつけ
たのです。そして人々の泣き叫ぶ
声を聞いてこう言ったのです。

「皆の者、よく聞け。あのねずみ
どもの鳴き声をな。」

その時、何千というねずみが領
主と家来たちに襲いかかったので
す。領主ハットーは船を出して、
中洲にある塔に逃げ込みました。
しかし、とうとう、ねずみに食い
殺されてしまったのです。

その伝説の塔が前方に見えて来まし
た。皆さま、あれが“ねずみの塔”で
ございます。

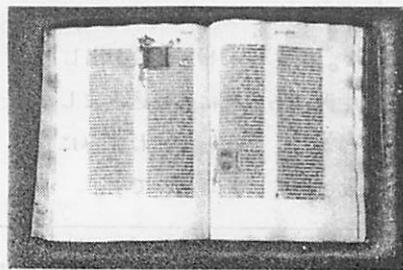
船の人たちは、ビールを飲み、ワイ
ングラスを傾けて景色を堪能し、話
を楽しみます。ライン河はこのビンゲ
ンのあたりで、ぐっと兩岸に迫って、
流れもスピードを速めます。

ところで、1969年、1隻の貨物船
が座礁し、ライン河でかつてない大事
件が起こりました。

その船は化学薬品を満載しており、
毒物が流れ出して、何万匹もの魚が浮
いて流れたのです。日本と違い、国際
河川が流れているヨーロッパでは、自
国はもちろん、下流にある諸国にも大
きな影響を与え、事件はただちに国際
問題に発展してきます。

この、いわゆる、“ライン・ビンゲ

の山地に向かいます。この間、古城と、ミュージカル「学生王子」などで名の知れたハイデルベルグを右に見、宗教改革者ルッターと縁の深いヴォルムスの町を洗い、マンハイムでネッカー川のみ込んで、マインツへ至ります。



グーテンベルグの聖書

マインツはグーテンベルグの町。活字印刷術の発明者グーテンベルグは、紀元1400年ごろマインツに生まれました。彼の生年は、未だはっきりしていません。世界の文化史の上で誇るべき人物の生年がわからず、ちゃんとした伝記も書けないというのは、まことに不思議なことです。が、しかたがありません。

それでも、グーテンベルグはマインツの誇りで、市の中心部には近代的なグーテンベルグ博物館があります。博物館の中には、グーテンベルグを物語る唯一の印刷機械が残されており、その機械で印刷された書物「グーテンベルグの聖書」は二階の特別室にあります。この聖書のある部屋は、火災・盗

難から文化財を守るために特別の工夫がなされ、部屋の一部に設けられた耐火用の小さな陳列室にその聖書は陳列されています。グーテンベルグは、この聖書を180冊ほど印刷したものとされていますが、今までに発見された聖書は48冊。いずれも古書としては世界最高の値がつけられており、なかには1冊約10億円で取引されたものもあります。なお、この博物館はグーテンベルグに関するよりも、世界各国のあらゆる印刷技術・印刷芸術・製本等について一目で分かるように展示・解説している、「世界印刷博物館」ともいうべきものです。

ところでライン河とマインツとは、とても深い関係にあるのです。マインツは、今日人口18万の工業都市で、ライン河沿いで盛んな「ラインワイン」の集散地として有名です。また、「ライン下り」の大型船は、このマインツが始発港になっているのです。

【ライン河と公害問題】

「ライン下り」の大型客船「ローレライ号」に乗って、マインツを出発してみましょう。ここからコブレンツまでの約90kmは、「ロマンチック・ライン」として親しまれ、ライン下りのハイライトです。ゆるやかに流れるラインの水。その



曳き船

【ゲーテンベルグの町】

こうしてバーゼルからは、大小とり混ぜているんな種類の船が行き交っているのです。マインツまで約300km。ラインは、グリム童話、「ヘンゼルとグレーテル」などで名高い、シュバルツバルト（黒い森）を右に見てゆったりと流れます。

やがて左岸に大教会の尖塔が見えてきます。フランス、アルザス地方の中心都市ストラスブールが近づいたのです。今日、人口30万ぐらいのこの町の大聖堂はゴシック式で世界有数の建物とされています。みなさんは、アルフォンス・ドーデ作の「最後の授業」という小説をよく知っていることでしょう。この小説の舞台は、このアルザス地方です。アルザスの人たちは、1870年に起こった独仏戦争で、アルザス・ロレーヌ地方をドイツに渡すことになり、この地方では、フランス語を教

えてはいけないうことになりました。

このいきさつを書いたのがフランスの小説家、ドーデ氏で、「月曜物語」の中に出てくる話です。これは、フランス語の授業が禁止になった日の、アルザスのある少年の思い出を描いたものですが、地続きの国境の悲劇をよく表現しています。もし日本がどこかの国に占領されて、「明日からの授業は、もう日本語では行いません。」などと言われたら、いったいどうすればいいのでしょうか。

さて、アルザスの人たちは、この戦争の後、2度も大きな戦争を経験し、苦しみました。そして、その度に国境が変わり、ことばも、フランス語、ドイツ語、フランス語、ドイツ語と目まぐるしく変わったのです。シュバイツァー博士はフランス人ですが、アルザスがドイツ領だった頃に生まれたので、名前はドイツ風だし、国籍もドイツでした。その後、フランスは第1次大戦で勝利を収めたので、アルザス領はフランスに編入され、博士は国籍をフランスに変えたのです。

第2次世界大戦中、アルザスは再びドイツの支配下にありましたが、現在ではフランスに復帰しています。

このように複雑で痛ましいアルザスの平野を抜けて、ライン河はタウナス

タンス市です。人口 65000 のこの市は、ローマ時代から中世にかけて、商業・宗教の中心として最も栄えた都市です。今では、清浄な空気の町として知られ、大規模な保養所があることで知られています。また、このコンスタンスにある橋がライン河の長さの基点になっており、0 Km のマークがあります。ここからオランダのフック・ファン・ホーランドまで 703.2 Km もあるのです。

コンスタンスの清らかな空気と同じように、ラインもこの町までは汚れなく流れてきました。ところがこのあたりから、ラインは次第に透明度を失ってきて、スイス第 1 の工業都市パーゼルに入ってから、ますます具合が悪くなります。

コンスタンス、パーゼル間のライン、120 Km を「高ライン」と呼んでいます。以下、下るに従って、上部ライン（パーゼラーマインツ）、中部ライン（マインツークェルン）、低地ライン（ケルン－オランダ）などと言います。「高ライン」の区間は、その名にふさわしく、ダムや発電所、それに幅 100 m 強、落差 20 数 m の滝などもあります。

スイス・フランス・ドイツ 3 国の国

境の町パーゼル。商工業が盛んで、世界的に有名な製薬会社などもあり、オランダからライン河を 100 Km も、大きな船が上ってくるのです。パーゼル、マインツ間の水深の平均は、1.7 m となっていますので、船の大きさも自ら制限されます。それでも、パーゼルまでは最高 1500 トンの船が上ってきます。しかし、それらの船はいずれも、浅い河を航行できるように平底型で、特別の設計と工夫が凝らされています。

ライン河を上り下りする船は、いざいざもタグボート（曳き船）に引っぱられたものが多く、1 隻のタグボートは何千馬力も出して、通常 5、6 隻の貨物船を曳くことができます。大変な力持ちのタグボートです。しかもそれは、1500 トンの貨物に相当するというのですから驚きます。それは、約 80 台連結の貨物列車、または 10 トン車と言われる大型トラック 150 台分に匹敵するのです。

むろん、列車やトラックの方が速いし、結局は量も多く運ぶのですが、河川を利用した方が経費は安くすむのです。それに、ライン河を利用して運ぶ貨物は、石炭やセメント、鉱物や砂・ジャリが最も多く、いっときを争う物は少ないのですから。

ンと後ライン、それにもう1本、中ラインが合流し、7つの国を延々1300 Kmにわたって流れていくのです。



スイスアルプス

さて、スイス東部、ライヒザウで合流したラインは、スイスとリヒテンシュタインおよびオーストリアの西部を流れますが、この区間は国境の役目を果たしています。アルプスの急流となって、一気に流れ落ちたラインですが、このあたりになるとそのスピードはぐっとゆるやかになり、リヒテンシュタインの首都、バドゥース辺の谷底平野を、貫祿を見せて下っていきます。

リヒテンシュタインは、おとぎの国のように美しい、小さな国です。私はある時、札幌オリンピックのおり、旗手を務めたという、ファルツファイン公に会うことができ、次のようなおとぎ話を聞くことができました。

リヒテンシュタインの牧場に住む雌牛、ウィークリングは、大き

な望みを持っていました。それは、村で行われる乳しぼり大会で沢山の乳を出し、優勝することです。そして、飾りをいっぱいつけて、仲間を従え、村の収穫祭に参加するのです。

でも、それは夢に過ぎませんでした。ウィークリングの乳は、それほど出なくて、競争に負けてしまいそうになりました。とても悲しんでいるウィークリングを見て、かわいそうに思ったのは、山の聖者たちです。そこで聖者たちは、村の子どもたちとともに、みんなをアッと驚かせるような奇跡を起こそうと相談するのでした。

ほかにも、ライン上流のこの地方には、素朴で美しい物語が残っています。「アルプスの少女ハイジ」の物語も、舞台はこのアルプスの山地で、少女ハイジを記念したかわいらしい「ハイジの泉」がバドゥースの近くにあります。

【大量輸送を助ける】

つぎにラインは、ドイツ・スイス・オーストリアの国境になっているボーデン湖に流れこみます。ここでアルプスラインは終わるのです。ボーデン湖畔には、重要な町があります。コンス

ジルヒャーのコンビによる詩と歌で世界的に有名になり、ローレライをひと目見たいと願って、ライン河を訪れる人も多いのです。

ところが、たいていの観光客は、このライン第1の名所を見て、がっかりさせられるのです。私もそのひとりでした。あの有名な歌の中には、「うるわしおとめの岩に立ちて」という一句があり、その岩はライン河の中にあつて、それにぶつかって船が沈むとばかり、私は思っていました。



ローレライの岩山

ところが、ローレライは、河岸にそびえ立つ標高130mもある、「山」だったのです。その山の下はトンネルで、ドイツ国鉄の列車が走り、山のふもとには、ライン河沿いの自動車道路が通じているのです。ローレライの山頂に上がれば、景色もいちだんと優れ、過ぎし昔に想いをはせることもできるというので、私も急な岩の道を登ってみました。なる程それは美しく、詩人が夢

見る光景だと感心しました。ところが、反対側を見ると、山頂近くまで自動車登山道路が開通しており、大駐車場があるではありませんか。これには驚き、気分よく口ずさんでいた「ローレライ」のメロディーも出なくなってしまいました。

皆さんのロマンチックな夢をこわすようなお話をしてしまいましたが、ライン河は、ローレライ以外にもいくつもの「見るべきもの」があり、舟下り以外にも、自動車・バス・列車の旅、そしてサイクリングによっても楽しめる国際観光河川なのです。では、私たちはラインの源泉を捜し、そこからラインの水とともに流れ下りながら、ライン流域の都市を訪ね、伝説や童話をひもとくことにしましょう。

【ラインの源】

ライン河は、スイス・アルプス山中にある小さな湖から流れ出ています。そのトーマ湖は、スイス・アルプスのほぼ中央部で、スイスからイタリア越えの峠として有名なサン・ゴタル峠近くの山中にあります。この湖は海拔2344m。まわりはいずれも3000m級の高峰ばかりです。ラインの源泉はこのほかに、ツェツベル氷河から出ているものもあります。これらの前ライ

「ライン河物語」

デュッセルドルフ日本人学校

岡山市立岡北中学校

三宅正勝

【なじかは知らねど】

ライン河の舟下り……、豪華でロマンチックな夢の旅です。歌に歌われ、詩に書かれ、そして絵に描かれたライン河。大きく波うつ兩岸の山々、そこにはニーベルンゲンの伝説や、白雪姫の童話があります。その紫色の山々に立つ古城や、緑色のワイン畑・白壁の家並。それらを川面に映して、堂々とした「父なるライン」は今日もゆったりと流れています。

なじかは知らねど 心わびて
昔の伝えは そぞろ身にしむ
さびしく暮れゆく ラインの流れ
入り日に山々 あかく映ゆる

この有名な「ローレライ」の歌を知らない人はいないでしょう。毎年夏には、ライン下りを楽しむ観光客が何万人も西ドイツを訪れます。そして、観光船が、ハイネの詩で有名なローレライの山に近づきますと、必ず、ジルヒュー作曲のこの曲が、スピーカーから流れてくるのです。そして世界各国の人々

が、そのメロディーに合わせて、それぞれの国の言葉で口ずさみながら、ローレライの山を見あげています。



ローレライの伝説

この歌詞の2番、3番は、「美しいおとめが岩の上に立って、黄金のくしで髪をときながら歌っている。船頭たちはみんな、この歌に魅せられて、美女にみとれる。そしてかじを誤り、みんなラインの急流にのみこまれてしまう」となっています。この美女は、実は魔女だったのです。実際、ライン河は、ローレライ付近でその河幅は100mと狭くなり、流れも、2倍から3倍の速さになるのです。こういう状況なので、昔はこのあたりで難船する事故が多く、こうした伝説が生まれたといわれています。この伝説は、ハイネ・

3 台湾郷土史クラブの

活動を実践して

台湾と台湾の人々に対する理解を深める、いわゆる国際理解のための一つの方法として、台湾の歴史を教え、史跡を訪ね、現代の台湾についても一部とりあげ指導したことが、結果として、どの程度の効果を生み出したのか、率直に言って自信はない。

むせかえるような日曜日、シャツを汗でグダグダにして乗った満員列車の中で、

「先生、実をいうと、ぼくは普通列車に乗ったのは初めてなんだよ。」

と、台湾生活も長いある男子生徒が語った第1回の淡水見学から、見学会を重ねる度に積極的になってくる生徒の姿を見て、方向としてはまちがっていなかったと、だんだん思えるようになってきた。

一方で、バレーボール部の顧問も兼ねていたので、試合が近づくとどうしてもバレー部の方にウエートがかかり、

「先生、台郷研はどうなっているんですか。私たちも止めてしまいますよ。先生が作ったクラブなのに、バレー部ばかりに力を入れて……」

と、女生徒に脅迫されるような状態のこともあって、彼等の期待に十分

答えることができなかったようだ。

ともかく、1年は余りに短かった。もう1年早く始めていればと残念であるが、私自身の台北での教師生活をふり返るとき、やはりやってよかったと密かな満足感も味わっている。

(注)：この実践は、昭和54年～55年にかけてのものであり、現在の台湾の状況とやや異なる点があることをお断りしておきたい。

較的近年の研究を集めた省文献委員会の研究誌「台湾文献」の論文、あるいは日本時代の研究書などが役に立った。

また、時事的な話題については、新聞記事や市販の雑誌なども参考にした。

(2) とりあげた題材の一例

| 研修のテーマ | 活動の目標・題材 |
|----------------------------|---|
| 淡水鎮の史跡を訪ねて | 16世紀前半のスペインの北部占領に伴うサントドミンゴ城(紅毛城)と、清代の貿易港として栄えた時代の洋館が残る台北県淡水鎮の史跡を訪ね、外国勢力の侵略と当時の貿易の実態を学ぶ。 |
| 板橋市の林本源邸を訪ねて | 台北地方の開拓を進めた大地主、林本源。台北県板橋市に今も残る大邸宅と大庭園を訪ね、台北地方の開拓と、泉州系移民と漳州系移民の抗争、伝統的な民家の建て方を学習する。 |
| 指南宮を訪ねて | 道教寺院で、庶民の民間信仰である「呂賓洞」を祀る木柵の指南宮を訪ね、数多い民間の土俗信仰と、信仰深い台湾の人々の心情を理解する。 |
| 中村輝夫さんの生涯 | モロタイ島から発見された「元日本兵」中村輝夫さんの生涯を通して、日本占拠時代の台湾統治の実態を学ぶ。 |
| 台・韓・比・日、四国高校バスケットボール大会について | 台湾で行われた四国対抗バスケットボール大会で日本チームは「マナーの良さ」を絶賛された。台湾の人々の「日本」に対する見方や、スポーツや文化交流を中心にした、現在の日台交流の状況を知る。 |
| 北廻鉄道の開通 | 台湾中央山脈が海岸まで迫る、きびしい大自然を開発した鉄道建設。難工事の末に開通した鉄道を通して、発展する今日の台湾の状況を知る。 |

(見学に関するものと、学習に関するものの中から一部抜萃した)

オーストラリアでは、国際化などという言葉を聞いたことはありませんが、ひとりの日本人の子どものために、先生をはじめ多くの方々が払ってくださった並々ならぬ努力、異質の文化圏で育った生徒を、ごく自然に暖かく受け容れるという包容力の大きさの中に、真の実践的国際化を見たように思いま

す。

教育現場における国際化の重要性を考え、私達は、岡山県海外日本人学校帰国教師の会（会長：西崎正明氏）と協力し、活動を進めております。

連絡先

〒700 岡山市津島本町 2-32

☎0862・53-6914

海外帰国教師と国際理解教育

岡山市立岡北中学校 三宅正勝

海外帰国子女、この言葉も市民権を得た。今かれらには手厚い保護がなされている。

私は海外日本人学校の教員（岡山県第1号）として西ドイツに派遣され、1975年に帰国した。当時この言葉は一般には通用せず、海外からの帰国者は奇異な眼で見られたものだ。

私の2人の娘も、3年間を外国で過ごしたということで長女は高校を1年遅らすことを余儀なくされ、次女も適応に少し暇がかかった。後日、彼女らの書き物を見て“まるで異なる星からの来訪者のように、教室の窓越しにのぞく子”がいたり、“ドイツ語をしゃべってみよ”と強要した生徒がいたことがわかった。「いちいち泣き言を言わなかっただけで、いろいろあったわよ」というのが彼女らの弁である。

ところで、私達帰国教師は「国際理解教育研究会」を作り、帰国子女の世話をしているが、岡山県下において、特別な問題は発生していないと思っていた。しかし、探してみると帰国子女の悩みは多く、かれらは日本への適応・進学・いじめの問題を抱えこんでい

たのである。

そこで、1983年海外帰国子女の親が集まり、「岡山県帰国子女の会・もたろう」を誕生させ、教師ともども種々の問題を解決することになった。

まず、進学問題であるが、中学3年生で帰国する生徒に対しては、岡山県の入試情報を提供したり、実力テストの問題を外国で解いてもらい、得点を県内の受験学区の成績に照合するなど不安解消に役立つように配慮している。

また、海外校では、3学期の早い時期に卒業式をすませて、日本に帰国させるので、帰国した土地の中学校に一時入学させていただき、日本の進学体制に慣れさせることにしている。

最近になって、県下のおもな私立高校（一部大学でも）では帰国子女の受け入れに格別の理解を示されるようになった。さらに、県立高校においても「国際コース」を新設され帰国子女の進学に便宜を図るなどかれらに温かい手をさしのべて下さっている。このように、時代にマッチした教育行政が施されていることは、よろこばしいことである。

次に、いじめの問題と、日本人の発展途上国への偏見について一言しておきたい。

帰国子女に対しては、せん望まじりのいじめが代表的であるが、欧米からの帰国者の場合とアジア・アフリカからとでは、日本の子ども達の対応の仕方が異なっているのである。

A・A諸国からの子女に対しては、「インド人！」とか「黒んぼ！」など

といった言葉を浴びせかけたり、先進国からの子どもに対しては、「ええカッコするな」などと、しつとのおおを燃やす。国際化時代の今日、こうした狭い見方は困ったもの。海外帰国子女は国際化社会の宝と言われているから、私達はかれらの国際体験を日本の教室で生かしてやるだけの、度量と技術とを持ちたいものである。

〔岡山市教委：指導と研修掲載〕

海外日本人学校派遣教員の心得

コロンボ日本人学校
岡山市立平福小学校

沼 本 泰 知

昭和60年1月現在、海外日本人学校76校、日本語補習授業校102校。それに企業立校を合わせると191校(子女36.223人)となる。これらの学校に、974人の派遣教員が送りこまれている。(岡山県からは延51人…大洋州以外は全世界)

募集要項は、毎年5月下旬に各学校に届けられるので、それを参照されたいが、以下、派遣教員として海外勤務

を終えた者のひとりとして、ささやかな体験を通して気のついたことを述べてみよう。

1. 実態 全国的にみると、東京都は競争率が40倍にもなっているが、岡山県は毎年定数をやや下回っている。年令別にみると30~35才・40~45才の方々が圧倒的に多い。これは①子供の学令のことを考慮して、幼児または低学年のうち勤務を終えるか

小学校を終えるあたりで帰国できる
ように応募していると考えられる。

②経済的には、内地の給与を住宅資
金に回すという例が多く、土地購入
あるいは住宅建築またはローンの返
済に当てる方々が多い。

管理職の場合は、ひしめく50代の
生存競争の中で新天地を求める人、
あまりに複雑な人間関係や管理責任
を考えて…など様々であるが、子供
も一応手を離れた50才なかばの教頭
が校長として応募する場合がほとん
どである。(教頭歴2年以上で資格
が得られる・海外日本人学校で教頭
が置かれているところは極めて少な
い等の理由もある)

私は、決して蓄財目的を否定する
ものではないが、派遣の目的をはっ
きり自覚し、その学校のため、海外
に学ぶ子女のために全力をあげて尽
すことが大切であると思う。現に、
毎年相当な数の教員が強制送還され
ている。(アジアだけで平均11人)

2. 応募 派遣先を特定することはで
きないわけであるから、世界中どこ
へ派遣されてもびくともしない心身
の持主でなければならない。

応募の段階で、家族や近親者とよ
く話し合い、特に親や子を残すとか
田畑や家屋の管理については、はっ
きりさせておく必要がある。

3. 出発準備 ①荷物は、生活上のも

のと職務上のものが必要で、不明な
ものはメモしておき、まとめて現地
に国際電話で尋ねるのがいちばんよ
い。(時差を考慮して)その際、教材
や資料などのぜひ運んでほしいもの
についても注文を受けてあげれば喜
ばれる。さらに、出発直前にもう一
度落ちはないか確認すれば安心であ
る。

- ① 学令期の子供を同伴する場合は、
海外子女教育振興財団に連絡をとり、
教科書の給与(無償)を受けると共
に、現地日本人学校(補習授業校)
入学の心得や注意等を知り、持参す
る学用品を整える。
 - ② 船便の到着は、着任よりかなり後
になるので、赴任と同時に必要なも
のは手に下げて行く。(1人20Kgま
で)
 - ③ 出発に際し、事後の連絡や荷物の
追加発送などをお願いできる人を探
しておくことも忘れてはならない。
 - ④ 東京にて…文部省・外務省・海外
子女教育振興財団の挨拶回りをする。
特に赴任中は財団の世話になること
が多いので、ぜひ挨拶に出向くよう
にする。
4. 着任 忘れがちなのは、前任校(
と言っても籍はある)・地教委・県
教委への安着の報、無事赴任の連絡
である。

3. 勤務 ① 派遣教員は、全国から

寄り集まりでそれぞれ3年経ったら赤の他人になる、協力とか団結とか意志統一はできにくい体質である。その中で「和」を保ちながら如何に自分の夢を実現していくか、現実をふまえてしっかりと3年間の計画を立てねばならない。旅行もゴルフも結構であるが、本分を見失ったら自爆してしまう。

② 派遣教員は、地教委・県教委・文部省と厳しい選考をパスして派遣されたということで、自分はエリートだと錯覚している者がある。もともと応募者の中での選考であり、現地での実績だけがものを言う社会である。

③ 派遣先が小規模校である場合は、複式授業とか中学部の免許外授業を命ぜられる。管理職にあっては、学級担任や相当数の授業を持たなければならない。(私の場合…中学部複々式担任、週16時間の授業)また、小規模校へは、配偶者が免許を持っている者を派遣し、現地採用教員として勤務を要請するケースがある。

④ 学校には、現地職員(教員・事務員・運転手・用務員・警備員など)なども勤務しているわけで、仮にも校内でその国の政治や文化を批判するようなことがあると国際問題に発展しかねない。「その国に日本人学校を設置させてもらっている」こと

を片時も忘れてはならない。

⑤ 現地の義務教育諸学校は、土曜日を休んだり、午後の授業が無かったりするが、われわれは日本人を対象に文部省指導要領に則り、日本の教育をしているので、使用人の労働時間の難問もあるが、はっきり一線を画さなければならない。

⑥ 保護者の意識は、学力最優先で受験競争しか頭にない内地指向型と、またとない海外体験を重視する現地指向型の両極が多く、いくら両者が話し合っても結論は出ないが、教員として軽はずみを発言は謹しむべきである。

⑦ せっかく大志を抱いて赴任した日本人学校であるから、何か一つ学校のために残したいもの、私たちは小学校3,4年社会科副読本「わたしたちのコロンボ」を作り上げた。

6. 生活 ①衣食住のすべてにわたって赴任と同時に急変するし、時差ぼけもあって一時は体調がくずれるが、先輩のアドバイスに従うこと。夫人は家庭にあって1日中現地人と生活しカルチャー・ショックも大きい。細かい心遣いが必要である。

② 商社員・大使館員などは、商用・公務・休暇等で寝々帰国したり海外へ出張したりするが、派遣教員は原則として、途中で帰国したり海外へ出かけることは認められていない。

システムが違うので、決してうらやましがったりねたんだりしてはならない。

- ③ 特定の子どもの家庭と担任教師の家庭とが親密になり、食事を共にしたり宿泊を伴う旅行に出かけたりして非難をあげる。常に公私の別を明らかにし、公平な接し方に注意する。
- ④ 海外での生活は、パーティーをはじめ、すべての行動が夫婦同伴になる。お互いの間が見えすぎて悲劇が起こるケースがある。海外でこそ助け合わねばならぬのに…
- ⑤ 現地の人との交際は、なかなか相手を見抜くことがむずかしく、往々にしてこちらが利用されたり騙らされたりという結果になりがちである。
- ⑥ 国際社会では、先ず相手の文化や習慣に従い、その良さを積極的に認めていく態度が大切で、日本文化のものをさして相手を評価するようなことがあってはならない。
- ⑦ ある商社マンが、金のプレートに氏名・日本の住所・血液型・電話番号を刻印して首からぶら下げているのを示しながら「いざという時には日本で眠りたいですからね。」と笑った。いくら治安のよい国へ派遣されても、みんなその覚悟で働いているのである。

7. 帰国 かつて、ピストル持込事件

を起こした派遣教員があったが、その国の文化財や美術品などを持ち出した例もある。心すべきことである。

〔岡山市教委：指導と研修掲載〕

第 2 回 国 際 フ ィ ル ム 鑑 賞 会

◆◆◆ 世 界 の 国 々 を 見 よ う ◆◆◆

主 催 岡 山 県 国 際 理 解 教 育 研 究 会
(岡 山 県 婦 国 教 師 の 会)

ご 案 内

「岡山県国際理解教育研究会」というのは、3年間にわたって海外の日本人学校に派遣された経験を持つ教師の集り、「婦国教師の会」とも呼んでいます。私たちは、派遣されたそれぞれの国で、いろいろな体験をしてきました。

この目で見てきた世界各地のありのままの姿を持ち寄って、みんなで確めながら、国際化時代に向けてさらに視野を広げていきたいという願いをもって、このフィルム鑑賞会を計画しました。

今年は第2回目です。3月に帰国したばかりの教師たちが持ち寄る、最新の世界の国々からの映像は、きっと皆様方にご満足いただけるものと思います。

この機会をどうぞお見逃しなく、皆様のご参加を心からお待ちして、ご案内申し上げます。

記

- | | |
|--------|---|
| 1. 日 時 | 昭和61年11月30日(日):午前10時~正午 |
| 2. 場 所 | 岡山市立中央図書館(岡山市二日市) |
| 3. 行 事 | ・あ い さ つ ・フィルム映像鑑賞 ・話し合い(茶話会) |
| 4. 会 費 | 無 料 |
| 5. 内 容 | ① メソポタミアの遺跡……バグダッド日本人学校 市原誠二 ② ナイジェリアの紹介……ラゴス日本人学校 秋本賢治 ③ シンガポール風景……シンガポール日本人学校 乗峯憲悟 ④ サハラ砂漠の旅……アルジェ日本人学校 垣見憲治 ⑤ ブラジルの自然と人間……ウイトリア日本人学校 内藤光啓 ⑥ リオの風物……リオデジャネイロ日本人学校 守屋俊憲 ⑦ アメリカ人の愛国心……シカゴ日本人学校 鈴井 清 |

気苦労しました：第2回国際フィルム鑑賞会

北京日本人学校
岡山市立加茂小学校

黒田忠男

帰国者歓迎会の席で、昨年のフィルムフェスティバルについて報告し、今年も第2回目をぜひ開こうと決めたのは6月14日のことであった。今回の帰国者は、アジア・アフリカ・ヨーロッパ中近東・南アメリカと多彩で、きっとすばらしいフィルム会ができると期待していた。11月の最後の日曜日という日程も決め、皆さんに協力をお願いしたところ、快く賛同して下さったので安心し喜んでいた。

その後、何回か役員が集って会の運営について相談した。今年アフリカのアルジェから帰国されたばかりの垣見先生が手伝って下さることになって、心強く思った。

今年は岡山市立中央図書館を会場にして、幅広く一般の市民の方々にも見ただけということになり、さっそく中央図書館へ出かけて行き、会場の下見をした。ここの視聴覚室は、スライド映写機・8mm映写機・ビデオ拡大投射機などすべて完備しているし、スクリーンを見ながら遠隔操作でコマ送りができるようになっていて、驚く

ばかりの設備の部屋であった。ここの森谷課長さんと井本指導主事さんがたいへん親切にめんどうを見てくださり、当日も機械のことは全部ここの井本先生にお世話になることにした。

今年の帰国者を中心にして、最新のフィルム映像を揃えようと考え、返信用葉書を同封してお願いしていた返事がぼつぼつ集って来たのを見てあわてた。7人の帰国者のうちOKをくださったのは4人だけである。3人の方は都合がつかなくて辞退してこられた。困った、仕方がない、急拠、昨年度の帰国の方々に電話をかけて、フィルムの提供をお願いした。何人かの方々が協力して下さることになり、やっと安心したのが1週間前のことである。それでも、急なことで当日になって来られない人ができた場合のことを考え、私も前日になっていくつかのフィルムを用意しておいた。

『国際フィルムフェスティバル』という呼び方は、あまりにも大げさで気恥ずかしいので、勝手に「国際フィルム鑑賞会」と改称し、1か月前から、

案内状をたくさん印刷して手分けをして各方面に発送した。役員の皆さんが積極的に協力してくださったので、この方は手際よく運んだが、いちばん心配したのは、当日に何人くらいの人が見に来てくださるのかということだった。役員の中には、当日は公務で出張だという人が多く、岡山市内の会員さえどのくらい参加してくれるのか見当がつかない。2,3日前から電話をかけて、来てくれるように頼んだが、いい返事はあまりなかった。

こうなっては止むを得ない。出たとこ勝負だと覚悟を決めてその日の朝を迎えた。図書館の開館は午前10時で、開会の時刻も10時としている。これでは一般の市民の方々に見ていただけるかどうか、はなはだ心許ない。しかし、昼過ぎには終わらないと困る。本当にぎりぎりまで気をもむことであった。

それでもぼつぼつフィルムを持ってきた会員や世話をする役員が集り、準備ができたころには、気がついてみると見知らぬ顔もだいぶ集っていた。

会場には、パネル写真や、サハラ砂漠の砂などが展示され、集った人々の目を引いた。フィルム上映は、一人が15分以内に終わるようにお願いしていたが、よく協力していただけたので、プログラムはスムーズに進み、予定していた時間内に終わることができた。

ただ、休憩なしで続けて映し説明していただいたので、質問など受けて話し合いながら進めた昨年のような運営ができなくて残念であった。

正午過ぎに終了して、参加者に感想を求めたところ、いい企画で、珍しい映像を見せていただいてよかったという市民の方々の声があり、いろいろ苦労したことがやっと報われたと思って嬉しかった。新聞の記事を見て知ったという人、図書館に置いてあったチラシを見て楽しみにしていたという人など、いろいろであったが、やはり宣伝に努力すれば一般の参加者を増やすことができるし、現に来てくださる人はいるものだという確信が持てた。散会后、一般参加者を混えていっしょに昼食を食べながら、今後の進め方について話し合った。

今日のために飛島からわざわざ出てきてくださった秋本先生は、この後すぐ笠岡経由で飛島へ向って出発して行かれた。県内各地に散らばっている帰国教師が力を合わせて、国際理解のために地道に努力していくことが私達の大切な役割であり、今日その一步を進めることができたことにみんなで満足して別れていった。

4 - 4 1 2

残暑御見舞申上げます。

会員の皆様には二学期の準備にお忙しいことと存じます。

さて、本会発行の「国際理解第4号の原稿募集のメ切(8月末)も迫っています。できるだけ多くの御投稿をお願いします。写真とその説明(フォーエッセイ)も歓迎、ここ1,2年に帰国された方はぜひ新しい情報をお寄せくださるようお願いいたします。

また、「国際理解教育とは何か」

「本会の活動はこれでよいのか」

について、返信ハガキに御記入ください。「国際理解」の原稿の一部にしたいと思います。

昭和61年8月27日

岡山県国際理解教育研究会

会長 西 崎 正 明

【国際理解とは】

・ 外国を見聞して再びわが国を見直すことから始まると思います。つまり狭い見方で外国を知るのではなく、「客観的に諸国を見つめる教育」だと思います。究極的には「人類はみな兄弟、世界は一つという観点に立つ教育」

・ 多くの問題点があると思います。

① 教育として 学校教育
社会教育

② 行政として①を考える場合
○教える側の問題

・ 何を教えるか ・ 誰に教

えるか、どのように教えるか、このあたりの勉強から始めなければ、先へ進まないのでは？

・ 「自国の文化を見失うことなく、他国の文化を理解し、時に吸収していくことをめざした教育」である。日本の歴史から見てそれは全く容易なことではない。あせらず「窮すれば通ず」の心境を持って前進、そして前進。

・ 一定の型がないというか、国内にいた時考えていたような簡単なものでないということが判って帰国しました。親善や交流会の押しつけ、独りよがりにならないよう、本当に相手(国)のことを理解する努力が大切だと思っています。「理解」というのはむつかしいものですね！

・ 先ず「身のまわりの多様性(人・物・文化・政治…)に気づくこと、気づかせること」です。

その次に「みんな同じであることの欠点・利点、てんでバラバラの良さ・悪さが理解される(身につく)よう方向づけること」でしょう。

・ 「自国が教多くの国の中の一つの国である」ことを理解させた上で、人類社会がかかえているいろいろな問題を自分の問題として受けとめる態度を身につけさせ

る教育である。

- ・ 「国際社会の中での日本と日本人の生き方を考えさせること」である。
- ・ 平和な地球であるためにひとりひとりが他に目を向け、「人間として人間らしく生きているかを確かめる教育」だと思う。

そして、「手を取り合い、語り合い、行き来できること」である。

- ・ 「国際理解」はまさに「日墨学院の建学の精神そのもの」なんです。

「違いがわかる人、その違いを越えて交流できる人を育成する」などが国際理解教育になるのではと考えます。日常的教育活動の中で実施できるような国際理解教育カリキュラムが必要ですね。東京では同好会ができていますが…

- ・ 「世界の人々から信頼され尊敬される日本人を育成する教育」
- ・ 「広い心、温かい思いやり、しなやかな感性を育て、異文化について知らせるとともに、政治・経済・文化の教育、各方面において世界の人々と交流を深めることの意義を探ること」
- ・ 「国際理解教育」とは、最終的には、「人類の福祉と世界平和に貢献できる人間の育成」であると思うが、その際、幼児期・児童期の心理的発達に即した教育が必要である。例えば次のような段階はどうでしょう。

1. 相手の文化を知ろうとする心の準備。
2. 相手の文化の存在を認める。
3. 相手の文化を理解する。
4. 相手の文化を積極的に評価する。
5. 相手の文化を共に楽しむ。

【本会の活動について】

- ・ 皆さんの経験が役立つものは何かないでしょうか？
- ・ 外国の人達の役に立つことはないでしょうか？
- ・ 帰国後1年目につき、まだよくわかりません。ただ、3年間の体験をむだにすることなく互いに生かしていけるような会でありますように…
- ・ 私自身が極めてふまじめな会員ですのでよくわからないのですが、今のところ研究会ではなくパーティー会みたいです。ごめんなさい。ではどうすべきかについては皆目見当がつきません。「政府派遣教師」を脱ぎ捨て、外国の空気を吸ったざっくばらんなおなかの底から国際理解教育を思い、燃えるような情

熱の炎をそれに吹きかけたら、何か変わるかもしれないと思います。

- もっと会員相互の集まりの機会を持つ方がよいのではないだろうか。世話人として活躍なさる方には大変でしょうが切望したいと思います。広く文化の交流を求めてforeignerとの交流会も多くすべきでは…
- 見聞録も結構ですが、現在の教育にどう生かしているか話し合っしてほしいですね。りっぱに活躍している方々も多いと思います。
- 冊子をもっと手軽なものに、4ページくらいの会報誌にしてはどうでしょうか。
- 国際理解の実践報告会を持つ（今の総会の他に）
- 国際理解教育をとりいれた研究会でもやって、みんなにPRしたらよいと思う。
- 毎年同じことのくり返し。
- 目標を持った活動ができています。
- テーマを決めて話し合うことをしませんか。
- 帰国報告会は、ぜひ続けてほしい。
- 外国人を囲んで話を聞くこともあればよい。
- 海外交流の窓口となることはどうですか。
- 他県から、あるいは本部との交歓会も…
- 岡山県の教育の先取りできる会にしたい。（教育の国際化など）
- 送別・歓迎の催し物の他に、もっと会員相互の親睦を深めるような会にならないか。（忘年会・なし狩り・新年会等）
- 小教研・中教研の中の国際理解教育部として独立する運動をすること。
- 県南（岡山市・倉敷市）に国際理解教育の県指定校を設置してもらい共同研究の場を作る。
- 中四国地区の研究組織を作る。
- 全国大会旅費1,2名・研究助成金の交渉を…
- 会長は、助成金と昇任人事に全力を傾注すること。
- 他の団体との共催（またはスポンサーになってもらい）により、国際理解教育に関する講演会・シンポジウム・展示会などを計画しては如何でしょうか。

岡山県国際理解教育研究会会則

- 第 1 条 この会は、「岡山県国際理解教育研究会」と称し、事務局を会長在任校におく。
- 第 2 条 この会は、国際理解教育・海外子女教育の進展に寄与するとともに、会員相互の親睦をはかることを目的とする。
- 第 3 条 前条の目的を達成するために、主として次のような活動を行う。
1. 国際理解教育の推進
 2. 海外子女教育に関する諸問題の研究
 3. 会員相互の親睦
 4. その他、本会の目的を達成するために適当と認められる活動
- 第 4 条 この会の会員は、次の通りとする。
1. 会 員…… 岡山県下に設置されている国公立学校等に在籍して、海外日本人学校及び補習学校に派遣教員もしくは現地採用教員としての経験を有する者。
 2. 特別会員…… 会員以外で、本会の趣旨に賛同し、入会を希望する者。
- 第 5 条 この会には、顧問を置くことができる。
- 第 6 条 この会には、次の役員を置く。 ・監査…若干名
・会長…1名 ・副会長…1名 ・幹事(会計を含む)…若干名
- 第 7 条 役員の任期は、毎年4月1日から翌年3月末までとするが、任期満了後も後任者が就任するまではその任務を行う。
- 第 8 条 役員の選考は、役員会がこれを行い、本人の承諾を得て会員に通知することをもち承諾にかえることができる。
- 第 9 条 総会は、毎年1回会長が召集する。
1. 活動報告
 2. 予算・決算の審議・承認
 3. 意見交換
 4. その他、必要と認められる事項
- 第 10 条 役員会において必要ありと認められた場合は、会長は臨時総会を召集することができる。
- 第 11 条 役員会は、必要に応じて会長がこれを召集する。
- 第 12 条 会員は、年会費 2000 円を会に納入するものとする。
- 第 13 条 この会の経費は、会費及びその他をもって支弁する。
- 第 14 条 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第 15 条 会則の改正は、総会で出席者の3分の2以上の賛成により改正することができる。
- (附則) 本会則は、昭和59年6月16日から施行する。

昭和61年度

第十回 海外派遣教師の集い

主催：岡山県海外日本人学校帰国教師の会

昭和61年 6月14日(土)

15:00 ~ 18:00

ホテル第一イン



会のはこび

・開会

1 会長あいさつ

2 来賓あいさつ

3 総会行事

ア. 昭和60年度事業並びに
収支決算報告書について

イ. 昭和61年度役員承認に
ついて

ウ. その他

・「国際理解」の発刊について

・「岡山フィルムフェスティバル」について

4 帰国教師の報告と懇親

ハイパー

〔北京・ベレーン・ラゴス・パリ
シンガポール・アルジェ・バグダッド〕

5 閉会あいさつ



は じ め の い っ ぽ

胸張れ! 小さな力!



岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。

岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。

岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。

岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。

岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。



郷土岡山を世界へ



14カ国16都市

君の絵が、君の知らない国へ行く。 絵画募集!

Okayama-mail(オカヤマメール)

(企画のあらまし)
岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。

岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。

岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。岡山県は、岡山県庁所在地である岡山市を境として、東に瀬戸内海、西に瀬野川、南に瀬野川、北に瀬野川と接している。



子どもたちのさわやかな一步を応援します!

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 岡山県立岡山第一高等学校 | 岡山県立岡山第二高等学校 | 岡山県立岡山第三高等学校 | 岡山県立岡山第四高等学校 | 岡山県立岡山第五高等学校 | 岡山県立岡山第六高等学校 | 岡山県立岡山第七高等学校 | 岡山県立岡山第八高等学校 | 岡山県立岡山第九高等学校 | 岡山県立岡山第十高等学校 | 岡山県立岡山第十一高等学校 | 岡山県立岡山第十二高等学校 | 岡山県立岡山第十三高等学校 | 岡山県立岡山第十四高等学校 | 岡山県立岡山第十五高等学校 | 岡山県立岡山第十六高等学校 | 岡山県立岡山第十七高等学校 | 岡山県立岡山第十八高等学校 | 岡山県立岡山第十九高等学校 | 岡山県立岡山第二十高等学校 | 岡山県立岡山第二十一高等学校 | 岡山県立岡山第二十二高等学校 | 岡山県立岡山第二十三高等学校 | 岡山県立岡山第二十四高等学校 | 岡山県立岡山第二十五高等学校 | 岡山県立岡山第二十六高等学校 | 岡山県立岡山第二十七高等学校 | 岡山県立岡山第二十八高等学校 | 岡山県立岡山第二十九高等学校 | 岡山県立岡山第三十高等学校 | 岡山県立岡山第三十一高等学校 | 岡山県立岡山第三十二高等学校 | 岡山県立岡山第三十三高等学校 | 岡山県立岡山第三十四高等学校 | 岡山県立岡山第三十五高等学校 | 岡山県立岡山第三十六高等学校 | 岡山県立岡山第三十七高等学校 | 岡山県立岡山第三十八高等学校 | 岡山県立岡山第三十九高等学校 | 岡山県立岡山第四十高等学校 | 岡山県立岡山第四十一高等学校 | 岡山県立岡山第四十二高等学校 | 岡山県立岡山第四十三高等学校 | 岡山県立岡山第四十四高等学校 | 岡山県立岡山第四十五高等学校 | 岡山県立岡山第四十六高等学校 | 岡山県立岡山第四十七高等学校 | 岡山県立岡山第四十八高等学校 | 岡山県立岡山第四十九高等学校 | 岡山県立岡山第五十高等学校 | 岡山県立岡山第五十一高等学校 | 岡山県立岡山第五十二高等学校 | 岡山県立岡山第五十三高等学校 | 岡山県立岡山第五十四高等学校 | 岡山県立岡山第五十五高等学校 | 岡山県立岡山第五十六高等学校 | 岡山県立岡山第五十七高等学校 | 岡山県立岡山第五十八高等学校 | 岡山県立岡山第五十九高等学校 | 岡山県立岡山第六十高等学校 | 岡山県立岡山第六十一高等学校 | 岡山県立岡山第六十二高等学校 | 岡山県立岡山第六十三高等学校 | 岡山県立岡山第六十四高等学校 | 岡山県立岡山第六十五高等学校 | 岡山県立岡山第六十六高等学校 | 岡山県立岡山第六十七高等学校 | 岡山県立岡山第六十八高等学校 | 岡山県立岡山第六十九高等学校 | 岡山県立岡山第七十高等学校 | 岡山県立岡山第七十一高等学校 | 岡山県立岡山第七十二高等学校 | 岡山県立岡山第七十三高等学校 | 岡山県立岡山第七十四高等学校 | 岡山県立岡山第七十五高等学校 | 岡山県立岡山第七十六高等学校 | 岡山県立岡山第七十七高等学校 | 岡山県立岡山第七十八高等学校 | 岡山県立岡山第七十九高等学校 | 岡山県立岡山第八十高等学校 | 岡山県立岡山第八十一高等学校 | 岡山県立岡山第八十二高等学校 | 岡山県立岡山第八十三高等学校 | 岡山県立岡山第八十四高等学校 | 岡山県立岡山第八十五高等学校 | 岡山県立岡山第八十六高等学校 | 岡山県立岡山第八十七高等学校 | 岡山県立岡山第八十八高等学校 | 岡山県立岡山第八十九高等学校 | 岡山県立岡山第九十高等学校 | 岡山県立岡山第九十一高等学校 | 岡山県立岡山第九十二高等学校 | 岡山県立岡山第九十三高等学校 | 岡山県立岡山第九十四高等学校 | 岡山県立岡山第九十五高等学校 | 岡山県立岡山第九十六高等学校 | 岡山県立岡山第九十七高等学校 | 岡山県立岡山第九十八高等学校 | 岡山県立岡山第九十九高等学校 | 岡山県立岡山第一百高等学校 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|